

徳島県立博物館年報

第21号（平成23年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 21 (for the fiscal year of 2011)

目 次

徳島県立博物館の使命

I 展 示

1. 常設展 3
2. 企画展 5
3. 特別陳列10
4. 館外での展示12
5. 常設展の更新及び活性化に向けての
取り組み13
6. 展示関係出版物13

II 普及教育

1. 普及行事14
2. 学校教育支援事業18
3. 博物館友の会21
4. 県民参画活動の推進22
5. 普及教育関係出版物22
6. 徳島新聞「こども新聞」への協力23

III 情報の発信と公開

1. 博物館の広報活動24
2. テレビ・ラジオへの出演等24
3. インターネットによる情報提供25
4. 外部ネットワークとの連携26
5. 情報システムの概要26

IV シンクタンクとしての社会貢献

1. レファレンス業務28
2. 各種委員会委員等の受諾28
3. 講師の派遣29
4. 大学教育への寄与30
5. 学会・研究会等の運営への寄与31
6. 博物館ネットワーク32
7. 東日本大震災の被災標本レスキュー33

V 調査研究

1. 課題調査35
2. 分野別（個別）調査研究37
3. 科学研究費補助金による研究39
4. 他機関との共同研究39
5. 研究成果の公表40

VI 資料の収集・保存と活用

1. 採集資料45
2. 購入資料45
3. 寄贈資料45
4. 寄託資料47
5. 資料の貸し出し47
6. 写真・映像の提供47
7. 資料の提供48
8. 資料の交換48
9. 館蔵資料数48
10. 資料収集委員会48
11. 文献資料の収集48
12. 資料の保存49

VII 管理運営・マネジメント

1. 組織・職員51
2. 予算51
3. 防災および危機管理52
4. 博物館協議会52
5. 各種研修会への参加52
6. 視察等博物館関係来訪者53

VIII 中期活動目標と自己点検・評価

1. 中期活動目標54
2. 23年度実績と自己点検・評価60

IX 観覧者統計73

X 施設の概要

1. 沿革76
2. 施設の概要76
3. 博物館各室面積78

XI 例 規80

徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱

—県民とともに成長する博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史・文化についての資料・情報にもとづく学びの場として、県民のみなさんとともに成長していきます。

知

知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について情報を発信し、県民のみなさんとともに楽しく学ぶ場を創ります。

探

地域の魅力を探る博物館

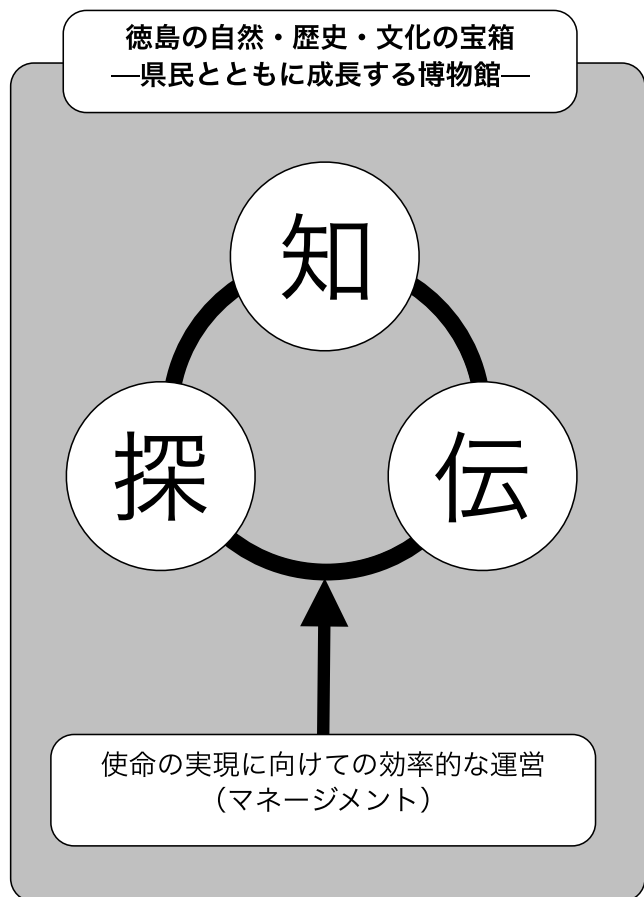
博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、地域の魅力を見つけます。

伝

未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

博物館では、効率的な運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



使命と事業の関係

- 1 知—知と出会う博物館
 - (1) 展示
 - (2) 普及教育
 - (3) 情報の発信と公開
 - (4) シンクタンクとしての社会貢献
- 2 探—地域の魅力を探る博物館
 - (1) 調査研究
- 3 伝—未来にまもり伝える博物館
 - (1) 資料の収集・保存と活用
- 4 使命の実現に向けての効率的な運営
 - (1) マネージメント（経営）

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

I 展示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然と歴史・文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。したがって、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていないなど、常設展の更新（リニューアル）が大きな課題となっている。しかし、開館20年を過ぎたものの、厳しい財政状況のもとで事業化のめどは立っていない。

企画展は、専用の企画展示室を使って行うことにしている。従来は年3回行っていたが、平成23年度は予算削減等の理由から2回とし、削減した1回分をより低予算の「特別陳列」に変更した。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がり資料の展示など様々なテーマをおりませ、2、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。しかしながら、年々企画展予算が削減され、規模の大きな企画展の開催は難しくなっている。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：近世の焼き物／なつかしいモノたち／鳴門の塩業資料 など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

メガテリウム全身骨格（レプリカ）

パノクツス全身骨格及び甲羅

マクラウケニア全身骨格（レプリカ）

トクソドン全身骨格（レプリカ）

スミロドン全身骨格（レプリカ）

ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）

ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成20年度から、多様な資料の公開をはかるため、自然史関係の展示も行っている。

●節供の道具

前年度（3月23日（水））～5月15日（日）

展示資料点数 10点（館蔵資料10点）

三月節供に飾られる雛人形、五月節供に飾られる鯉幟など、館蔵資料から徳島県内で使用されたものを紹介した。

●西日本のタンポポ

前年度（3月23日（水））～5月15日（日）

展示資料点数 41点（館蔵資料19点、借用資料22点）

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークの協力のもとで、レプリカやパネルを使ってタンポポ調査・西日本2010の成果を県民に紹介した。

●食

5月17日（火）～7月10日（日）

展示資料 61点（館蔵資料61点）

「たべる」ことは、人間が生きていく上で欠かすことのできない日常的な行為である。それだけに、生活

4 展示

の中で使われてきた食事の道具、調理の道具もたくさん残されている。こうした道具は古くから作られ、移り変わってきた。また、食材となった動植物は、栽培、採集等により入手したものであることは、今も昔も変わらない。この展示では、館蔵資料を中心として食生活のさまざまな側面を紹介した。



「食」の展示風景

●四国のコウモリ

7月12日(火)～9月4日(日)

展示資料点数 208点(館蔵資料8点、借用資料200点)

香川県小豆島出身のコウモリ研究者、故森井隆三氏のコレクションから、香川県産のコウモリ類を中心にコウモリの特徴や分類、生態について紹介した。NPO法人四国自然史科学研究センター、NPO法人みんなでつくる自然史博物館・香川との共催。



「四国のコウモリ」の展示風景

●博物館における資料保存

9月6日(火)～11月6日(日)

展示資料点数 68点(館蔵資料68点)

実際に保存に使用される機器や、作業の様子を記録した写真パネルの展示を通して、博物館で日常的に行われている資料保存に関わるしごとの一部分を紹介した。



「博物館における資料保存」の展示風景

●中生代の化石

11月8日(火)～2月5日(日)

展示資料 101点(館蔵資料89点、借用資料12点)

中生代は、今から約2億5000万～6500万年前の時代で、古い方から三畳紀、ジュラ紀、白亜紀の3つの時代に区分される。中生代は、現在から比べると非常に温暖な時代であり、陸上では裸子植物が大発展し、爬虫類の1グループである恐竜が隆盛を極めた時代でもある。海では、魚竜や首長竜などの大型爬虫類が生態系の頂点に立ち、アンモナイトなどが繁栄した。この展示では、三畳紀、ジュラ紀、白亜紀の時代ごとにコーナーを設け、各時代を代表する徳島県内および国内外のさまざまな化石を紹介した。



「中生代の化石」の展示風景

●都郷鐸堂の書

2月7日(火)～翌年度(4月1日(日))

展示資料点数 28点(館蔵資料28点)

徳島を代表する書家の都郷鐸堂(1858-1944)の作品や著作物を通して、彼の事績を紹介した。

(3) 阿波の近世絵画の展示

「藩政のもとで」のコーナー内で展示替えを4回行い、以下の作品資料を展示した。

- ・祖谷葛橋図(藤重春山筆)1幅・阿波鳴門図(藤重春山筆)1幅
- ・月に芋図(鈴木其一筆)1幅
- ・柏鷹図(載君筆)1幅
- ・山水画賛(柴秋邨筆)1幅・秋邨五十年祭資料3点

(4) トピックコーナーでの小展示

平成23年度は、次の展示を行った。このコーナーの更新は計画化せず、適した展示内容があるときに、随時行った。

●四国に初めて漂着したトグロコウイカ

前年度(2月26日(土))～4月30日(土)

●約40年ぶりに牟岐町で発見されたアンモナイト化石

5月1日(日)～8月31日(水)

展示資料点数 12点(館蔵資料12点)

牟岐町楠之浦から発見されたアンモナイトのゴードリセラスト、その他の関連するアンモナイト化石を展示した。



「約40年ぶりに牟岐町で発見されたアンモナイト化石」の展示風景

●外国からやってきたカメムシ

9月1日(木)～平成24年1月22日(日)

展示資料点数 15点(館蔵資料15点)

近年徳島に侵入した外来ゲンバムシ類の分類や生態を紹介するとともに、現在実施している調査の経過を展示した。



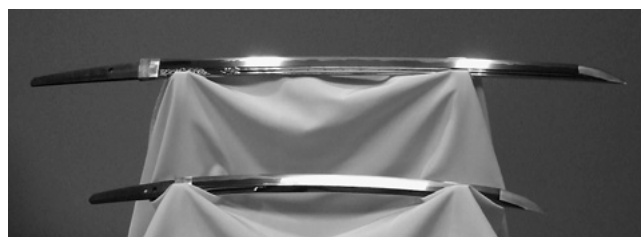
「外国からやってきたカメムシ」の展示風景

●藩医の家に伝えられた刀剣

1月24日(火)～翌年度(6月14日(木))

展示資料 2点(館蔵資料2点)

徳島藩医の興津家に伝来し、当館に寄贈された刀(銘〈表〉国広自為無銘国正切之〈裏〉寛永九年二月日)および脇指(銘国広)の2口を展示した。



「藩医の家に伝えられた刀剣」の展示風景

2. 企画展

平成23年度は、次の2回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展

「人形★ひとがた一祈りから遊びまで」

人形は、人を象ったつくり物である。古くは、縄文時代の土偶に遡ることができ、古代には「ひとがた」と称された呪術に用いる形代であった。後には、祓い、依代、託宣、祈祷、守護、信仰、祝儀など多目的、多用途で使われる人形へと変化してきた。また、呪術、信仰的要素だけでなく、遊び、芸能、祭礼など、庶民生活のさまざまな場面に人形が登場するようになった。阿波人形浄瑠璃で使われる人形頭も、こうした人形の一つとして位置づけることができる。

この企画展では、暮らしの中に見る人形の諸相と歴史性に着目し、人形の本質に迫ろうと試みた。人形は時代を通じてつくられ、使われてきた。身近にある人

企画展

～祈りから遊びまで～

いどしえからの人形、大舞台!!

にぎょう

人形☆ひとがた

2011 4/23(土)～6/5(日)

会場:徳島県立博物館企画展示室

●開館 9:30～17:00
●休館日 月曜日
●観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円
※20名以上の団体は2割引／土日祝日の小中高生および学校教育での利用は無料

文化の森総合公園 〒770-8070 徳島市八万町向香山(文化の森総合公園)
徳島県立博物館 Tel 088-668-3636 Fax 088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.jp

Traditional dolls & Hitogata

人形は、人をかたどったつくり物です。古くは、縄文時代の土偶にさかのぼることができ、古代には「ひとがた」と称された呪術に用いる形代でした。後には、戴い、依代、託宣、祈禱、守護、信仰、祝儀など多目的、多用途で使われる人形へと変化してきました。また、呪術、信仰的要素だけでなく、遊び、芸能、祭礼など、庶民生活のさまざまな場面に人形が登場するようになりました。阿波人形浄瑠璃で使われる人形頭も、こうした人形の一つとして位置づけることができます。この企画展では、身近にあるさまざまな人形のつかわれ方を紹介します。

1.阿波人形と人形師

阿波人形浄瑠璃でつかわれる木偶人形は、阿波の人形師によってつくられた人形です。この人形は広く流通し、用途をかえてつかわれることもあります。



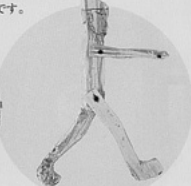
ヨベヤサンヒョウスケサン (瀬戸内海歴史民俗資料館蔵)

2.呪術と信仰の人形

流したり、焼いたりして送られる人形があります。神の依代として訪れ、戴い清めをする人形もあります。病や穢れを引き受けて、福をもたらすありがたい人形たちです。



流しびに川に流すひな人形



マリネット風傀儡人形(複製) 奈良時代 平城宮跡(長屋王邸)出土 (奈良文化財研究所蔵)

3.祭りと遊びの人形

きれいな装飾をほどこしたひな人形、各地に産地の生まれた土人形やこけしなど、贈られ、集められ、飾られる人形たちです。



左:伏見土人形二人の子ども(京都府) 右:鶴形人形(鶴形焼) (いずれも国立民族学博物館蔵)

- 《関連行事》
- 5月8日(日)記念講演会
13:30～15:00(文化の森イベントホール)
演題 人形のフォークロア
講師 神野 善治氏(武蔵野美術大学造形学部教授)
※参加無料
 - 4月24日(日)「三番叟まわし」公演
14:00～15:00(企画展示室)
演者 阿波木偶箱廻しを復活する会
解説 辻本 一英氏(同会顧問)
※企画展観覧料が必要
 - 5月1日(日)/22日(日)展示解説
いずれも14:00～15:00
講師 当館学芸員
※企画展観覧料が必要

SIEN

株式会社 J.F.五芒

〒770-8006 徳島市新浜町2丁目2番64号 TEL(088)662-3341 FAX(088)662-3340

「人形★ひとがた」ちらし(写真上:表、写真下:裏)

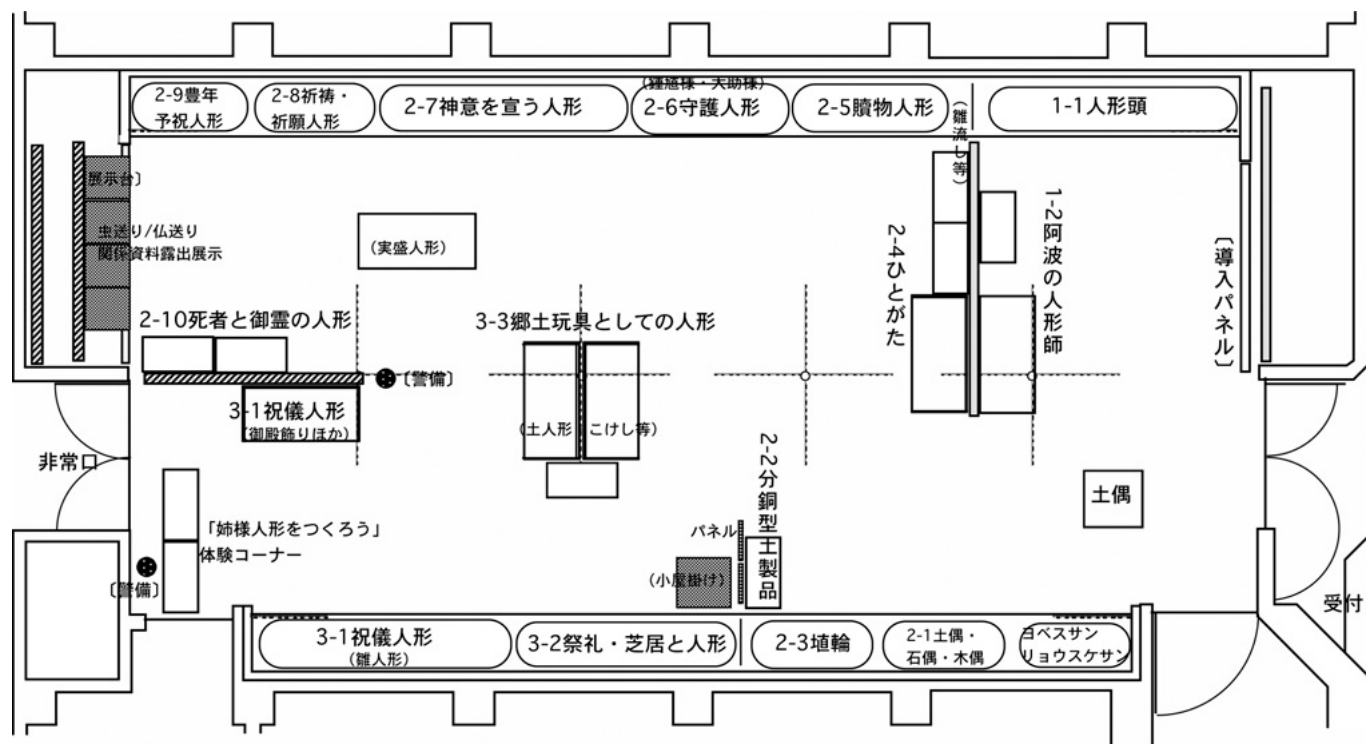
形について、改めて見つめ直す機会となるよう工夫した。

- 主催 徳島県立博物館
- 期間 平成23年4月23日(土)～6月5日(日)
(開館日数38日間)
- 会場 博物館企画展示室
- 展示構成
 - (1)人形頭と人形師
 - ①人形頭 ②阿波の人形師
 - (2)呪術と信仰
 - ①土偶 ②分銅型土製品 ③埴輪 ④人形(ひとがた) ⑤贖物人形 ⑥守護人形 ⑦神意を宣う人形 ⑧祈禱人形 ⑨豊年予祝人形 ⑩死者と御霊の人形
 - (3)祭礼と遊び
 - ①祝儀人形 ②祭礼・芝居と人形 ③郷土玩具としての人形
- 展示資料点数 648点
(館蔵資料75点、保管資料3点、借用資料570点)
- 観覧料 一般200円／高校・大学生100円
小・中学生50円
- 期間中の観覧者数 4,448人
- 企画展関連行事

- ①記念講演会
 - 演題 人形のフォークロア(民俗世界)
 - 講師 神野 善治氏
(武蔵野美術大学造形学部教授)
 - 日時 5月8日(日)13:30～15:00
 - 会場 文化の森・イベントホール
 - 参加者 42人
- ②「三番叟まわし」公演
 - 演者 阿波木偶箱廻しを復活する会



「人形★ひとがた」記念講演会のようす



「人形★ひとがた」の展示配置

解説 辻本 一英氏

(阿波木偶箱廻しを復活する会顧問)

日時 4月24日(日) 14:00~15:00

会場 博物館企画展示室

参加者 75人

③展示解説

第1回: 5月1日(日) 14:00~15:00

参加者 24人

第2回: 5月22日(日) 14:00~15:00

参加者 12人

※なお、この企画展は、平成23年度芸術文化振興基金助成金の助成を得て実施した。

(2) 第2回企画展「描かれた地震」

地震は断層が動くことによって起こる現象で、山地や湖などの地形をつくる大きな要因でもあり、四国山地は数多くの地震によって形づくられたともいえる。日本列島は、世界的にみても地震が際だって多い地域である。日本では地震を避けて生活することはできないため、すでに江戸時代には地震や地震に伴って発生する津波を描いた絵図や瓦版などが多く出版された。

この企画展では、地震が起こる原因、地形にみられる地震の痕跡などを紹介するとともに、鯨絵や南海地震の写真など、江戸時代以降の地震に関する絵画や写真の資料を紹介した。

なお、関連行事は「安心こども基金」事業の一環として行った。この企画展を機に、小・中学生やその保護者が、地震や津波およびこれらが引き起こす災害について、より深く学ぶ機会を提供することを目標としたものである。

●主催 徳島県立博物館・兵庫県立人と自然の博物館

●期間 平成23年10月21日(金)~11月27日(日)

(開館日数33日間)

●会場 博物館企画展示室

●展示構成

(1)地震と断層

①地震はなぜ起こる? ②地震はどこで起こる?

③日本列島で起こる地震の種類 ④断層の種類



「人形★ひとがた」の展示風景

徳島県立博物館企画展
描かれた地震

2011年
10/21日(金)~11/27日(日)



地震の神サマ ナマズウシ
企画展「描かれた地震」の
マスコットキャラクターです

開館時間 9:30~17:00
休館日 毎週月曜日
会場 徳島県立博物館
1階 企画展示室

観覧料 一般 200円
高校・大学生 100円
小・中学生 50円
※20名以上の団体2割引、
65歳以上半額
※土・日・祝日は小・中・高校
生無料、学校教育での利用
は無料

関連行事 多数実施！
10/23 ナマズウシ大作戦！講談+
立版古ぬりえワークショップ
10/30、11/6、11/20 展示解説
11/3 動く断層ペーパークラフト
をつくろう
11/3 鯨絵ぬりえ
11/13 野外観察会 地震と津波の
跡を見よう！

※この企画展および
関連行事は、兵庫県
立人と自然の博物館
との共催として行い
ます

徳島県立博物館
TOKUSHIMA PREFECTURAL MUSEUM

〒770-8070 徳島市八万町向香山 文化の森総合公園
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.jp/

「描かれた地震」のちらし(表)

- ⑤活断層(野島断層や中央構造線、活断層がつくる地形など)
- (2)震災
①強震動による建物などの倒壊 ②活断層のずれによる破壊 ③斜面災害 ④液状化現象 ⑤地震に伴う火災 ⑥津波
- (3)地震や津波から身を守るために
①防災パネル(徳島県立防災センターより)
②徳島と高知にみる津波への備え
- (4)安政江戸地震と鯨絵
①鯨絵とは ②鹿島大明神と鯨絵 ③損をした金持ちと儲けた職人たち ④鯨絵の時間的な変化 ⑤現代の視点から見た鯨絵
- [特設コーナー] ①東日本大震災と標本レスキュー
②ナマズウシ
- 展示資料点数 211点
(写真パネルおよび館蔵資料120点、借用資料91点)
- 観覧料 一般200円/高校・大学生100円
小・中学生50円
- 観覧者数 3,311人
- 企画展関連行事
①ナマズウシ大作戦！講談+立版古ぬりえワークシ

日本列島は、世界的にみても地震がきわだって多い地域です。私たちは日本列島にすむ以上、地震を避けて生活することはできません。自分自身や家族など大切な人の身を守るためにも、私たちは地震や震災について学ぶ必要があります。

県内や近隣地域など身近な場所にも、過去の地震の痕跡が地形や地層に残っていることがあり、今後起こる地震を知ったり、イメージする手がかりとなります。また、大きな地震はたびたび巨大な災害をひきおこすので、とくに江戸時代以降、地震や津波に関する文書や絵図、石碑などが数多く作られています。これらの資料によって、被害の様子や、当時の人々の地震に対する考え方、震災への対応などを知ることができます。

この企画展では、地震が起こる原因、地形や地層に残された地震の痕跡などを紹介するとともに、鯨絵などの絵画資料や震災の写真などを多数紹介します。

中央構造線を構成する断層のひとつ、芝生断層(三好市三野町)

展示構成
(1)地形や地質にみる地震の痕跡
(2)地震による災害
(3)地震や津波から身を守るために
(4)安政江戸地震と鯨絵

関連行事のご案内
(1)ナマズウシ大作戦！講談+立版古ぬりえ ワークショップ
10月23日(日) 10:30~11:30 および 13:30~14:30
講師：河内堂珍元斎氏(兵庫県立人と自然の博物館 地域研究員)
申込：必要 往復はがきで10月13日までに徳島県立博物館普及課までお申込みください
(2)展示解説 10月30日(日)、11月6日(日)、11月20日(日)の3回、各回14:00~
申込：不要 講師：当館学芸員 大学生と一般の方は企画展観覧料が必要です
(3)動く断層ペーパークラフトをつくろう 11月3日(祝)、10:30~、13:00~、14:00~、
15:00~の4回 講師：加藤茂弘氏(兵庫県立人と自然の博物館 研究員) 当日受付
(4)鯨絵ぬりえ 11月3日(祝) 企画展示室入り口通路で実施 当日はいつでも参加可能
(5)野外観察会 地震と津波の跡を見よう！ 11月13日(日) 7:30~18:00
高知県室戸岬~海部町方面 貸切バス利用(参加無料) 講師：当館学芸員
申込：必要 往復はがきで11月3日までに届くように徳島県立博物館普及課までお申込みください

〒770-8070 徳島市八万町向香山 文化の森総合公園
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.jp/

徳島県立博物館
TOKUSHIMA PREFECTURAL MUSEUM

博物館友の会に入りませんか
博物館友の会は、会員のみなさんが楽しく集い、博物館を利用しながら自然や歴史・文化について学び体験する会です。たくさんの方のご入会をお待ちしています。

○年会費 個人会員2000円 家族会員3000円(10月~3月の半年会員は半額)
○会員の特典 博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
借し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。
友の会行事に参加できます。(一部参加料がいるものもあります。)
友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。

「描かれた地震」のちらし(裏)

- ップ(企画展示室)
10月23日(日)
10:30~11:00、13:30~14:30
合計39人(午前19人、午後20名)
- ②展示解説(企画展示室)
第1回：10月30日(日) 14:00~15:00
参加者 26人



「描かれた地震」関連行事
「ナマズウシ大作戦！講談」のようす

第2回：11月6日（日）14：00～15：00

参加者 17人

第3回：11月20日（日）14：00～15：00

参加者 12人

③動く断層ペーパークラフトをつくろう（実習室）
 （「文化の森大秋祭り！！博物館フェスティバル」の一環として実施）

講師 加藤茂弘氏

（兵庫県立人と自然の博物館研究員）

日時 11月3日（木・祝）

第1回：10：30～ 参加者 27人

第2回：13：00～ 参加者 40人

第3回：14：00～ 参加者 31人

第4回：15：00～ 参加者 30人

④鯨絵ぬりえ（企画展示室入口の通路）

（「文化の森大秋祭り！！博物館フェスティバル」の一環として実施）

日時 11月3日（木・祝）

10：30、13：00、14：00、15：00 の計4回

加藤茂弘氏所蔵の鯨絵3枚をもとに「鯨絵ぬりえ帳」を作成し、ナマズウシ立版古とともに配布した。希望者にはその場でぬりえができるよう、机やイスを設置した。鯨絵ぬりえ帳を約250部配布した。

⑤野外観察会 地震と津波の跡を見よう！（高知県室戸市津呂山展望台、室戸岬、徳島県海陽町浅川）



「描かれた地震」の展示風景

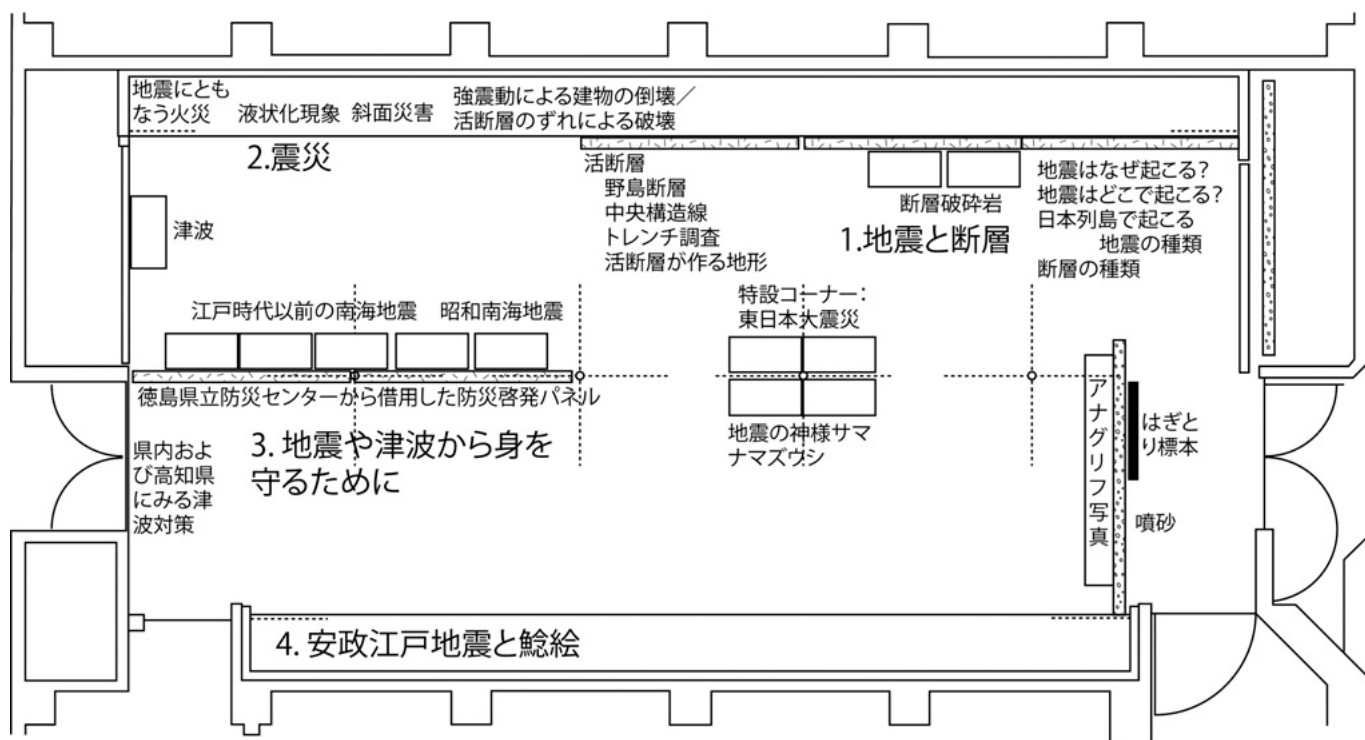
講師 中尾賢一・辻野泰之（当館）

11月13日（日） 7：30～18：00

参加者 42人（小中学生を伴う親子が9組32人）

（※）関連行事のために作成した印刷物

1. ナマズウシ立版古 A4判 モノクロ厚紙2枚組 1,000組
2. 鯨絵ぬりえ帳 A4判 カラー・白黒 112ページ 2,000部



「描かれた地震」の展示配置

3. 特別陳列

(1) 博物館の宝もの

博物館では、開館以来たくさんの県民の協力を得ながら、さまざまな資料を収集してきた。現在、資料は約49万点となり、博物館の「宝もの」、そして県民の「宝もの」として大切に保管されている。

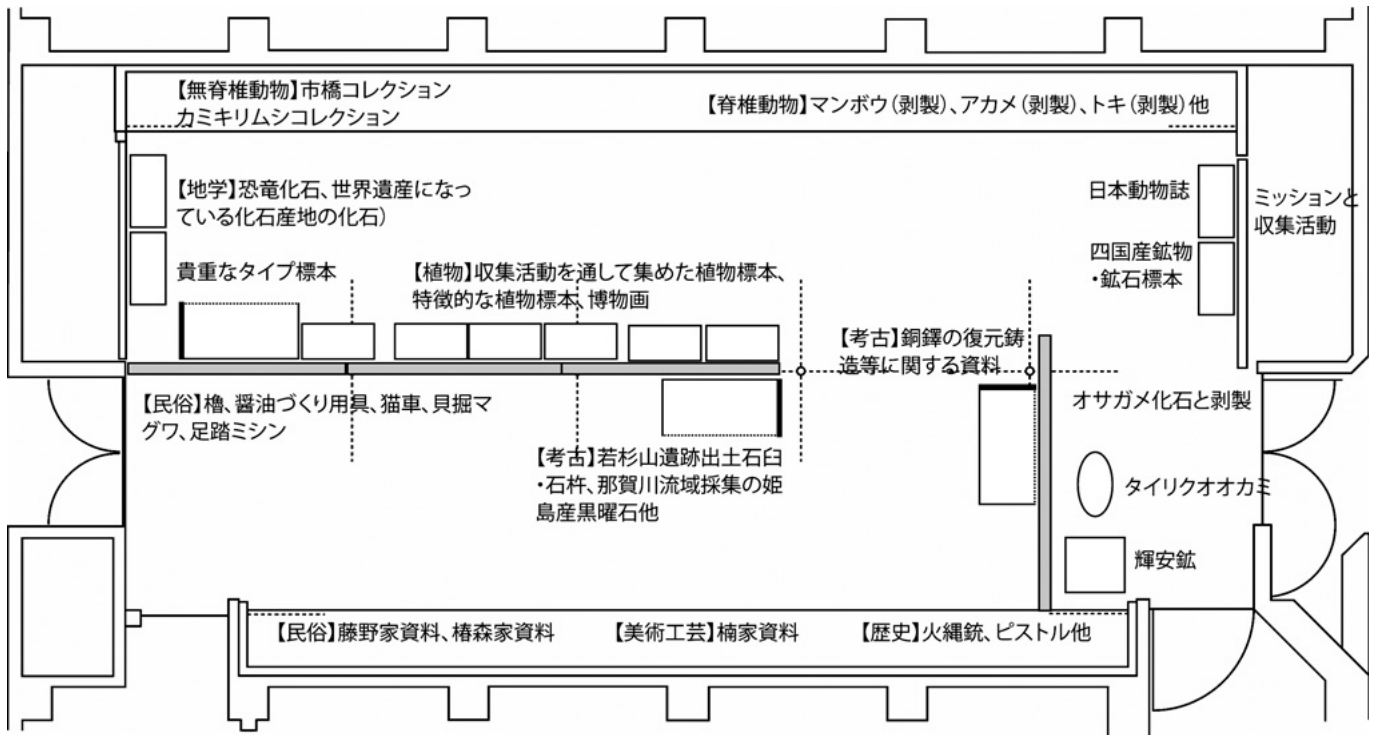
その中から、今までなかなか機会がなくて展示できなかったものを中心に、逸品を選びすぐって一挙に公開した。普段は見ることのできない「宝もの」を展示し、それらの資料のもつすばらしさを紹介した。

また、職場体験に来ていた中学生に、一部の展示レイアウトを考案し、実際に展示してもらった。



「博物館の宝もの」展示風景

- 主催 徳島県立博物館
- 会場 博物館企画展示室
- 会期 平成23年7月15日（金）～9月4日（日）
（開館日数46日）
- 観覧料 無料
- 展示資料点数 3,851点（館蔵資料3,851点）
- おもな展示資料
 - ・チョウ類コレクション（市橋氏寄贈）
 - ・カミキリムシコレクション（酒井氏寄贈）
 - ・タイリクオオカミ・トキほか動物剥製
 - ・シーボルト日本動物誌
 - ・新発見の植物
 - ・博物画関係資料
 - ・市ノ川鉱山産の輝安鉱ほか鉱物標本
 - ・四国で唯一のオサガメ化石（藤井氏寄贈）
 - ・恐竜化石
 - ・世界遺産になっている化石産地の化石
 - ・銅鐸の復元鑄造関係資料
 - ・若杉山遺跡出土石臼・石杵
 - ・幕末期の単発けん銃
 - ・逸然筆 布袋図（楠コレクション）
 - ・藤野家資料（婚礼用打ち掛けほか）
- 展示解説
 - 第1回：7月17日（日） 参加者 35人
 - 第2回：8月21日（日） 参加者 50人



「博物館の宝もの」展示配置

夏休み特別企画
特別陳列
博物館の宝もの
2011.7.15(金)~9.4(日)
徳島県立博物館 1階 企画展示室

●開館時間 9:30~17:00
●休館日 毎週月曜日
※7/18(月・祝)は開館、翌7/19(火)が休館

博物館では、開館以来たくさんの方々のご協力を得ながら、さまざまな資料を集めてきました。集まった資料は約49万点となり、博物館の「宝もの」として大切に保管しています。その中から、今までなかなか機会がなくて展示できなかったものを中心に、逸品を選びすぐれた「宝もの」を一挙に公開します。ぜひ、この機会にご覧ください。

市ノ川鉱山産の輝安鉱

■おもな展示資料
・カミキリムシコロシ (酒井氏寄贈)
・タイリクオオカミ・トキほか動物剥製
・新発見の植物たち
・博物館関係資料
・輝安鉱ほか鉱物標本
・恐竜化石
・世界遺産になっている化石産地の化石
・銅鐸の復元・構造関係資料
・若杉山遺跡出土石臼・石杵
・藤野家資料 (婚礼用打ち掛け俵か)

■展示解説
●日時 7月17日(日)・8月21日(日)
ともに14:00~15:00
●会場 博物館企画展示室
※無料です。

チョウ類コレクション(市橋氏寄贈)
幕末期の単発けん銃
いづれ までい
透然筆 布袋図(横コレクション)

徳島県立博物館
文化の森 TOKUSHIMA PREFECTURAL MUSEUM
〒770-8070 徳島市八万町向香山 文化の森総合公園
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/

「博物館の宝もの」ちらし

いずれも14:00~15:00

●期間中の観覧者数 15,336人

(2) 鳥居龍蔵の見た北東アジア

鳥居龍蔵記念博物館開館1周年記念事業の一つとして、当館との共催により開催された展示である。

鳥居龍蔵が、東京大学を退職した後、家族とともに行った北東アジア(中国東北部・内モンゴル)の調査において撮影された写真を紹介した。

●主催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・徳島県立博物館

●会期 平成23年10月29日(土)~12月4日(日)
(開館日数32日)

●会場 文化の森多目的活動室

●展示構成

10テーマに分けて写真パネルを展示した。また、参考資料として、ガラス乾板・地図を展示した。

●展示資料点数 89点(館蔵資料なし)

●観覧料 無料

●期間中の観覧者数 4,534人

(3) 鳥居龍蔵の見た台湾

鳥居龍蔵記念博物館開館1周年記念事業の一つとして、当館との共催により開催された展示の第2弾である。

鳥居龍蔵は、5回にわたる台湾調査を実施した。この調査では、日本人として初めて、人類学調査にカメラを導入し、変化の著しかった原住民族の暮らしぶりを記録したことが特筆される。

こうした鳥居自身の調査についてはもちろん、森丑之助や中島藤太郎ら協力者、伊能嘉矩や田代安定ら当時台湾調査を行った人類学者の活動についても紹介した。鳥居ら人類学者が収集した民族資料を中心とする豊富な実物資料、鳥居が撮影した写真を通じ、19世紀末~20世紀初頭の調査の様子や台湾原住民族の生活について具体的に提示できた。さらに、近年、台湾で鳥居に対する評価が高まってきていることも紹介した。

●主催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・徳島県立博物館

●特別協力 国立民族学博物館・財団法人千里文化財団

●会期 平成24年1月28日(土)~3月11日(日)
(開館日数38日)

●会場 徳島県立博物館企画展示室

●展示構成

(1)鳥居龍蔵の台湾調査

(2)人類学調査の諸相

(3)台湾原住民族の記録

(4)鳥居龍蔵の台湾調査の現代的意義

●展示資料点数 366点(館蔵資料1点)

●観覧料 一般200円/高校・大学生100円
小・中学生50円

●期間中の観覧者数 2,599人



「鳥居龍蔵の見た台湾」展示風景

- (4) 平成23年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業報告会「徳島県の三番叟まわし・えびすまわし」

徳島県地域伝統文化総合活性化委員会の委託を受けた「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会との共催で、(1)調査結果の発表と意見交換会、(2)「阿波木偶箱廻し」の実演、(3)「阿波木偶箱廻し門付け用具」と修繕・復元を行った木偶の展示公開を行った。

- 主催 徳島県立博物館／「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会
- 開催日 平成24年3月25日（日）
- 展示資料点数 34点（館蔵資料なし）
- 入場者数 260人



「徳島県の三番叟まわし・えびすまわし」の会場の様子

- (5) 文化の森 阿波おどりフェスタ「阿波おどりの絵はがき」

7月20日（水）～8月28日（日）

文化立県とくしま推進会議「萬の民の阿波おどり」協賛事業「文化の森 阿波おどりフェスタ」の一環として、所蔵する阿波おどりの絵はがきの一部をパネルにし、常設展示室入口に展示した。

展示資料 パネル16枚（すべて館蔵）

- (6) 鳥居龍蔵記念博物館 開館1周年記念事業「鳥居龍蔵の歩いたアジアの自然」

10月29日（土）～12月4日（日）

鳥居龍蔵記念博物館の開館1周年を記念し、龍蔵が調査した地域の動植物や地学標本を展示し、中国東北部のキク科植物やウラジオストック郊外の三畳紀の化石など、鳥居龍蔵の歩いたアジアの自然について紹介した。

展示資料点数 93点（館蔵資料93点）

「徳島県の三番叟まわし・えびすまわし」ちらし

- (7) 2012年度文化の森人権問題啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会（文化の森振興総局・生涯学習政策課・人権教育課）との共催で、人権問題啓発展（識字学級生の作品展）を行った。

- 主催 文化の森6館・徳島県教育委員会
- 期間 平成23年12月6日（火）～12月11日（日）
- 入場者数 383人

4. 館外での展示

■移動展

収蔵資料の活用を促進するため、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。23年度は、次のような実績があった。

●移動展「空から見た徳島」

- 主催 美波町日和佐図書・資料館、徳島県立博物館
- 会期 平成23年7月22日（金）～9月11日（日）
- 会場 美波町日和佐図書・資料館
- 入場者 1,663人
- 展示資料 パネル31枚（すべて館蔵）

5. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

(1) 常設展更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめどに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった（年報7号参照）。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアル・オープンする計画で、事業規模を縮小した基本計画案の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。

厳しい財政状況のもと常設展更新の実現可能性は乏しいものの、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていないなど、展示更新を行っていないことに対する不具合も生じ始めていた。そこで、19年度には、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた（年報17号参照）。21年度当初は、この計画案に沿いながら、22年度に可能な範囲での改善を集中的に行う「リフレッシュ事業」を実施する計画を立てたが、当初の予定を繰り上げて、平成21年度末に一部の中項目や小項目の変更を含む中規模な展示更新を行った（年報19号参照）。予算的措置を必要としない小規模な展示更新は、継続して行っている。

また、最近開館した博物館などに対する調査も継続してきており、23年度には次の調査を行った。

・リニューアルされた常設展の視察

檜原市昆虫館、国立歴史民俗博物館、高知県立歴史民俗資料館、国立民族学博物館

(2) 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展の全面更新が困難な状況にあることから、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを進めている。

しかし、購入による資料収集ができなくなっていることから、テーマ性をもったコレクションづくりが困難になっているため、展示替えを継続していくことも容易ではない。

23年度の取り組みは、次のようなものである。

①部門展示（人文）における多様な展示の展開

自然史のテーマによる展示を3回行った（西日本のタンポポ、四国のコウモリ、中生代の化石）。このうち、「四国のコウモリ」はNPO法人四国自然史料

学研究センター、みんなでつくる自然史博物館・香川との共催で行った。また、「食」は、自然・人文の複数分野にまたがる内容で、多くの分野の学芸員が協力して行った。

②阿波の近世絵画の展示替えを4回行った。

③チャレンジコーナーの継続

20年に「チャレンジコーナー」と名付けた体験コーナーを設置し、土器パズル、スタンプ、塗り絵を置いた。23年度もコーナーを継続して設置した。

④キッズチャレンジコーナーの準備

「チャレンジコーナー」を拡大・充実させた「キッズ・チャレンジコーナー」をつくるために準備を進めた。

⑤トピックコーナーの更新

平成23年度はトピックコーナーの更新を3回行った。

⑥展示解説等の促進

- ・部門展示「食」「四国のコウモリ」「中生代の化石」で展示解説を実施した。
- ・20年度に引き続いて、常設展示室内数箇所で、手作りのセルフガイドを設置・配布した。また、平成21年度より当館が紙面作成に協力している徳島新聞金曜夕刊の「みんなの知りたい なんでもQ&A」も常設展示室入口にコーナーを設けて、観覧者が自由に持ち帰ることができるようにしている（年報19号参照）。
- ・日本第四紀学会との共催イベント「新たな視点で東四国の自然の価値を発見しよう」常設展示室入口でサヌカイトによる楽器の演奏会を行った。

6. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

●第1回企画展図録「人形・ひとがた」

2011年4月23日発行、A4判68ページ、700部
友の会増刷200部

●第2回企画展展示解説書「描かれた地震」

2011年10月21日発行、A5判64ページ、600部
友の会増刷300部

Ⅱ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成23年度は、年間72回（雨天中止2回）の普及行事実施となった（他にタイズラリーを24回行った）。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきているが、やはり参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、「歴史散歩」、「野外自然かんさつ」、「移動講座」等において、郡部での開催を増やすなどの工夫を行っている。

1. 普及行事

■歴史体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

7月31日（日）火おこし	21人
8月28日（日）勾玉をつくろう	37人
9月25日（日）土器づくり①（形成）〔②とセット〕	8人
10月16日（日）土器づくり②（焼成）〔①とセット〕	7人
10月23日（日）ミニ青銅鏡をつくろう	15人
12月4日（日）ベーゴマをまわしてみよう	10人
1月22日（日）古代の乳製品をつくろう	25人
2月19日（日）トンボ玉をつくろう	16人
3月4日（日）やじりをつくろう	17人



歴史体験「火おこし」

■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

5月29日（日）古墳見学（香川）	中止
10月30日（日）伊島を歩こう	22人
11月13日（日）古墳見学（鳴門）	10人
12月11日（日）眉山山麓寺社めぐり（北麓編）	30人
3月25日（日）国府町歴史ウォーク	25人



歴史散歩「国府町歴史ウォーク」

■野外自然かんさつ

野外に出かけて行く、季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。23年度は文化の森周辺のほか、室戸市、徳島市、鳴門市、阿南市、勝浦町、那賀町、美波町、海陽町などで実施した。

4月24日（日）眉山の地質見学（徳島市）	26人
5月15日（日）磯の生きもの	68人
5月29日（日）春の植物と昆虫	中止
6月5日（日）白亜紀の地層見学（勝浦町）（※）	19人
7月23日（土）川魚かんさつ	36人
7月23日（土）セミの羽化かんさつ	36人
7月31日（日）漂着物を探そう！	41人
8月7日（日）水生昆虫のかんさつ	71人
8月28日（日）夏の植物と昆虫	24人
10月2日（日）白亜紀の地層見学（阿南市羽ノ浦）	28人
10月9日（日）河口の生きもの	23人

10月16日 (日) 秋の植物と昆虫	28人
11月20日 (日) 植物観察ハイキング	17人
2月5日 (日) 冬の植物と昆虫	22人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか5名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないで、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

6月19日 (日) ミクロの世界－電子顕微鏡で植物を見よう!① 16人

6月26日 (日) スンプでかんたん顕微鏡かんさつ 10人

7月17日 (日) 貝化石標本をつくろう 16人

7月18日 (月) 藍の葉っぱで遊ぼう 55人

8月7日 (日) 化石のレプリカをつくろう (※) 32人

8月24日 (水) 標本の名前を調べる会 44人

9月11日 (日) ミクロの世界－電子顕微鏡で植物を見よう!② 11人

9月18日 (日) ふるい絵に親しもう－軸ものとりあつかいと鑑賞－ 2人

10月30日 (日) 顕微鏡で野草かんさつ 14人

11月20日 (日) 古代文様のミニ土版をつくろう 2人

12月18日 (日) 木の葉化石の発掘体験 (※) 31人

12月23日 (金) 藍の押花ではがきづくり 28人

1月15日 (日) ミクロの世界－電子顕微鏡で小さな化石を見よう 16人

2月26日 (日) アンモナイト標本をつくろう (※)



室内実習「落ち葉の中の生きものたち」

3月18日 (日) 落ち葉の中の生きものたち 21人

■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。

7月24日 (日) 押し葉カルタと葉っぱのスタンプで遊ぼう 10人

8月21日 (日) 草や木を使った環境にやさしい紙作り 31人

11月6日 (日) どんぐりごまとウツギの笛を作ろう 12人

12月11日 (日) リースをつくろう 39人



みどりの工作隊「リースをつくろう」



室内実習「標本の名前を調べる会」

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。申し込み不要・定員先着50名。

7月31日 (日) 中世の怪異と妖怪 30人

9月11日 (日) 銅鐸にみる地域性～亀山型と呼ばれる銅鐸について～ 14人

3月11日(日) 大坂のなかの阿波・徳島～人と経済・文化の交流～ 30人



ミュージアムトーク「中世の怪異と妖怪」

■歴史文化講座(移動講座)

学芸員が講師を務め、館外の社会教育施設と共催で行う講座。23年度は5～8月に阿波海南文化村で実施し、第4回は海陽町立博物館学芸員が担当した。

5月22日(日) 文化財の科学調査 7人
 6月19日(日) 中世の写経と勸進聖 8人
 7月24日(日) 漁業移住と漁村 26人
 8月28日(日) 海陽町の民謡 9人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「人形・ひとがたー祈りから遊びまでー」関連行事

4月24日(日) 「三番叟まわし」公演 75人
 5月1日(日) 企画展「人形・ひとがた」展示解説 24人
 5月8日(日) 企画展記念講演会「人形のフォークロア」 42人
 5月22日(日) 企画展「人形・ひとがた」展示解説 12人

●企画展「描かれた地震」関連行事

関連事業はすべて兵庫県立人と自然の博物館との共催事業として実施した。

10月23日(日) ナマズウシ大作戦! 講談+立版古ぬりえワークショップ 39人
 10月30日(日) 企画展「描かれた地震」展示解説 26人
 11月6日(日) 企画展「描かれた地震」展示解説 17人
 11月13日(日) 野外観察会「地震と津波の跡を見よう!」 42人

11月20日(日) 企画展「描かれた地震」展示解説 12人

●特別陳列「博物館の宝もの」関連行事

7月17日(日) 特別陳列「博物館の宝もの」展示解説① 35人
 8月21日(日) 特別陳列「博物館の宝もの」展示解説② 50人



「博物館の宝もの」展示解説

●部門展示関連行事

6月19日(日) 部門展示「食」展示解説 19人
 7月18日(月) 部門展示「四国のコウモリ」展示解説 25人
 11月27日(日) 部門展示「中生代の化石」展示解説 6人

■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。

4月9日 62人(小 61・中 1・高0)
 4月23日 72人(小 69・中 3・高0)
 5月14日 66人(小 63・中 3・高0)
 5月28日 92人(小 86・中 6・高0)
 6月11日 95人(小 95・中 0・高0)
 6月25日 97人(小 91・中 6・高0)
 7月9日 84人(小 76・中 8・高0)
 7月23日 114人(小 105・中 9・高0)
 8月13日 124人(小 110・中 14・高0)
 8月27日 126人(小 122・中 4・高0)
 9月10日 131人(小 122・中 8・高1)

9月24日	90人 (小 82・中 6・高 2)
10月 8日	129人 (小 117・中 12・高 0)
10月22日	116人 (小 114・中 2・高 0)
11月12日	79人 (小 74・中 5・高 0)
11月26日	70人 (小 68・中 2・高 0)
12月19日	77人 (小 50・中 27・高 0)
12月23日	60人 (小 43・中 17・高 0)
1月14日	83人 (小 54・中 29・高 0)
1月21日	87人 (小 80・中 7・高 0)
2月11日	556人 (小 553・中 3・高 0)
2月25日	79人 (小 57・中 22・高 0)
3月10日	66人 (小 44・中 22・高 0)
3月24日	74人 (小 48・中 26・高 0)
参加者合計	2,629人 (小2379・中247・高 3)

■その他の普及行事

●博物館こどもの日フェスティバル

5月5日 (木・祝)

幼児から高校生を対象にクイズラリーを実施し、参加した子どもたちには記念品を贈呈した。また、体験コーナーとして、「化石クリーニング実演」「ミクロの博物館ーデジタル顕微鏡で虫や植物を見てみようー」「魚釣りゲーム」「恐竜のペーパークラフト (友の会と共同)」「すごろく広場ーりゅうぞう君のアジア大旅行すごろくー」を行った。

参加者：1,473人

●夜の博物館 ドキドキ体験ツアー (※)

8月6日 (土)

夜間の常設展示室、企画展示室、地学収蔵庫を解説付きで見学した。希望者が多かったため、2班に分けて実施した。

参加者：57人

●文化の森 大秋祭り!! 11月3日 (木・祝)

鳥居龍蔵記念博物館開館1周年記念「文化の森大秋祭り!!」として、文化の森6館による共同イベントを開催した。博物館では、「博物館フェスティバル」と題して、1階企画展示室において「鯰絵ぬりえ」、3階実習室において「動く断層のペーパークラフトをつくろう」、2階常設展示室において「動物や化石にふれてみよう」「昔の衣装を着てみよう」「どんぐり工作にチャレンジ (友の会と共同)」、鳥居龍蔵記念博物館において「日光写真を写そう」を行った。また、6館共通の「文化の森ウォークラリー」も実施した。

参加者：1,422人

●博物館Vキング 2月11日 (土・祝)

ボランティアスタッフの協力により作成した学習プログラムを中心にしたイベント (「ペットボトルでミ



博物館こどもの日フェスティバル「魚釣りゲーム」



文化の森 大秋祭り!!「タッチングコーナー」

クロの世界をさぐろう!」「テントでカメラ」「作って遊ぼう ミュージウムキューブパズル」「漂着物でプライベートビーチをつくろう!」「クイズラリー」など)を実施した。

参加者：1,402人

●「新たな視点で東四国の自然の価値を発見しよう」 (巡検) 2月4日 (土)

日本第四紀学会との共催で、バスを利用して、JR坪尻駅やイサム・ノグチ美術館、江川湧水など香川県および徳島県内の地学に関連したさまざまな場所を見学した。

参加者：15人

●「新たな視点で東四国の自然の価値を発見しよう」 (ミニ講演会と石の楽器のコンサート)

2月5日 (日)

日本第四紀学会との共催で、ミニ講演会 (9件)と、サヌカイトの楽器のコンサート (午前・午後の2回)を行った。ミニ講演会では、那賀町立相生中学校と香川県立観音寺第一高校の生徒も発表を行った。

参加者：84人

●平成23年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業報告会「徳島県の三番叟まわし・えびすまわし」 3月25日（日）
展示・研究成果の発表と意見交換会、「阿波木偶箱廻し」の実演をした。

参加者：260人

（※）の普及行事は、独立行政法人科学技術振興機構の平成23年度科学コミュニケーション連携推進事業機関活動支援に採択された「ドキドキ！地学体験」の活動として実施した。

2. 学校教育支援事業

博物館は、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる場である。また、教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合的な学習の時間」とも関連し、博物館等の社会教育機関に対して積極的な学校教育への支援が要請されるようになった。

当館でも、平成12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣（出前授業）、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えている。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業や「総合的な学習の時間」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えてきた。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく、必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言したりするなどの支援を行った。

- ①新町小学校（徳島市） 5月19日（木）
5年生 20名
化石展示解説（講師：辻野）
- ②八万南小学校（徳島市） 7月1日（金）
6年生 37名
体験学習一園瀬川の魚かんさつ（講師：佐藤）
- ③八万南小学校（徳島市） 7月1日（金）
6年生 10名

博物館についての質問教室（講師：茨木・辻野）

- ④宮井小学校（徳島市） 7月15日（金）
3年生 15名
昆虫の体のつくりと育ち（講師：山田）
- ⑤不動小学校（徳島市） 12月2日（金）
3・4年生 45名
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ⑥内町小学校（徳島市） 12月15日（木）
6年生 29名
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ⑦八万南小学校（徳島市） 2月7日（火）
3年生 85名
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ⑧川田小学校（吉野川市） 2月28日（火）
6年生 15名
大地のつくりと変化（講師：中尾、辻野）
- ⑨牟岐中学校（牟岐町） 3月15日（木）
1年生 30名
活きている地球－大地は語る（講師：辻野）



学校の授業での博物館利用への支援
「昔の道具とくらし」

(2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①加茂名小学校（徳島市） 4月19日（火）
6年生 68名
火おこし体験（講師：魚島）
- ②文理小学校（徳島市） 4月21日（木）
6年生 53名
火おこし体験（講師：魚島）
- ③川島小学校（吉野川市） 5月10日（火）
6年生 46名

- 火おこし体験（講師：魚島）
- ④大野小学校（阿南市） 5月27日（金）
6年生 27名
火おこし体験（講師：魚島）
- ⑤坂野中学校（小松島市） 6月3日（金）
2年生 103名
平和学習（講師：長谷川）
- ⑥一宮小学校（徳島市） 6月15日（水）
全学年 77名
水辺の教室（水生生物観察会）（講師：山田）
- ⑦広野小学校（神山町） 7月8日（金）
4～6年生 31名
水生生物調査（講師：山田）
- ⑧徳島中学校（徳島市） 6月29日（水）
2年生 168名
戦争と平和（講師：長谷川）
- ⑨川内北小学校（徳島市） 7月9日（土）
児童 59名、保護者 36名
親子化石のレプリカ・切り紙教室（講師：辻野）
- ⑩鴨島小学校（吉野川市） 9月13日（火）
4年生 75人
昔の道具について調べよう（講師：磯本）
- ⑪津田小学校（徳島市） 9月14日（水）
3年生 130名
昆虫の体のつくりと育ち（講師：山田）
- ⑫宮井小学校（徳島市） 10月6日（木）
4年生 20名
昔のくらしと道具（講師：磯本）
- ⑬落合小学校（三好市） 10月18日（火）
全学年 41名
地球と宇宙、昔のくらしと道具、植物のひみつ
（講師：辻野・庄武・茨木）
- ⑭入田中学校（徳島市） 10月26日（水）
1年生 6名
水生生物の観察（講師：山田）
- ⑮富岡東中学校（阿南市） 10月27日（木）
1年生 20名
桑野川の魚類観察（講師：佐藤）
- ⑯新町小学校（徳島市） 11月9日（水）
3年生 29名
新町川たんけん～知ろう、ぼくらの新町川
（講師：佐藤）
- ⑰徳島県立聾学校小学部（徳島市） 11月14日（月）
4年生 3名
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑱羽ノ浦小学校（阿南市） 11月22日（火）
6年生 118名



出前授業「植物のひみつ」（落合小学校）

- 大地のつくりと変化（講師：中尾、辻野）
- ⑲論田小学校（徳島市） 11月24日（木）
6年生 72名
大地のつくりと変化（講師：中尾、辻野）
- ⑳川崎小学校（三好市） 12月9日（金）
6年生 3名、5年生 2名
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ㉑鴨島小学校（吉野川市） 1月12日（木）
3年生 58名
昔のくらしと道具（講師：磯本）
- ㉒藍住北小学校（板野郡） 1月16日（月）
4年生 67名
吉野川及び正法寺川の魚について（講師：佐藤）
- ㉓津田小学校（徳島市） 1月31日（火）
3年生 129名
昔のくらしと道具（講師：庄武）
- ㉔飯尾敷地小学校（吉野川市） 2月3日（金）
3年生 33名
昔のくらしと道具（講師：庄武）
- ㉕川田中小学校（吉野川市） 2月14日（火）
3・4年生 26名
昔のくらしと道具（講師：庄武）
- ㉖川内南小学校（徳島市） 2月17日（金）
3年生 45名
昔のくらしと道具（講師：庄武）
- ㉗羽ノ浦小学校（阿南市） 2月22日（水）
3年生 90名
昔のくらしと道具（講師：磯本）
- ㉘昭和小学校（徳島市） 3月2日（金）
3年生 69名
昔のくらしと道具（講師：庄武）
- ㉙宮井小学校（徳島市） 3月6日（火）
3年生 15名

昔のくらしと道具（講師：庄武）

- ⑩八万南小学校（徳島市） 3月13日（火）
3年生 85名
博物館の仕事を知る（講師：高島）

(3) 博物館資料の学校への貸出し

小・中学校および高校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸出しを行っている。学校貸出用資料リストを配布して利用を呼びかけているが、まだ利用は少ない。

貸出用資料の一層の利用促進を図るため、平成15年度末に学校貸出用資料解説シートを印刷し、小・中学校および高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し利用を勧めた。

- ①城南高等学校（徳島市） 4月22日～5月2日
貸出資料：復元青銅器（銅鐸、銅剣、銅矛、銅戈、三角縁神獣鏡）6点

使用目的：社会

- ②石井小学校（石井町） 10月4日～11月4日
貸出資料：ヒト全身骨格、ヒト骨格レプリカ、チンパンジー♂頭骨レプリカ、ゴリラ♂頭骨レプリカ、オランウータン♂骨格レプリカ各1点 計5点

使用目的：理科

- ③八万小学校（徳島市） 10月19日～10月21日
貸出資料：箱膳、羽釜、竿秤、わらぞうり、ひのし、炭火アイロン各1点

使用目的：社会

- ④福島小学校（徳島市） 10月28日～11月11日
貸出資料：化石36点（三葉虫、アンモナイト、ナウマンゾウの歯、プテロトリゴニア、シダ、サメの歯）、ボーリング資料1点、火砕流堆積物1点の合計38点

使用目的：理科

- ⑤鳴門市第一中学校（鳴門市） 11月8日～11月28日
貸出資料：ジュラ紀アンモナイト、アルバートサウルス歯、ビカリア、三葉虫、ホタテガイ化石など30点

使用目的：理科

- ⑥大松小学校（徳島市） 11月8日～12月2日
貸出資料：三葉虫、アンモナイト、サメの歯63点
使用目的：理科

- ⑦国府小学校（徳島市） 11月16日～11月24日
貸出資料：熊手、ジョレン手箕、踏み鋤、畚各1点、唐鍬2点

使用目的：社会

- ⑧橘小学校（阿南市） 12月4日～12月25日

貸出資料：火おこし道具（マイキリ）6組

使用目的：社会

- ⑨昭和小学校（徳島市） 1月13日～1月23日
貸出資料：石臼3点
使用目的：社会

- ⑩八万小学校（徳島市） 1月16日～1月21日
貸出資料：箱膳、羽釜、竿秤、ひのし、わらぞうり、炭火アイロン、たらい 各1点
使用目的：社会科

(4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校の職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- ①加茂名中学校（徳島市） 6月15日～16日
2年生 3名
②八万中学校（徳島市） 7月6日～8日
3年生 1名
③国府中学校（徳島市） 7月14日～15日
3年生 5名（写真）



職場体験の受け入れ・国府中学校3年生

(5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、教員対象の研修会を実施し、当館職員が指導に当たった。

- ①平成23年度教職員10年経験者研修
7月27日（水） 参加者 10名
・美術資料の取り扱いと調査（講師：大橋）
・やじりの製作体験（講師：高島）
②平成23年度初任者研修 企業・自然体験（郷土を知る）研修
8月17日（水） 参加者 24名
・歩いて地図づくり（講師：辻野）
・水生昆虫の観察（講師：山田）



教員のための研修「教職員10年経験者研修」

③鳴門市理科部会研修会

8月25日(木) 参加者 15名
押し葉をつかったカルタの作成と活用法について
(講師：小川)

④名西郡小学校教育研究会理科部会現地研修会

8月29日(月) 参加者 9名
勝浦町棚野立川で見られる化石についての講義と観察・実習(講師：辻野)

(6) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて教員の相談に応じることにしている。

3. 博物館友の会

●会員(平成23年度末)

個人会員(年会費2,000円)	74人
(半年会費1,000円)	15人
家族会員(年会費3,000円)	44組 149人
(半年会費1,500円)	2組 6人

●役員(平成23年度)

会長：大杉洋子
副会長：行成正昭・鳥居 喬・高島芳弘(博物館長)
幹事：多田精介・澤祥二郎・徳野壽治・松家京子・伊勢ひとみ・徳山豊
監査：石尾和仁・南部洋子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布

23年度博物館企画展の図録の印刷・頒布を行った。

「人形☆ひとがた」・「描かれた地震」・「鳥居龍蔵記念博物館展示解説」・「みんなで学ぼう！鳥居龍蔵」の印刷・頒布を行った。

②広報活動

○23年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月催し物案内、年間催し物案内などを送付した。

○友の会会報「アワーミュージアム」No. 46～48を発行し、会員に送付した。

★No. 46(2011年6月30日発行)

ハマダイコン再実験の顛末
縄文と幕末に思いをはせて
友の会行事報告 義経伝説の道ウォーク
友の会行事報告 生物画を描こう
友の会行事報告 ヨモギで草餅をつくろう
友の会行事報告 磯の生きものかんさつ
平成23年度総会の報告
新スタッフ紹介

★No. 47(2011年10月31日発行)

チョウのサナギの色の不思議
十楽寺の天井画と俳人
友の会行事報告 キャンプで自然体験！
友の会行事報告 草と虫の観察会・生物画を描こう

★No. 48(2012年2月29日発行)

旅先で見つけたちょっといいもの
友の会行事報告 秋の山陽路一泊研修
友の会行事報告 義経伝説の道ウォークⅡ
友の会行事報告 ミニ銅鐸を铸造しよう

③野外活動等

会員を対象とした行事を8行事実施した。

○磯の生きものかんさつ	4月17日(日)	21名
場所：鳴門市・竜宮の磯		
○企画展「人形☆ひとがた」展示解説	4月23日(土)	11名
場所：文化の森・博物館企画展示室		
○トコロテンづくりⅠ	5月29日(日)	
場所：牟岐町出羽島 悪天候のため中止		
○キャンプで自然体験	7月30日(土)～31日(日)	19名
場所：美波町・恵比寿須浜キャンプ場		
○草と虫の観察会・生物画を描こう	9月25日(日)	9名
場所：文化の森周辺・博物館講座室他		
○秋の山陽路一泊研修	10月22日(土)～23日(日)	33名
場所：岡山県・広島県		
○義経の道ウォークⅡ	11月20日(日)	33名
場所：板野町・東かがわ市		
○ミニ銅鐸を铸造しよう	1月15日(日)	19名
場所：博物館実習室		



友の会行事「キャンプで自然体験」

- トコロテンづくりⅡ 3月11日(日)
場所：博物館実習室 13名

④イベントでの協力

以下のイベントにボランティアとして協力した。

- こどもの日フェスティバル
「恐竜のペーパークラフト」 5月5日(木・祝)
場所：博物館常設展示室 2,172名
- 文化の森 大秋祭り!!
「どんぐり工作にチャレンジ」11月3日(木・祝)
場所：博物館常設展示室 1,769名

4. 県民参画活動の推進

(1) ボランティア企画型行事の実施

平成17年度から行っている公募ボランティアと職員との共同でのイベント企画・実施を23年度も継続した。継続ボランティア約10名のメンバーが中心となって1年間の活動を行った。また、23年度は、独立行政



博物館Vキング
「ペットボトルでミクロの世界をさぐる！」

法人科学技術振興機構（JST）の科学コミュニケーション連携推進事業機関活動支援を受けて「サイエンスフェスタ in TOKUSHIMA」の一環として、博物館ボランティアのメンバーが中心となって企画した科学体験イベントとして行った。なお、Vキングイベント当日のボランティアとして、鳴門教育大学および徳島文理大学から5名の学生の協力を得た。

活動の結果は次のとおりである。

①科学体験フェスティバル in 徳島出展

博物館ボランティアメンバーが中心となって、徳島大学で開催された第15回科学体験フェスティバル in 徳島（8月6日（土）～7日（日））に「博物館資料のミニチュアを作ろう！」というテーマで出展し、アンモナイトなどのミニチュアの型どりを行ってもらった。人気アンケートで10位になり高い評価を受けた。

参加者 1,612人（6日807人、7日805人）

②博物館Vキング 2月11日（土・祝）

次のイベントを開催した。「ペットボトルでミクロの世界をさぐる！」「テントでカメラ」「作って遊ぼう ミュージアムキューブパズル」「漂着物でプライベートビーチをつくろう！」「クイズラリー」

参加者 1,402人

5. 普及教育関係出版物

(1) 博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館藏品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ（全ページカラー）で9,000部を印刷している。

平成23年度には次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No. 83（2011年6月25日発行）

Culture Club タンポポ調査が終わりました

特別陳列「博物館の宝もの」

野外博物館 夏だ！浜辺へ行こう！

情報ボックス 約40年ぶりに牟岐町で確認されたアンモナイト化石

Q&A 徳島にも子育てをする川魚がいるって本当ですか？

●No. 84（2011年9月25日発行）

Culture Club 大塩平八郎と徳島

～大塩のルーツは阿波国!?～

企画展 「描かれた地震」

情報ボックス イモの収穫日としての社日

歴史散歩 穴吹駅から三島の古墳

Q&A ピカピカに光る銅鐸や青銅鏡が展示されていますが、あれはホンモノですか？

●No.85 (2011年12月1日発行)

Culture Club 外国からやってきた小さな侵入者

－分布を拡大させる3種のゲンバイムシ－

歴史散歩 徳島藩士の交友の証～森川宗次の遺墨墳を訪ねて～

情報ボックス 徳島の「ジンゾク」・妖怪ゾロゾロ

Q&A 重さをはかるために使った昔の道具を教えてください

●No.86 (2012年3月25日発行)

Culture Club フランスのジュラ紀・白亜紀層見学旅行記

特別陳列 海からどんぶらこー浜辺の漂着物ー

野外博物館 植物の動きが作り出す不思議な模様

情報ボックス 大名の格付ランキング

Q&A 穴喰では8月にひなまつりをするって本当ですか？

(2) その他

●年間催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したA4判チラシ。8万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したA3判またはB4判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した印刷物。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレット。

6.徳島新聞「こども新聞」への協力

徳島新聞社では平成20年4月から毎週金曜日の夕刊に「こども新聞」の掲載を開始した。博物館ではこのコーナーの執筆協力や編集協力（話題提供、校閲）を行っている。今年度、博物館の協力により掲載された記事は33本である（P40～43を参照）。

Ⅲ 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、博物館活動に関する様々な情報を発信していくことは非常に重要な活動である。最近インターネットによる情報発信も重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1. 博物館の広報活動

博物館ニュース・企画展ポスター・年間催し物案内・月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館の事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

小学校	193ヶ所
中学校	90
高等学校・その他学校	66
学会・研究所・同好会等	100
県および県教育委員会各課・機関	58
市町村教育委員会	28
公民館・隣保館	225
市町村および大学図書館	38
博物館施設等	133
宿泊施設等	46
報道関係機関等	79

●催し物案内の電子メールサービス

登録者 (22年3月末現在の登録者297名)

●報道機関への資料提供

23年度は次のような資料提供を行った(各月の催し物案内以外)。

- 4月1日(金) 企画展「人形・ひとがたー祈りから遊びまで」の開催について
- 4月19日(火) イベント企画運営スタッフの募集について
- 4月19日(火) 「博物館こどもの日フェスティバル」の開催について
- 4月19日(火) トピックコーナー「約40年ぶりに牟岐で発見されたアンモナイト化石」展示について

- 5月6日(金) 部門展示「食」の開催について
- 5月30日(月) 東日本大震災で被災した標本の修復協力について
- 6月24日(金) 特別陳列「博物館の宝もの」の開催について
- 7月1日(金) 部門展示「四国のコウモリ」の開催について
- 7月8日(金) 中学生職場体験における「博物館展示作業」の公開について
- 7月17日(火) 移動展(美波町日和佐図書・資料館特別展)「空から見た徳島」の開催について
- 8月26日(金) トピックコーナー「外国からやってきたカメムシ」の開催について
- 9月9日(金) 部門展示「博物館における資料保存」の開催について
- 10月4日(火) 企画展「描かれた地震」の開催について
- 11月2日(火) 部門展示「中生代の化石」の展示について
- 1月19日(木) 「博物館Vキング」の開催について
- 1月23日(月) 「新たな視点で東四国の自然の価値を発見しよう」の開催について
- 2月1日(水) 部門展示「都郷鐸堂の書」の開催について
- 2月24日(金) 平成23年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業)「阿波木偶箱廻し(あわでこはこまわし)」調査・伝承推進事業報告会の開催について
- 3月21日(水) 部門展示「阿波の遠洋漁業」の開催について

●文化の森橋への懸垂幕の設置

企画展、特別陳列の広報として、県に都市公園占用許可申請をして、企画展、特別陳列の期間中、文化の森橋に懸垂幕を設置した。

2. テレビ・ラジオへの出演等

博物館事業のPR等のためのテレビ・ラジオへの出

演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

- 6月1日 小川 誠 四国放送テレビ（東日本大震災で被災した標本の修復協力について）
- 6月17日 小川 誠 NHK徳島放送局（東日本大震災で被災した標本の修復協力について）
- 6月19・20日 磯本宏紀・山田量崇 藍住町ケーブルテレビ（エーアイテレビ）（部門展示「食」について）
- 7月14日 高島芳弘 NHK徳島放送局（家族でおでかけ節電キャンペーン）
- 7月24日 小川 誠 四国放送ラジオ「中四国ライブネット」（『夏休み 楽しく調べ Night』のコーナーにおける自由課題のヒントについて）
- 7月29日 小川 誠 四国放送テレビ「フォーカス徳島」（「博物館の宝もの」と植物標本を作成する意味について）
- 7月29日 板東敏之 関西テレビ放送「よ〜いドン」（『いい街おいでよ 自画自讃 旅しおり』のコーナーにおける文化の森の施設紹介）
- 8月5日 板東敏之 NHK徳島放送局（「家族でおでかけ節電キャンペーン」中の入館者数について）
- 8月10日 高島芳弘 NHK徳島放送局「とく6徳島」（「家族でおでかけ節電キャンペーン」中の入館者数について）
- 10月21日 中尾賢一 NHK（徳島）ニュース（企画展「描かれた地震」の紹介）
- 10月25日 中尾賢一 徳島中央テレビ「とくしまアート・カルチャー」（企画展「描かれた地震」の紹介）
- 2月6日 茨木 靖 FM徳島（博物館Vキングについての告知）
- 2月9日 茨木 靖 四国放送テレビ「ゴジカル」（博物館Vキングについての告知）

3. インターネットによる情報提供

(1) 電子メール

希望者には電子メール（以下メール）による催し物案内を毎月行っている（24年3月末現在の登録者317名）。

また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。平成23年度には2件の問い合わせが寄せられている。

(2) ホームページ

A. 概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。11年7月よりホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/> を開設した。18年3月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたためにホームページは <http://www.museum.tokushima-ed.jp/> に変更された。

ホームページの内容は下記のとおりである。

- ・博物館の紹介（開館日・交通案内など）
- ・展示案内（企画展、常設展）
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動（データベース）
- ・学校等への利用案内
- ・出版物（展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内）
- ・関連活動紹介（友の会、博物館協議会など）
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー（子供向けメニュー、映像コーナーなど）

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

データベースによる検索では、資料データベースでは人文、動物、植物、地学の分野ごとに収蔵資料を検索でき、資料の写真や動植物の分布図などが表示できる。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は毎月の催し物案内のように定期的に行うもののほか、各担当により随時行っている、23年度の主な追加内容については下記のとおりである。

- ・「東日本大震災で被災した標本の修復協力－陸前高田市立博物館標本レスキュー－」についての情報等を掲載した。
- ・独立行政法人科学技術振興機構の「平成23年度科学コミュニケーション推進事業 機関活動支援」における活動の助成を受けて行ったボランティア活動の記録を掲載した。

B. アクセスについて

23年度1年間でトップページに約58,500件のアクセ

●月別ホームページの総アクセス数と訪問者数

	総アクセス数	総訪問者数
4月	542,238	14,726
5月	281,592	20,050
6月	208,323	18,028
7月	159,834	16,197
8月	186,253	19,513
9月	246,916	14,501
10月	565,553	19,198
11月	513,234	16,622
12月	355,900	13,086
1月	431,930	13,549
2月	437,494	12,033
3月	406,901	12,178
合計	4,336,168	189,681

スがあった。昨年の40,000件、一昨年の44,000件と比べて1万件以上増加した。なお、月別のホームページへのアクセス並びに総訪問者数は次の表のとおりだった。

4. 外部ネットワークとの連携

当館では、平成12年度および13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業（文部科学省補助事業）に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

さらに、18年度より国立科学博物館が行っている自然系博物館における収藏品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は全国の科学系博物館のホームページの内容の横断検索で、サイエンスミュージアムネット（<http://science-net.kahaku.go.jp/>）で160館以上のホームページを一度に検索することができる。また、収藏品データの検索も準備されており、当館からは徳島県産雑草植物のデータを整備し提供した。日本語の検索および GBIF（Global Biodiversity Information Facility：地球規模生物多様性情報機構）のデータとしても横断検索できるようになった。

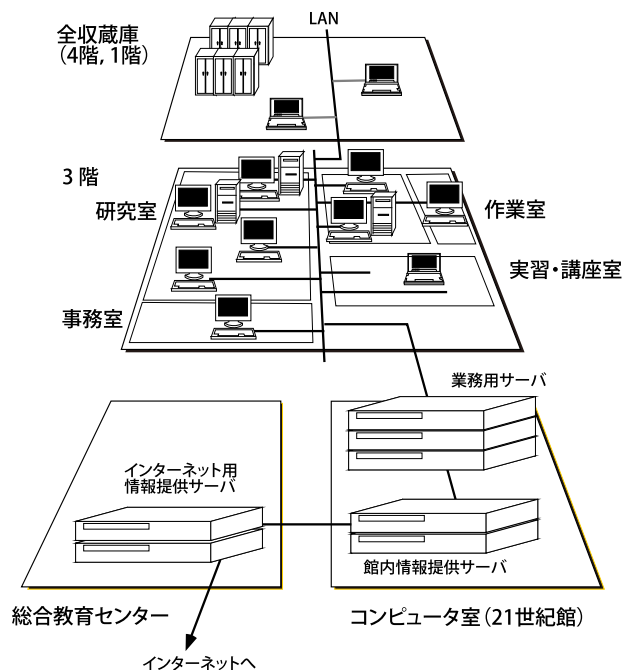
5. 情報システムの概要

平成23年度は文化の森のシステム更新（第5期システム更新）が行われた。「全館情報提供」、「各館業務」ならびに「ネットワーク基盤」の各システムの構築を行い、県民サービスを向上させることを目的とする。主な更新内容は以下の通りである。

- ・平成17年から続いていた COMET（徳島県文化・学習情報システム）から切り替え、あらたに bmori 回線を構築した。
- ・ネットワーク、サーバ機器の更新。老朽化に伴い機器を更新するとともに、管理・運営の簡素化を図った。
- ・端末機器の更新。これまでの Mac 端末から Windows 端末へ切り替えた。
- ・部門サーバの構築。従来の部門サーバの機能に対して追加や改定は行わず、従来サーバの機能範囲内で構築した。
- ・業務システム構築。従来の業務システムの機能に対して追加や改定は行わず、従来システムの機能範囲内で構築した。

基本的に従来の機能を反映させているため、業務用システムや情報提供用システムについては大幅な変更を伴わず、Windows 新サーバに移行した。

その結果、次のような構成で5期システムを運用することになった。



徳島県立博物館の情報システムの構成

①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネット(1000BaseT)のLANでつないだ。ファイルサーバ(Windowsサーバ 2008 R 2)とデータベースサーバ(FileMaker Server 11 Advanced)の2台のサーバを設置した。サーバのデータは、21世紀館に常駐するSE(システムエンジニア)によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなくノート型パソコンを活用している。

②情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築した。また、文化の森で共通で使用する全文検索用サーバを1台設置した。さらに、柔軟なデータベース公開ができるようにWindowsサーバ 2008 R 2とFileMaker Server 11 AdvancedによるWebデータベースを構築し、新聞記事データベースを公開した。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されたために、これらの情報提供用サーバを2組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部(インターネット)用は教育総合センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを用意した。

IV シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会に貢献し、また、県政の課題解決に寄与することも、博物館の重要な役割であると考えられる。博物館の他の事業に差し支えない範囲で積極的に取り組んで行くことにしている。

1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的でデータベース化している。

平成23年度に行ったレファレンス件数は480件で、分野別内訳は下表のとおり。この記録は博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないので、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが49%でもっとも多く、次いでマスコミ・

出版関係が24%、博物館・図書館・官公庁等が8%、高校生以下の児童・生徒及び教員が6%、大学（院）生・研究者が4%、その他が9%であった。

2. 各種委員会委員等の受諾

平成23年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次のとおり。

高島芳弘

日本博物館協会評議員

（平成23. 4. 1～1年間）

徳島県博物館協議会会長

（平成23. 4. 1～1年間）

徳島市立考古資料館協議会委員

（平成23. 7. 1～25. 6. 30）

佐藤陽一

徳島県ビオトープアドバイザー

（平成14. 4. 11～25. 3. 31）

東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー

（平成16. 8. 16～）

徳島県土木工事環境配慮アドバイザー

（平成19. 4. 1～26. 3. 31）

徳島県希少野生生物保護検討委員会委員

（平成21. 12. 1～25. 3. 31）

徳島県版レッドリスト改訂のための汽水・淡水魚類作業部会長

（平成21. 12. 1～24. 3. 31）

環境省希少野生動植物種保存推進員

（平成9. 7. 1～27. 6. 30）

国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー（吉野川・那賀川）」

（平成19. 4. 26～24. 3. 31）

国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安口ダム環境モニタリング委員会」委員

（平成23. 2. 8～24. 3. 31）

独立行政法人水資源機構「河川水辺の国勢調査（ダム湖）」アドバイザー

（平成23. 4. 1～24. 3. 31）

農林水産省中国四国農政局「吉野川下流域農地防災

●分野別レファレンス件数（平成24年3月31日現在）

分野	件数
動物（脊椎）	40
（無脊椎）	32
（昆虫）	139
植物	37
地学	85
考古	9
歴史	91
民俗	20
美術工芸	3
保存科学	0
その他	24
合計	480

事業に係わる河川環境調査委員会」委員
(平成24. 3 ~ 3. 31)
日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長
(平成15. 4. 1 ~)
小川 誠
徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
(平成19. 4. 1 ~ 26. 3. 31)
NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
(平成21. 4. 1 ~ 26. 3. 31)
中尾賢一
日本第四紀学会徳島大会実行委員
(平成23. 4. 12 ~ 24. 3. 31)
海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」
(平成23. 12. 16 ~)
茨木 靖
東環状大橋建設にかかる環境モニタリング調査アドバイザー
(平成16. 8. 16 ~)
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成21. 12. 1 ~ 25. 3. 31)
辻野泰之
独立行政法人産業技術総合研究所「協力研究員」
(平成23. 4. 1 ~ 24. 3. 31)
海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」
(平成23. 12. 16 ~)
山田量崇
徳島県田園環境検討委員会委員
(平成22. 1. 15 ~ 24. 1. 14)
国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」
(平成23. 5. 25 ~ 24. 3. 31)
国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安
口ダム環境モニタリング委員会」委員
(平成23. 2. 8 ~ 25. 3. 31)
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成21. 12. 1 ~ 24. 3. 31)
長谷川賢二
徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員
(平成19. 5. 1 ~)
新宮市文化複合施設展示計画専門委員会委員
(平成22. 7. 6 ~)
日本山岳修験学会理事
(平成23. 11 ~ 25. 11)
庄武憲子
地域伝統文化総合活性化事業「海部の古い町並み調
査事業」調査指導委員
(平成23. 1. 4 ~ 25. 3. 31)

「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業調査員
(平成23. 6. 10 ~ 24. 3. 31)
財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委員
(平成23. 4. 1 ~ 25. 3. 31)
平成23年度「阿波木偶資料館展示替え検討会議」委
員
(平成23. 8. 1 ~ 24. 10. 31)
磯本宏紀
新鳥取県史編さん調査委員
(平成23. 4. 1 ~ 24. 3. 31)
地域伝統文化総合活性化事業「海部の民俗芸能調査
事業」調査指導委員
(平成23. 1. 4 ~ 25. 3. 31)
「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業調査員
(平成23. 6. 10 ~ 24. 3. 31)
大橋俊雄
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議
会委員
(平成24. 4. 1 ~ 26. 3. 31)

3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す(内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略)。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業については、「IV普及教育」の「2. 学校教育支援事業」に記載している(p. 18~20)。

4月26日 長谷川賢二
徳島県自治研修センター「平成23年度新規採用職員研修人権問題Ⅱ・Ⅲ(歴史/行政)」で講演「近代部落史と私たちの課題」
6月4日 辻野泰之・中尾賢一
社会福祉法人カリヨンで実習「化石をたのしもう」(れもんカレッジホール)
6月12日 佐藤陽一
海陽町立博物館ふるさと発見講座「ふるさと海部川の魚」講師(阿波海南文化村海南文化館)
6月15日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」(徳島県立総合福祉センター)
7月1日 長谷川賢二
第58回四国地区人権教育研究大会大学教育分科会で講演「博物館と人権・平和」(ふれあい健康館)
7月8日 長谷川賢二
歴文クラブ例会で講演「中世阿波の社会と生活」(あ

- わぎんホール徳島県郷土文化会館)
 7月15日 庄武憲子
 あいぼーと徳島ふれあい講座「衣装に見られる俗信」
 (西富田公民館)
 7月23日 佐藤陽一
 徳島市八万公民館・八万青少年育成会「園瀬川の魚
 観察」講師(園瀬川、文化の森橋)
 7月27日 魚島純一
 徳島県立文書館「平成23年度古文書保存研修」で講
 演「文書資料の保存科学」
 8月19日 佐藤陽一
 阿南市中野島公民館「岡川の魚かんさつ」講師(阿
 南市柳島町、岡川)
 8月19日 小川 誠
 農業指導技術向上セミナー講師(徳島県立総合教育
 センター)
 8月25日 小川 誠
 鳴門市理科部会研修会「押し葉をつかったカルタ作
 り」講師(徳島県立博物館)
 8月26・27日 中尾賢一
 日本第四紀学会2011年大会 若手・学生会員を対象
 とした発表賞の審査員(鳴門教育大学)
 8月28日 中尾賢一
 日本第四紀学会徳島大会普及講演会「徳島で考える
 地震津波と防災～東日本大震災からの新たな教訓」
 世話人
 8月29日 中尾賢一
 日本第四紀学会2011年大会 アウトリーチ巡検
 「百万年前の東四国を探る」講師(阿波市、美馬市、
 三好市、高松市)
 10月19日 長谷川賢二
 徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演
 「参詣・巡礼の歴史的展開」(徳島県立総合福祉セン
 ター)
 11月9日 庄武憲子
 徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演
 「民俗学①」「民俗学②」(徳島県立総合福祉センタ
 ー)
 11月9日 長谷川賢二
 とくしま観光ボランティア研修「眉山山麓寺社めぐ
 り」講師(徳島市内)
 11月12・13日 長谷川賢二
 国立民族学博物館友の会第63回体験セミナー「四国
 遍路の成立をさぐる―阿波の霊場から」講師(徳島
 県内)
 11月16日 長谷川賢二
 徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演

- 「戦国軍記における歴史意識」(徳島県立総合福祉セ
 ンター)
 11月22日 長谷川賢二
 徳島大学附属図書館学術講演会で講演「徳島大学附
 属図書館所蔵喜田貞吉関係資料の調査・整理から」
 12月16日 長谷川賢二
 徳島市立徳島城博物館「平成23年度阿波の文学と歴
 史セミナー」で講演「戦国軍記と三好氏の落日」
 1月16日 佐藤陽一
 正法寺川を考える会「平成23年度体験型ふるさとの
 川環境観察学習会」正法寺川の魚出前講座講師(藍
 住北小学校)
 2月4日 中尾賢一
 日本第四紀学会野外巡検「新たな視点で東四国の自
 然の価値を発見しよう」講師(三豊市、三好市、坂
 出市、高松市、吉野川市、徳島市)
 2月12日 磯本宏紀
 「あわ民俗芸能フォーラム～こころのふるさとに還
 る瞬間～」でのパネリスト(あわぎんホール徳島県
 郷土文化会館)

4. 大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受諾

平成23年度に博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤
 講師は次のとおり。

- 長谷川賢二
 鳴門教育大学嘱託講師(博物館特論)
 (平成23.4.11～24.3.31)
 魚島純一
 四国大学非常勤講師(博物館実習Ⅰ)
 (平成23.4.1～23.9.30)

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において学
 芸員となる資格を取得するために「大学において修得
 すべき博物館に関する科目」と規定されているものの
 ひとつで、登録博物館または博物館相当施設における
 実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出
 身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習
 を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希
 望者が多い場合は調整を行い、20数名をめどに受け入
 れることにしている。

平成23年度は、8月23日(火)～27日(土)に実習
 生の受け入れを行った。実習生は10人で、大学別の内
 訳は次のとおりである。

23年度 博物館実習カリキュラム

		A 班 (7名)		B 班 (7名)	
		実習名 (場所)	担当者	実習名 (場所)	担当者
8/23(火)	午前	館長あいさつ (実習室) ガイダンス・館内施設見学 (館内)	高島 庄武	同左 同左	同左 同左
	午後	博物館での資料保存とIPM (実習室、収蔵庫ほか)	魚島	同左	同左
8/24(水)	午前	標本の名前をつける会 (実習・講座室)	小川	クイズラリー問題作成 (作業室・展示室)	庄武
	午後	同上	同上	歴史資料の整理 (歴史収)	長谷川・松永
8/25(木)	午前	美術資料の取扱 (講座室)	大橋	同左	同左
	午後	魚類調査法 (実習室、野外)	佐藤	民俗資料の調査 (収蔵庫)	磯本
8/26(金)	午前	化石資料の写真撮影 (地学収蔵庫)	辻野	クイズラリー体験 (実習室、展示室)	庄武
	午後	普及業務・展示解説 (実習室、展示室)	森・松岡	同左	同左
8/27(土)	午前	昆虫採集と標本作り (野外、分析1) / 雨天 資料整理 (収蔵庫)	山田	植物標本の整理 (収蔵庫、分析2)	茨木
	午後	普及行事の準備と体験「勾玉」 (実習室)	魚島	同左	同左

午前 (9:30~12:00)、午後 (13:00~16:00) および、実習ノート記入、提出 (16:00~17:00)

神戸夙川学院大学 1人 静岡大学 1人
徳島大学 1人 高知大学 1人
四国大学 5人 鳴門教育大学 1人

なお、同時期に県立総合学校統括本部の依頼により、徳島県インターンシップ実習生を受け入れた。インターンシップ実習生は4人で、学校別の内訳は次のとおりである。

徳島大学 1人 四国大学 1人
阿南工業高等専門学校 2人

カリキュラムは別表のとおりである。実習生をA B 2班に分け、学芸員と普及課職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。



博物館実習 (実習生による展示解説)

(3) 学芸員養成科目開講への協力

平成21年に博物館法施行規則が改正され、24年度から大学における学芸員養成科目のうち「博物館に関する科目」が8科目12単位から9科目19単位に増加することになっている。とくに、現場実務の内容を相当盛り込む必要があると思われる「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」(各2単位)の開講について、県内で学芸員養成を行っている徳島大学、鳴門教育大学、四国大学からの協力要請があったため、文化の森(博物館、近代美術館、文書館)で開講する方向で、大学側との検討に参画した。経費等の調整は文化の森振興総局が、内容や担当の配分については当館が、それぞれ中心となって調整を進めた。

大学により配当学年が異なることもあり、24年度は1科目のみ開講し、25年度から3科目開講する予定である。

5. 学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

23年度に当館学芸員が担当し、当館および文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次のとおり。

●みどりクラブ例会

開催日：毎月土曜日 (不定)

会場：博物館講座室

参加者：10名程度

●徳島地域文化研究会・第9回総会および第16回例会

開催日：7月9日（日）

会場：博物館講座室

参加者：5名

●第59回四国中世史研究会

開催日：12月17日（土）

会場：博物館講座室

参加者：20名

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●みどりクラブ

植物に関心のある県内同好者が、毎月1回（土曜日の18：30から）、博物館実習室で植物分類の勉強会や採集情報等に関する意見交換を行っている。

会員は約15名で、毎回約10名の参加者がある。

●四国中世史研究会

四国地域をフィールドとしている中世史研究者によって構成されており、研究会・史料見学（年2回）、機関誌『四国中世史研究』の刊行（隔年1冊）を行っている。

●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム（年3回程度）、会誌『徳島地域文化研究』の刊行（年刊）等を行っている。

●四国ミュージアム研究会

四国四県の学芸員等による研究会で、博物館、美術館、文書館等におけるさまざまな事例についての情報交換を行っている。23年度は当館が事務局を担当した。

●日本半翅類学会

カメムシやヨコバイ、セミなどのカメムシ目（半翅類）に関する研究の発展およびその成果の普及を図り、あわせて半翅類に興味を持つ者相互の理解と親睦を深めることを目的とした学会である。会誌「Rostria」の発行、総会、例会などの事業を行っている。23年度から当館が事務局を担当した。

(3) 当館を会場として行われた一般向け学会行事

●日本第四紀学会「新たな視点で東四国の自然の価値を発見しよう」ミニ講演会と石の楽器のコンサート
開催日：2月6日（日）

会場：博物館講座室、常設展示室入口

参加者：84名（ミニ講演会分のみ）

【ミニ講演】（講座室）

1) 四国の自然の楽しみ方：植木岳雪（産業技術総合研究所）

2) ジオパークのすすめ：柴田伊廣（室戸ジオパーク）

3) 四国の自然をジオ鉄で楽しむ：横山俊治（高知大学）

4) 中学生による徳島の自然の紹介：森江孝志＋徳島県那賀町立相生中学校の生徒

5) おいしい讃岐うどんは地殻変動の賜物？：長谷川修一（香川大学）

6) 湧水の楽しみ：江川湧水と眉山湧水群：山本勝博（茨城大学）

7) 石の楽器（サヌカイト）ができるまで：前田宗一（株式会社興仁）

8) 文化遺産・産業遺産としての讃州豊島石の魅力：西山賢一（徳島大学）

9) 高校生による香川の自然の紹介：猪熊眞次＋香川県立観音寺第一高等学校の生徒

【石の楽器のコンサート】

（常設展示室入口、午前と午後の各2回演奏）

・COLON & 前田宗一

・臼杵美智代（くらしき作陽大学）

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会および日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在86館（園）が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ事務局をつとめることになっており、22・23年度は香川県立ミュージアムが事務局館をつとめている。当館は幹事館になっている。

23年度の役員会及び総会は次のとおり香川県立ミュージアムで開催された。

●23年度役員会・総会

日時：7月21日（木）

役員会10：30～、総会13：30～

会場：香川県立ミュージアム 研修室

議事：四国地区博物館協議会ホームページの開設について

平成22年度事業報告及び決算報告について

平成23年度事業計画及び予算について

その他

講演：松本教仁氏（高知県立美術館）

演題：「高知県立美術館の防災計画について」

●研修・視察

日時：7月22日（金）9：30～12：00

場所：香川県立ミュージアム 研修室

内容：日本博物館協会からの本部報告

視察：香川県立ミュージアム

特別展「夏休み子どもミュージアムつなげてひろげて紙から生まれた不思議秋山たいけいのからくり」ほか視察

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、その後、年々増え、平成23年3月末現在では51館になっている。当館が事務局をつとめている。

23年度事業

①役員会の開催

6月28日（火） 阿南市科学センター

2月16日（木） 徳島県立博物館

②総会の開催

日時：6月28日（火）14：30～16：30

場所：阿南市科学センター

議事：22年度事業報告及び決算報告

22年度監査報告

23年度役員選出

23年度事業計画及び会計予算

その他

講演：「活動報告」 阿南市科学センター

「大規模災害と資料救助活動」 森脇崇文氏
(徳島市立徳島城博物館)

③盟館園の職員状況と入館者数一覧の作成・配布

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No. 36、37、38を発行・配布した。

⑤研修会の開催 参加者17名

日時：12月6日（火）13：30～16：00

場所：三好市井川ふるさと交流センター

内容：講演会 大岩 義雄氏（三好市井川ふるさと交流センター民俗資料館指導員）「市町村における公文書と文書の保存について」

展示見学（民俗資料館）

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、30機関・団体が加入している。23年度は、福岡県の田川地区人権センター（田川郡福智町）を会場として第16回総会が開催された（11月17～18日）。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣してきたほか、加入機関・団体との個別的な協力を行っている。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

12・13年度に文部科学省の委嘱を受けて行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館および兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織としてNPO法人西日本自然史系博物館ネットワークが16年4月27日付けで設立され、約120名の学芸員や博物館関係者が参加している。

23年度（事業年度は1月～12月）は、地域自然環境情報提供事業として収藏品データベース整備事業と自然史系博物館における標本情報の発信に関する研究会（2回）、博物館連携推進事業として生物多様性協働フォーラムを開催した。また、調査研究推進事業として博物館スタッフのための技術講座を開催し、大型プリンタの活用講座や100円ショップグッズを使った自然観察と展示に関するワークショップなどを行った。展示企画事業として鳴く虫とタンポポの巡回展を開催した。

7. 東日本大震災の被災標本レスキュー

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、地震と津波により広範囲にわたって甚大な被害が発生した。陸前高田市立博物館（岩手県陸前高田市高田町字砂畑61-1）でも、収蔵されていた資料が津波により損傷し、その後腐敗やカビの害が発生した。このままでは貴重な標本がカビや腐敗で失われてしまう恐れがあるため、岩手県教育委員会と岩手県立博物館などが中心となって、収蔵標本を回収し、その修復を全国の博物館に呼びかけた。その結果、当館を含め、全国の30の博物館・大学等施設が標本の修復を引き受けることとなった。なお、全国の自然史系博物館が連携して植物標本修復の協力を行うことは初めてのケースである。

修復の経緯は下記のとおりである。

2011年3月11日：地震・津波の発生により、陸前高田市立博物館が被災。全ての資料が砂泥まじりの海水をかぶる。

4月中旬：岩手県教育委員会と同県内博物館・文化財関係者が、陸前高田市職員やボランティアとともに瓦礫撤去・資料搬出、復元作業にあたる。

4月27日・28日：標本を収蔵庫から搬出し、岩手県立博物館へ移送。植物標本1万5千点と昆虫標

本150箱を運び出す。

- 4月30日：岩手県立博物館にて仕分けを開始
- 5月2日：各博物館へ修復の依頼
- 5月6日：各博物館へ標本発送開始（植物標本のうち6千点と昆虫標本100箱）
- 5月12日：当館受け入れ。修復作業を開始
- 2012年4月28日：修復した標本を岩手県立博物館に送付

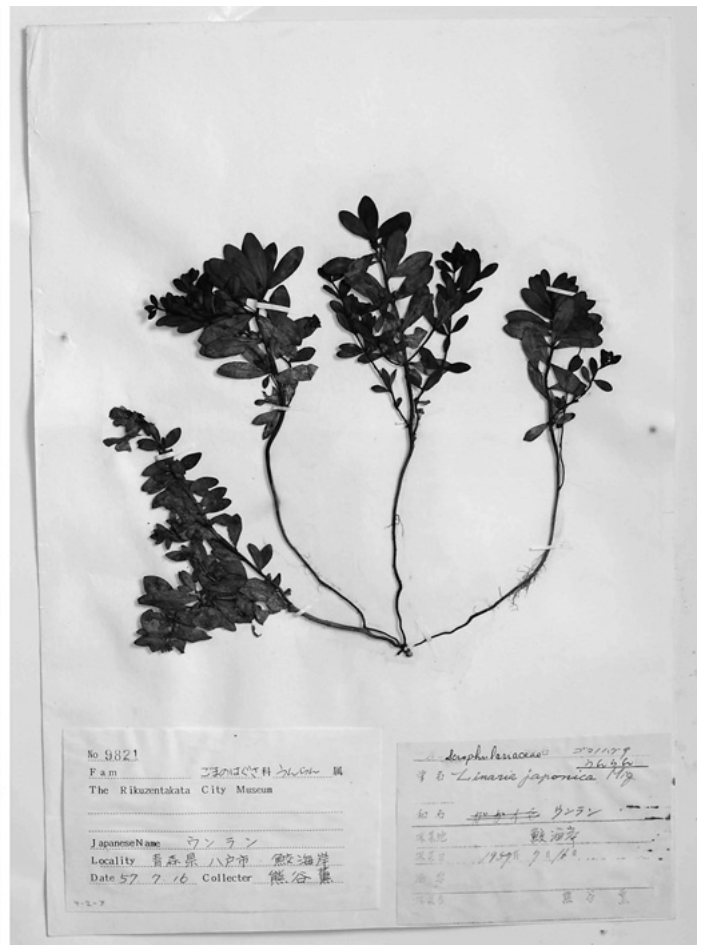
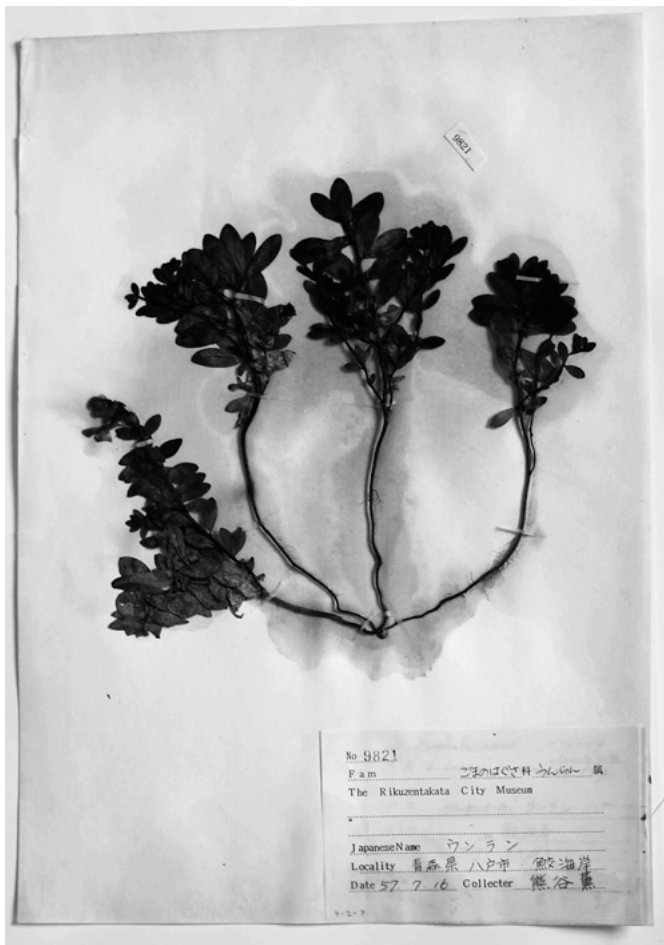
受け入れたのは301点の被災標本で、標本、特にラベルを詳しく写真撮影し、破損に注意しながら水洗し、乾燥させた。実際に標本洗浄にかかったのは25日間である。洗浄前の状態がわかるように、撮影した写真を標本ごとに分けて印刷し、標本に添付し、岩手県立博物館に送付した。

こうした修復活動を県民に知ってもらえるよう、記者発表を行い、2011年秋に開催された「企画展 描かれた地震」で「東日本大震災と標本レスキュー」の特



企画展「描かれた地震」での修復した植物標本の展示のようす

設コーナーを設けて展示した。また、作業を記録するために当館研究報告22号に「東日本大震災により被災した植物標本の修復」の論文を掲載した。



洗浄修復前の標本（左）と洗浄修復後の標本（右）

V 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む12名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1. 課題調査

平成23年度は、次の3つの課題調査を行った。

(1) 異なる森林環境における昆虫類群集の多様性

本県の多様な森林環境のうち、温帯落葉広葉樹林、暖帯常緑広葉樹林、針葉樹林、二次林といった異なる森林環境を選定して蛾類および半翅類群集の構造の違いを比較するとともに、分布や生息環境などの基礎的なデータを収集することを目的として行った。23年度は、剣山系にて蛾類のインベントリー（生息種相調査）を行い、新種や四国初記録種といった新知見が得られた。また、エゾゼミ類の標高による分布の違いを調査し、興味深いデータを得た。いずれの成果も学術的に価値が高いものと考えられるが、インベントリー調査があまり進まず、未調査地域がまだ残されている。加えて、23年度は夏季に重点的に行ったが、秋季が調査不足で各分類群の発消長を推測するデータがあまり得られなかった。

●調査メンバー

博物館学芸員：山田量崇（動物）

館外調査者：林 正美（埼玉大学教育学部教授）、大原賢二（元徳島県立博物館学芸員）、広渡俊哉（大阪府立大学大学院准教授）

●調査の概要及び成果

7月5～7日 神山町、那賀町（スーパー林道）など

8月8～10日 三好市東祖谷山、美馬市、つるぎ町、神山町、那賀町

3月22～24日 鳴門市、阿波市、吉野川市、美波町、海陽町

※7月5～7日は広渡氏と山田が、8月8～10日、3月22～24日は林氏、大原氏、山田がそれぞれ調査した。7月の調査では、日中の任意調査と夜間の灯火採集によって多数の蛾類標本を収集した。調査で得られた四国新記録となるチビガ類については、23年度の昆虫学会年次大会にて小林氏、広渡氏とともに発表した。8月の調査ではおもに祖谷溪谷に生息するエゾゼミ類を対象とし、調査結果を徳島県立博物館研究報告22号にて公表した。3月の春季調査では主に平野部、沿岸部の半翅類を調査した。



夜間の灯火採集（2011年7月6日）

(2) 徳島県の湿地生植物

近年、徳島県に於いても人為的な環境の破壊や外来生物の侵入等により在来野生生物の危機は増大している。とりわけ湿地の環境は人為的破壊が著しく、とくに保護を必要とする種が多い。このため湿地及びその周辺部を詳細に調査することで、集約的に保護の必要な種の現況を把握することができると考えられる。

また、近年水湿地においては、外来水草の侵入や異常な繁殖が目立ち、大きな社会問題となっている。と



海陽町湿地調査のようす



美波町湿地調査のようす

りわけ国の特定外来種に指定されているナガエツルノゲイトウ、アゾラ・クリスタータ、オオカワジシャそしてボタンウキクサ等の侵入・拡散は深刻な問題となっており、これらの侵入状況の確認と在来種への影響の度合いを把握することが重要な課題となっている。

そこで、本調査では、県内の主要な池沼と湿地等の水湿地の植物を中心に、分布と生育状況確認のため広範囲な生物多様性の基礎的情報を蓄積していくことを目的に現地調査および標本の調査を行った。

●調査メンバー

(1)博物館学芸員

小川 誠 (植物)

茨木 靖 (植物、課題調査代表)

(2)館外調査員

木下 覺 (徳島県植物研究会会長)

田淵武樹 (徳島県RDB植物調査員)

成田愛治 (徳島県植物研究会会員)

●調査の概要

4月18日：海部郡海陽町周辺

4月27日：阿南市蒲生田岬周辺

5月18日：三好郡井川町井内東、水の口峠周辺

7月7日：三好市落合峠付近

9月13日：三好市池田町

9月27日：三好市落合峠付近～烏帽子山

10月24日：海部郡海陽町

11月17日：海部郡美波町～海陽町

12月17日：徳島県立博物館にて会議

2月16～18日：東京大学附属小石川植物園

23年度は、主に該当地区の湿地について、写真撮影、分布調査、及び植物の収集を行い、標本化し同定作業を行った。調査は、木本については、枝を主体とし、草本については、根などが種の同定に必要となる場合には一部根からの採集を行った。また、徳島県産湿性植物を中心とした分類学的検討のため、東京大学所蔵の標本との比較検討も行った。

(3) 徳島県の離島における図像民俗誌作成のための調査

本調査は、平成22年度調査に引き続き、徳島県の離島である伊島、出羽島における海や山での環境利用と生業・生計について、その特徴を明らかにすることを目的とした。具体的には、磯漁や山の耕地利用状況と慣行について調査し、自給目的で生産される海産物や農産物のための環境利用について明らかにした。

ところで、一般に民俗誌は文字情報を中心に記述されるものである。これは、従来聞き取り調査および観察調査が主であったためである。しかし、本調査では過去において撮影された写真、スケッチ等の画像資料を積極的に調査、収集することにより、具体的な景観把握や動態把握を目指し、画像情報を多く取り入れた民俗誌作成のための調査を実施した。

なお、本調査は、平成15～16年度に実施した課題調査「潜水漁業の現在とその環境利用」での伊島、出羽島における民俗調査の成果をうけて、これを発展させるための調査と位置づけた。

●調査メンバー

博物館学芸員：磯本宏紀（民俗）
館外調査員：小島孝夫（成城大学文芸学部教授）
高橋健一（日本民俗学会会員）

●調査日程および調査地

11月18日～20日 海部郡牟岐町出羽島における民俗調査

●調査方法と内容

- ①調査地における聞き取り調査
 - ・耕地利用の変化および耕地の運用法
 - ・自給用の食物としての野草や貝類、海藻類およびその調理法
 - ・自給用の食物その他の採取および海藻等の活用事例
- ②調査地における写真等画像資料の調査および収集
- ③空中写真等による比較分析
- ④関連文献、史資料の調査



調査地の出羽島集落のようす

2. 分野別（個別）調査研究

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

- ①徳島県産淡水魚類相調査
吉野川水系の鮎喰川で調査を行った。
- ②カワバタモロコの保全生物学的研究
徳島県産カワバタモロコの生息環境が悪化しているため、昨年度に引き続き鳴門市で避難地選定のための溜池の環境調査を実施した。
- ③徳島県産オヤニラミ保全対策の検討
昨年度に引き続き、徳島県産オヤニラミの遺伝的集団構造を把握するため、椿川で調査を行った。

山田量崇（動物・無脊椎動物）

- ①ハナカメムシ科の系統分類学的研究
東南アジアおよびインドの材料をもとに生物多様性保全の観点から本科の系統分類学的研究を行っ

た。

- ②農業害虫の天敵としての半翅類の探索と利用に関する研究
熱帯アジアと我が国の生物的防除研究へ基礎資料を提示すべく、難同定分類群の簡易的な同定法の構築を目指した研究を行った。
- ③剣山系の昆虫相調査
半翅類と小蛾類を対象にインベントリー作成をめざした標本の収集を行った。
- ④外来昆虫の分布拡大経路の解明
徳島に侵入した外来カメムシ類の分布拡大経路を追跡調査した（加藤敦史氏と共同）。
- ⑤アサギマダラの移動に関する調査（大原賢二氏と共同）
- ⑥県産無脊椎動物相の調査
海産および汽水産甲殻類、県産クモ類の標本収集を行った。

小川 誠（植物）

- ①タンポポの分布調査
タンポポ調査2010・西日本の結果を受け徳島県に無いタンポポについて比較検討するために、福岡県、和歌山県、岡山県、福井県で調査を行った。
- ②県産植物相の調査
平成23年度阿波学会の調査の一環として、美馬市山川地区の植物相調査を行った（木下 覚氏らと共同）。
- ③被災植物標本修復方法の研究
東日本大震災で津波により被災した標本について、海水につかりカビ等により損傷を受けた標本の修復方法について研究した。

茨木 靖（植物）

- ①県産植物相の調査
主に湿地性植物を中心に、徳島県の植物相の調査を行った。
- ②イネ科植物の比較研究
国内外各地のイネ植物について、その異同、分布などに関する調査を行った。
- ③県内における海流種子等の漂着状況を調査した（池淵正明氏と共同）。

中尾賢一（地学）

- ①鮮新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査
高知県、熊本県、長崎県で堆積構造の観察と貝化石の採集および二枚貝類の分類学的研究を行った。
- ②吉野川市山川町の地質に関する研究
平成23年度阿波学会の調査の一環として、吉野川市山川町の地質に関する研究を行った（石田啓祐氏らと共同）。

③海陽町穴喰浦竹ヶ島の地質に関する研究

竹ヶ島地質遺産調査委員会委員として、竹ヶ島の地質に関する研究を行った（石田啓祐氏らと共同）。

辻野泰之（地学）

①北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類学的研究を行った。

②北海道の蝦夷層群羽幌川層の古地磁気層序に関する研究

北海道苫前町古丹別地域に分布する蝦夷層群のサントニアン／カンパニアン階境界を決定するため、古地磁気調査を行った（熊本大学と共同）。

③那賀町北川地域の地質に関する研究

那賀町北川地域の地質図を作製ための研究（産業技術総合研究所と共同）。

④吉野川市山川町の地質に関する研究

平成23年度阿波学会の調査の一環として、吉野川市山川町の地質に関する研究を行った（石田啓祐氏らと共同）。

⑤海陽町穴喰浦竹ヶ島の地質に関する研究

竹ヶ島地質遺産調査委員会委員として、竹ヶ島の地質に関する研究を行った（石田啓祐氏らと共同）。

高島芳弘（考古）

①若杉山遺跡を中心とする徳島県における朱採掘遺跡の確認調査

故吉見哲夫氏による阿南市の津乃峰山中腹の岩屋周辺の採集資料の報告を徳島県立博物館研究報告22号に掲載した。

②矢野遺跡での分析を中心に徳島県における縄文集落のあり方を検討した。

魚島純一（保存科学・考古）

①保存設備等をもたない施設における資料の虫菌害からの防除に関する研究

県内の山岳寺院において、年間を通して資料保存場所の温湿度環境を測定するとともに、酸素透過度がきわめて低いフィルム製の袋に封入することで、簡便に資料を虫菌害から防除する取り組みについての実験をおこなった。その結果、大型の資料であっても十分に実用できる方法であることを確認し、引き続き経過を観察するとともに、保存環境の監視も継続することとした。

②外部依頼による調査、保存処理等

- ・徳島県教育委員会の依頼を受け、出土遺物の保存処理を行った。
- ・今治市教育委員会、愛媛県埋蔵文化財調査センターなどの依頼を受け、出土遺物の非破壊定性分析

を行った。

- ・徳島県埋蔵文化財センターの依頼を受け、出土赤色顔料の定性分析を行った。
- ・阿波学会民家班などの依頼を受け、棟札等の赤外線TVカメラでの調査を行った。
- ・県内外文化財保存関係者などの依頼を受け、保存環境の整備、IPM等に関する指導等を行った。

長谷川賢二（歴史）

①熊野三山奉行の成立と展開の研究

14～15世紀における熊野三山奉行の成立と展開について、寺社組織や幕府の動向との関連を踏まえて再検討した。

②阿波の山林寺院及び寺社縁起の研究

中世を中心に、文献史料に見られる阿波の山林寺院の実態、山間部の寺社縁起と地域社会の関係について検討した。

③答礼人形「ミス徳島」に関する米国所在資料の検討（大原賢二氏と共同）

米国ワシントン州ノースウェスト芸術文化博物館から提供された歴史的な文書について、内容や背景を検討した。

松永友和（歴史）

①近世阿波地域史の調査

江戸時代を中心に、現在公開されている目録やデータベースをもとに、県内の古文書の伝存状況を調べた。また、当館所蔵の板野郡大代村岡家文書の調査を行い、一部の古文書については目録を作成し、デジタルカメラで撮影した。

②蜂須賀家文書の調査

国文学研究資料館所蔵の蜂須賀家文書の調査を行った。また、当館所蔵の蜂須賀家文書のうち1点を選び、翻刻と検討を加えた。その成果は、研究報告に資料紹介としてまとめた。

③徳島と大坂の交流史に関する調査

江戸時代の徳島と大坂について、その交流を物語る資料を調査した。人の移動や文化的交流について調べ、また阿波藍の取引に関する古文書について検討を加えた。

④都郷鐸堂に関する調査

近代徳島を代表する書家都郷鐸堂の経歴や書簡などの調査を行った。その成果は部門展示で紹介した。

庄武憲子（民俗）

①徳島県内の三番叟まわし・えびすまわしおよび門付け芸に関する調査

「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会委員として、名西郡、吉野川市で三番叟まわし・えびすまわしおよび門付け芸に関する聞き取り調査を行っ

た。県内での調査結果の周知のため報告会を開催した。

②海部の町並み調査

海部の古い町並み調査事業のメンバーとして、町並み内で現在も行われている年中行事についての調査を行った。

③有瀬かぐら踊りについての調査

財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委員として有瀬かぐら踊りについての聞き取り調査を行った。

④吉野川と人々の暮らしに関する調査

徳島地域文化研究会のメンバーと共同で、徳島城下で暮らしてきた人が吉野川とどのような関わりを持ってきたか聞き取り調査を試みた。

⑤正月飾りおよび年中行事に用いられる飾りと植物についての調査

神山町および美波町において正月の門飾り、および注連飾り、午王行事に使用される飾りに使われる植物についての調査・撮影を行った。

磯本宏紀（民俗）

①阿波漁民の漁業移住に関する民俗学的研究（科研費助成による研究）

近代以降の出稼ぎ・移住に関する調査を行った。漁業移住の実態と、それにともなった文化伝播の痕跡を明らかにすることを目的として検討した。

②徳島県の離島における図像民俗誌作成のための調査（課題調査）

③徳島県における三番叟まわし・えびすまわしに関する調査

「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進委員会委員として、海部郡、勝浦郡において三番叟まわし・えびすまわしおよび門付け芸に関する聞き取り調査を行った。

④吉野川流域における農具市と竹細工等に関する聞き取り調査を行った。

⑤有明海及び中海の里海としての利用慣行と物質文化の相互研究（神奈川大学日本常民文化研究所常民文化奨励研究による共同研究）

⑥鳥取県史編纂事業に関する調査の内「生業（漁業）」に関する調査

大橋俊雄（美術工芸）

①森崎家資料に関する調査

館蔵の森崎家資料は、17世紀末から19世紀におよぶ、阿波藩の御用絵師の家に伝えられた粉本類である。粉本とは、師匠の作品や有名な絵などを写し取った手控えで、絵師が実制作にあたって参考とした。これらの整理を進めながら、当地域における絵画製

作のあり方、文化の一面を検討した。

②飯塚桃葉に関する調査

飯塚桃葉は、18世紀後半に活躍した阿波藩の御用蒔絵師。近年の研究動向、新作品の発見をふまえ、より具体的な位置づけを検討した。

③18・19世紀における阿波の美術

10藩主蜂須賀重喜から12代藩主斉昌までの時期は、阿波の美術において注目すべき現象がみられた。その内容を具体的にとらえることを目指した。

3. 科学研究費補助金等による研究

●若手研究（B）：「アワ船」による漁民移動と漁業移住の類型化に関する民俗学的研究（平成22～25年度）

研究代表者：磯本宏紀

●基盤研究（C）：最古の現生種化石記録から探る現生貝類群集の成立：その時期と古環境背景（平成22～24年度）

研究代表者：近藤康生（高知大学理学部教授）

当館の分担研究者：中尾賢一

●基盤研究（B）：日本中世における「山の寺」（山岳宗教都市）の基礎的研究（平成20～23年度）

研究代表者：仁木 宏

（大阪市立大学大学院文学研究科教授）

当館の連携研究者：長谷川賢二

●神奈川大学日本常民文化研究所「常民文化奨励研究」：有明海及び中海の里海としての利用慣行と物質文化の相互研究（平成22～23年度）

研究代表者：檜村賢二（鳥取県立公文書館）

当館の共同研究者：磯本宏紀

4. 他機関との共同研究

●那賀町北川地域の地質に関する研究

独立行政法人産業技術総合研究所は、全国各地の5万分の1の地質図を作成している。作成された地質図は、地域の土地利用や災害防止、資源探索、環境対策などの基礎情報として役立っている。当館の辻野は、平成22年度より産業技術総合研究所からの依頼を受け、徳島県北川地域の地質図作成のために産業技術総合研究所と共同で地質調査を進めている。

平成23年度は、那賀町木頭助周辺（東蟬谷および小



那賀町木頭助周辺で地質調査をしているようす

見野々)の地質調査を行い、三畳紀の地層の分布や含まれる化石について研究を進めた。

5. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第22号の発行

2012年3月31日発行、B5判168ページ1,100部

(*は館外研究者)

論文

Tomoo Yoshino*, Daisuke Hayakawa*, Miku Yoshizawa*, Yuichi Osa* and Mitsuhiko Asakawa*: First record of the genus *Strongyloides* (Nematoda: Rhabditoidea) obtained from a fairy pitta, *Pitta brachyura nympha*. p. 1-6.

調査記録・資料紹介

大原賢二*・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録(2011年)。p. 7-44.

広渡俊哉*・小林茂樹*・池内 健*・山田量崇：剣山系の蛾類(1) - 2009年の調査結果 -。p. 45-55.

大原賢二*・山田量崇：徳島市津田海岸町で発見された四国初記録のアルゼンチンアリ。p. 57-62.

山田量崇・大原賢二*・林 正美*：徳島県におけるエゾゼミ属4種の分布域及び棲息環境について。p. 63-67.

和田太一*：徳島県の礫浜海岸における四国初記録のキタフナムシとマメアカイソガニ。p. 69-78.

高島芳弘：吉見哲夫氏の『阿南市津乃峰町「結びの岩屋」下の遊歩道遺跡の調査について(調査メモ)』紹介。p. 79-93.

松永友和：徳島藩の蒸気船 - 「徳島藩蒸気船乾元丸購入一件(一)」の紹介と翻刻 -。p. 95-107.

大原賢二*・長谷川賢二：答礼人形「ミス徳島」に関する米国ノースウェスト芸術文化博物館所蔵資料。

p. 109-137.

短報

濱 直大*・茨木 靖：徳島県に漂着したトウダイグサ科 *Omphalea* 属の種子。p. 139-142.

茨木 靖・小川 誠・木下 覺*・中村俊之*：徳島県から新たに発見されたナンゴクヒメミソハギ *Ammannia auriculata* Willd. (ミソハギ科)。p. 143-145.

山田量崇・濱 直大*：徳島県におけるコガタウミアメンボの漂着記録。p. 147-149.

土居敏幸*・佐藤陽一・尾嶋百合香*・小藤美樹*・三島隆伸*：徳島県的那賀川河口から採集されたオオクチヌメリ *Eleutherochir opercularis* (ネズツポ科 Callionymidae)。p. 151-156.

事業報告

Yasuyuki Tsujino (2012. 3) Donation and registration of the Late Cretaceous ammonoid *Libycoceras* and Late Devonian plant *Leptophloeum* to the Tokushima Prefectural Museum. p. 157-160.

小川 誠：東日本大震災により被災した植物標本の修復。p. 161-168.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧

(*印：館外研究者)

●動物

〈学術的著述〉(☆：査読付学術雑誌)

☆Yamada, K., Bindu, K.*, Nasreem, A.* & Nasser, M.* (2011. 6) A new flower bug of the genus *Montandoniola* (Hemiptera: Heteroptera: Anthocoridae), a predator of gall-forming thrips on black pepper in southern India. Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae, 51: 1-10.

☆Yamada, K. & Ishikawa, T.* (2011. 11) *Physopleurella* (Insecta: Heteroptera: Anthocoridae) new to Indonesia, with the description of a new species. Species Diversity, 16: 93-101.

土居敏幸*・佐藤陽一・尾嶋百合香*・伊藤道啓*・小藤美樹*・三島隆伸* (2012. 3) 徳島県的那賀川河口から採集されたオオクチヌメリ *Eleutherochir opercularis* (ネズツポ科 Callionymidae)。徳島県立博物館研究報告, (22): p. 151-156.

Yamada, K. & Hirowatari, T.* (2011. 12) Distributional records of seven flower bugs (Heteroptera: Lyctocoridae, Anthocoridae) from Japan. Rostria, (53): 63-66.

山田量崇・濱 直大* (2012. 3) 徳島県におけるコガタウミアメンボの漂着記録。徳島県立博物館研究報告, (22): 147-149.

山田量崇・大原賢二*・林正美* (2012. 3) 徳島県におけるエゾゼミ属 4 種の分布域及び棲息環境について. 徳島県立博物館研究報告, (22) : 63-67.

広渡俊哉*・小林茂樹*・池内 健*・山田量崇 (2012. 3) 剣山系の蛾類 (1) - 2009年の調査結果 -. 徳島県立博物館研究報告, (22) : 45-55.

大原賢二*・山田量崇 (2012. 3) 徳島市津田海岸町で発見された四国初記録のアルゼンチンアリ. 徳島県立博物館研究報告, (22) : 57-62.

大原賢二*・山田量崇 : アサギマダラの移動に関する徳島の記録 (2011年). 徳島県立博物館研究報告, (22) : 7-44.

〈一般著述〉

佐藤陽一 (2011. 4) カワバタモロコ. 徳島新聞 4月22日夕刊 (子ども新聞).

佐藤陽一 (2011. 6) 徳島にも子育てをする川魚がいるって本当ですか. 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (83) : 7.

佐藤陽一 (2011. 7) コウモリ. 徳島新聞 7月8日夕刊 (子ども新聞).

佐藤陽一 (2011. 12) 徳島の「ジンゾク」. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (85) : 5.

佐藤陽一 (2011. 12) アカエイ. 徳島新聞 12月2日夕刊 (子ども新聞).

佐藤陽一 (2012. 3) 深海魚. 徳島新聞 3月30日夕刊 (子ども新聞).

山田量崇 (2011. 4) カブトエビとホウネンエビ. 徳島新聞 4月8日夕刊 (こども新聞).

山田量崇 (2011. 5) ヤドカリ. 徳島新聞 5月20日夕刊 (こども新聞).

山田量崇 (2011. 7) 樹液に集まる昆虫. 徳島新聞 7月22日夕刊 (こども新聞).

山田量崇 (2011. 9) カマキリ. 徳島新聞 9月2日夕刊 (こども新聞).

山田量崇 (2012. 3) ギフチョウ. 徳島新聞 3月16日夕刊 (こども新聞).

山田量崇 (2011. 12) 外国からやってきた小さな侵入者 - 分布を拡大させる 3 種のグンバイムシ -. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (85) : 2-3.

山田量崇 (2011. 4) 松茂町の海岸植物群落で見られるカメムシ類. 松茂町誌続編第三巻 (徳島県板野郡松茂町誌編さん委員会編), p. 40, 55. 徳島県板野郡松茂町, 徳島.

山田量崇 (2011. 12) 第 3 回国際カメムシ学会に参加して. *Rostria*, (53) : 56-62.

●植物

〈学術的著述〉 (☆ : 査読付学術雑誌)

木下 覺*・谷川秋光*・片山泰雄*・松枝悦子*・植北ちず子*・小川 誠・茨木 靖・成田愛治*・小松研一*・原田悦子* (2011. 7) つるぎ町一字の植物. 阿波学会紀要, (57) : 33-48.

小川 誠 (2012. 3) 東日本大震災により被災した植物標本の修復. 徳島県立博物館研究報告, (22) : 161-168.

濱 直大*・茨木 靖 (2012. 3) 徳島県に漂着したトウダイグサ科 *Omphalea* 属の種子. 徳島県立博物館研究報告, (22) : 139-142.

茨木 靖・小川 誠・木下 覺*・中村俊之* (2012. 3) 徳島県から新たに発見されたナンゴクヒメミソハギ *Ammannia auriculata* Willd. (ミソハギ科). 徳島県立博物館研究報告, (22) : 143-145.

〈一般著述〉

小川 誠 (2011. 6) タンポポ調査が終わりました. 徳島県立博物館ニュース (Culture Culb), (84) : 2-3.

小川 誠 (2012. 3) 植物の動きが作り出す不思議な模様. 徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (86) : 5.

茨木 靖 (2012. 3) 松茂町に流れ寄る漂着物. 松茂町誌続編第三巻 (徳島県板野郡松茂町誌編さん委員会編), p. 60. 徳島県板野郡松茂町, 徳島.

茨木 靖 (2011. 6) 夏だ! 浜辺へ行こう!. 徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (83) : 5.

茨木 靖 (2011. 5) ケシの花. 徳島新聞 5月13日夕刊 (こども新聞).

茨木 靖 (2011. 6) ウラシマソウ. 徳島新聞 6月3日夕刊 (こども新聞).

茨木 靖 (2011. 8) スダチ. 徳島新聞 8月26日夕刊 (こども新聞).

茨木 靖 (2011. 11) ヤッコソウ. 徳島新聞 11月18日夕刊 (こども新聞).

茨木 靖 (2012. 2) ロウバイ. 徳島新聞 2月24日夕刊 (こども新聞).

●地学

〈学術的著述〉 (☆ : 査読付学術雑誌)

西山賢一*・元山茂樹*・石田啓祐*・橋本寿夫*・中尾賢一・阿部 肇*・辻野泰之・小澤大成* (2011. 7) つるぎ町一字地域の地質・岩石・地すべり地形. 阿波学会紀要, (57) : 1-9.

石田啓祐*・橋本寿夫*・元山茂樹*・中尾賢一・辻野泰之・西山賢一*・小澤大成*・阿部 肇* (2011. 7) つるぎ町一字中野の「ろう石」 - 国会議事堂関連石材の調査報告 -. 阿波学会紀要, (57) : 197-202

Yasuyuki Tsujino (2012. 3) Donation and registration

of the Late Cretaceous ammonoid *Libycoceras* and Late Devonian plant *Leptophloeum* to the Tokushima Prefectural Museum. Bulletin of the Tokushima Prefecture Museum, (22) : 157-160.

〈一般著述〉

中尾賢一 (2011. 6) 断層. 徳島新聞 6月10日夕刊 (こども新聞).

中尾賢一 (2011. 6) 輝安鉱. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (83) : 1.

西山賢一*・中尾賢一・植木武雪*・長谷川修一* (2011. 8) 東四国の自然を楽しむガイドブックー地形・地質を中心としてー. 日本第四紀学会, 38p.

中尾賢一 (2011. 9) 鯨絵「あら嬉し大安日にゆり直す」. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (84) : 1.

中尾賢一・加藤茂弘*・川東丈純* (2011. 10) 描かれた地震. 徳島県立博物館, 63p.

中尾賢一 (2011. 10) 地震と津波. 徳島新聞10月28日夕刊 (こども新聞).

中尾賢一 (2012. 1) アオイガイ. 徳島新聞 1月27日夕刊 (こども新聞).

植木武雪*・中尾賢一・西山賢一*・長谷川修一* (2012. 2) 東四国の自然を楽しむガイドブックー地形・地質を中心としてー. 日本第四紀学会, 38p.

辻野泰之 (2011. 6) モササウルス. 徳島新聞 6月24日夕刊 (こども新聞).

辻野泰之 (2011. 8) 三葉虫. 徳島新聞 8月5日夕刊 (こども新聞).

辻野泰之 (2011. 6) 約40年ぶりに牟岐町で確認されたアンモナイト化石. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (83) : 6.

辻野泰之 (2012. 3) フランスのジュラ紀・白亜紀層見学旅行記. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (86) : 2-3.

●考古

〈学術著述〉

高島芳弘 (2012. 3) 吉見哲夫氏の『阿南市津乃峰町「結びの岩屋」下の遊歩道遺跡の調査について (調査メモ)』徳島県立博物館研究報告, (22) : 79-93.

〈一般著述〉

魚島純一 (2011. 7) 総合博物館における資料保存の取り組みー徳島県立博物館を例として. 博物館研究, 46 (7) : 7-9.

魚島純一 (2011. 9) 田村谷銅鐸. ライト&ライフ (四国電力株式会社), 609 (2011年9月号) : 7-8.

魚島純一 (2011. 9) 博物館での資料保存. 徳島新聞 9月16日夕刊 (こども新聞).

魚島純一 (2011. 9) ピカピカに光る銅鐸や青銅鏡が

展示されていますが、あれはホンモノですか? . 徳島県立博物館ニュース (Q & A), (84) : 7.

●歴史

〈学術的著述〉 (☆ : 査読付学術雑誌)

長谷川賢二 (2011. 8) 中世における熊野信仰と宗派の境界. 四国中世史研究, (11) : 51-64.

長谷川賢二 (2011. 9) 博物館法の改正と学芸員養成. 歴史学と博物館, (7) : 14-25.

大原賢二*・長谷川賢二 (2012. 3) 答礼人形「ミス徳島」に関する米国ノースウェスト芸術文化博物館所蔵資料. 徳島県立博物館研究報告, (22) : 109-137.

松永友和 (2011. 4) 大塩の乱後の坂本鉉之助についてー〈武〉〈知〉〈家〉の視点からー. 大塩事件研究会編「大塩平八郎の総合研究」和泉書院 : 253-291.

☆松永友和 (2012. 1) 天保十二年天王寺村の徒党・打ちこわしについて. 大阪の歴史, (77) : 155-179.

松永友和 (2012. 3) 近世後期大坂の都市周辺地域と代官支配. 関西大学大学院博士学位論文 : 1-160.

松永友和 (2012. 3) 資料紹介 徳島藩の蒸気船ー「徳島藩蒸気船乾元丸購入一件 (一)」の紹介と翻刻ー. 徳島県立博物館研究報告, (22) : 95-107.

〈一般著述〉

長谷川賢二 (2010. 4) とくしま出版録 : 古玩愛贖. 徳島新聞 4月8日朝刊.

長谷川賢二 (2011. 4) 失われた地名・麻植. 徳島新聞 4月15日夕刊 (こども新聞).

長谷川賢二 (2010. 4) とくしま出版録 : 中世集落景観と生活文化. 徳島新聞 4月28日朝刊.

長谷川賢二 (2011. 5) 書評と紹介 : 関口真規子著『修験道教団成立史』. 古文書研究, (71) : 124-126.

長谷川賢二 (2011. 5) 以西. 徳島新聞 5月27日夕刊 (こども新聞).

長谷川賢二 (2011. 7) 古代の産物. 徳島新聞 7月29日夕刊 (こども新聞).

長谷川賢二 (2011. 2) 妖怪ゾロゾロ. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (85) : 6.

長谷川賢二 (2012. 3) 巡礼. 徳島新聞 3月23日夕刊 (こども新聞).

松永友和 (2011. 6) 新刊紹介 酒井一著『なにわの歴史八景』. 大塩研究, (65) : 85-88.

松永友和 (2011. 9) 大塩平八郎と徳島〜大塩のルーツは阿波国!? ~. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (84) : 2-3.

松永友和 (2011. 11) 城下町徳島. 徳島新聞11月4日夕刊 (こども新聞).

松永友和 (2012. 1) 参勤交代. 徳島新聞 1月13日夕

刊（こども新聞）。

松永友和（2012. 3）阿波藍商人。徳島新聞3月2日夕刊（こども新聞）。

松永友和（2012. 3）大名の格付ランキング。徳島県立博物館ニュース（情報ボックス），（86）：6。

松永友和（2012. 3）書評 徳島地方史研究会創立40周年記念論集『阿波・歴史と民衆Ⅳ生業から見る地域社会－たくましき人々－』。史窓，（42）：95-103。

●民俗

〈学術的著述〉

磯本宏紀（2011.10）徳島県のアマ（海女・海士）研究をめぐる歳森茂先生の御業績。民具集積，（14）：89-100。

磯本宏紀（2012. 3）吉野川流域における竹細工の流通と農具市－阿波市，美馬市，吉野川市の事例を中心に。徳島地域文化研究，（10）：16-27。

〈一般著述〉

庄武憲子（2011. 9）イモの収穫日としての社日。徳島県立博物館ニュース（情報ボックス），85：5。

庄武憲子（2012. 3）穴喰では8月にひなまつりをするって本当ですか？。徳島県立博物館ニュース（Q&A），（86）：7。

庄武憲子（2011.12）お雑煮。徳島新聞12月16日夕刊（こども新聞）。

庄武憲子（2012. 1）年棚。徳島新聞1月6日夕刊（こども新聞）。

庄武憲子・関真由子*（2012. 3）聞き書き－常三島から見た昭和初期の吉野川。徳島地域文化研究，（10）：28-33。

庄武憲子（2011. 3）新刊紹介 高田豊輝著『徳島の歴史民俗研究録』。徳島地域文化研究，（10）：151-153。

磯本宏紀（2011. 4）唐箕。徳島新聞4月1日夕刊（こども新聞）。

磯本宏紀（2011. 5）身代わりになる人形。徳島新聞5月6日夕刊（こども新聞）。

磯本宏紀（2011. 7）こんぴら参り。徳島新聞7月15日夕刊（こども新聞）。

磯本宏紀（2011. 7）漁業移住と漁村。徳島新聞7月22日朝刊。

織野英史*・磯本宏紀（2011.11）ティロールへ負子と連枷を見に行く－四国の有志による民具調査。民具研究，（144）：88-91。

磯本宏紀（2011.12）重さをはかるために使った昔の道具を教えてください。徳島県立博物館ニュース（Q&A），（85）：7。

磯本宏紀（2012. 1）麦をつくる，野菜をつくる，茶

をつくる，海の漁，網漁，漁船，漁業と信仰，金毘羅信仰（分担執筆）。福田アジオ・内山大介・小林光一郎・鈴木英恵・萩谷良太・吉村風（編）『図解案内日本の民俗』，pp.10-15, 30-35, 218-219, 254-255。吉川弘文館，東京。

森平敏嗣*・磯本宏紀（2012. 3）平家村－勝浦郡上勝町葛又・菅蔵の伝説。徳島地域文化研究，（10）：144-146。

磯本宏紀（2012. 3）新刊紹介 正富博行著『石刻の農耕神－その発生と展開』。徳島地域文化研究，（10）：147-150。

●美術工芸

〈一般著述〉

大橋俊雄（2011.12）徳島藩士の交友の証～森川宗次の遺墨墳を訪ねて～。徳島県立博物館ニュース（歴史散歩），（85）：4。

大橋俊雄（2011.11）絵の中の秋。徳島新聞11月11日夕刊（こども新聞）。

大橋俊雄（2012. 1）刀を飾ったかわいらしいもの。徳島新聞1月20日夕刊（こども新聞）。

大橋俊雄（2012. 2）刀剣。徳島新聞2月17日夕刊（こども新聞）。

(3) 学会・研究会等での発表

（*印：館外研究者）

●動物

山田量崇・林 正美*（2011. 9）日本産ムクゲカメムシ下目（半翅目）の分類研究の現状と展望。日本昆虫学会第71回大会（松本）。

小林茂樹*・山田量崇・広渡俊哉*（2011. 9）クスノキ科の葉・茎に潜るコハモグリガ（ホソガ科）の分類と潜孔習性。日本昆虫学会第71回大会（松本）。

加藤敦史*・山田量崇（2011.12）外来昆虫ヘクソカズラゲンバイの四国における分布拡大（第2報）。日本昆虫学会近畿支部2010年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第144回例会（大阪）。

小川昌彦*・山田量崇・大原賢二*（2012. 2）徳島県のタテハチョウ類の現状。日本鱗翅学会四国支部第17回例会（新居浜）。

山田量崇・安永智秀*・市川俊英*（2012. 3）クスノギの樹液滲出部から見つかったズイムシハナカメムシ属の未記載種。第56回日本応用動物昆虫学会大会（奈良）。

●植物

小川 誠（2012. 2）市民参加型調査と博物館－タンポポ調査・2010西日本を例に－。全国科学博物館協議会第19回研究発表大会（名古屋）。

西田佐知子*・東 浩司*・内貴章世*・小川 誠 (2012. 3) 絶滅危惧かつ侵入種である日本のヒメフウロ. 日本植物分類学会第11回大阪大会 (大阪).

西脇亜也*・桑原翔太郎*・茨木靖 (2012. 9) 日本におけるススキ属植物の生育立地について. 植生学会第16回大会神戸大会 (神戸).

濱 直大*・茨木 靖 (2011. 10) 徳島県に漂着したトウダイグサ科の漂着種子. 2011年漂着物学会黒潮大会 (高知).

●地学

中尾賢一 (2012. 1) “大陸沿岸系貝類”の再検討. 日本古生物学会第161回例会夜間小集会 (富岡).

森江孝志*・辻野泰之 (2011. 10) 郷土の自然に誇りを持たせる野外観察授業. 日本地学教育学会第65回全国大会 (広島).

Hisao Hashimoto*, Keisuke Ishida*, Yasuyuki Tsujino, Takeshi Kozai* and Tetsuji Yamasaki* (2012. 3) Ammonite and radiolarian correlation revised in the Upper Cretaceous Izumi inter-arc basin, SW Japan. Scientific Committee of 13th InterRed Conference. (Cadiz, Spain).

●考古

魚島純一・茨木靖 (2011. 6) 選択的に食害される植物腊葉標本の保存に関する試み～博物館でのIPMにつながる取り組みとして～. 文化財保存修復学会第33回大会 (奈良).

●歴史

長谷川賢二 (2012. 8) 学芸員養成のありかたをめぐって. 歴史学と博物館のあり方を考える会例会 (シンポジウム) (大阪).

長谷川賢二 (2011. 9) 熊野三山奉行再考. 日本山岳修験学会第32回聖護院学術大会 (京都).

長谷川賢二 (2011. 12) 四国の「山の寺」. 「山の寺」科研総括シンポジウム (大阪).

松永友和 (2011. 6) 天保改革期大坂の人足寄場. 徳島地方史研究会 6月例会 (徳島).

松永友和 (2011. 12) 天保上知令と大坂代官. 鳴門史学会12月例会 (鳴門).

松永友和 (2012. 2) 書評会 小倉宗氏著『江戸幕府上方支配機構の研究』に接して. 大坂諸藩研究会 (吹田).

●民俗

庄武憲子 (2011. 7) 三番叟まわし・えびすまわし調査についての近況報告および資料の紹介. 徳島地域文化研究会 (徳島).

庄武憲子 (2011. 11) 写真に見る近年の正月飾り－徳島県の事例. 四国民俗学会 (高知).

織野英史*・磯本宏紀 (2011. 10) オーストリア民具調査についての報告. 四国民具研究会 (徳島).

磯本宏紀 (2011. 12) 吉野川市山川町における農具市. 阿波学会報告会 (吉野川).

磯本宏紀 (2012. 3) 徳島県のアマ研究をめぐる歳森茂先生の御業績. 四国民具研究会 (四国中央).

VI 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来次の4つを基本方針として資料を収集している。

- 1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- 2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- 3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- 4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究に役立てているだけでなく、展示や教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

23年度は3名（人文1、自然2）の文化推進員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 採集資料

●動物（脊椎動物）

椿川産オヤニラミDNA解析用サンプル 多数
駿河湾産魚類 2点

●動物（無脊椎動物）

勝浦川河口干潟の甲殻類 多数
県産クモ類 多数

●動物（昆虫）

剣山系の半翅類 多数
剣山系の蛾類 多数
県産の膜翅類 多数

●植物

県内各地の標本 多数
海浜植物標本 多数

●地学

天海山産モノチス 8点
香川県の和泉層群の異常巻きアンモナイト 3点
海陽町竹ヶ島産痕化石 2点

タッセリア 2点

2. 購入資料

平成17年度より資料の購入は行われていない。

購入資料合計 0点

3. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）

大津田川産魚類標本 多数 南部総合県民局
タヌキ 1点 大原賢二氏
ミミズハゼ属2種パラタイプ標本 5点 金川直幸氏

平成22年度吉野川東環状大橋モニタリング調査魚類標本 多数 東部県土整備局

ミナミイケカツオ標本 1点 辻 幸一氏

カルガモ剥製 1点 川内北小学校

桑野川産魚類標本 多数 南部総合県民局

ワニ・イタチ剥製 2点 明神小学校

マムシ 1点 文化の森ビルメンテナンス

鳥類文献目録 2点 早川貞臣氏

シカ角 1組 大原賢二氏

アカオネツタイチョウ 1点 成田愛治氏

マダイ骨 1点 平岡 位佐夫氏

マダイ骨 2点 平岡 位佐夫氏

ハヤブサ 1点 吉田和人氏

西日本汽水域ハゼ類標本（徳島県産） 多数 乾 隆帝氏

平成23年度那賀川・長安口ダム湖河川水辺の国勢調査魚類標本 多数 国土交通省那賀川河川事務所

キセキレイ 1点 文化の森ビルメンテナンス

ハイタカ 1点 三宅 武氏

オオフウチョウ剥製 1点 野村 秀氏

オオフウチョウ剥製 1点 赤澤律子氏

平成23年度吉野川水系ダム湖河川水辺の国勢調査魚類標本 多数 独立行政法人水資源機構総合技術センター

ニホンリス巢 1点 橋本延子氏
 平成23年度那賀川農地防災事業河川環境調査魚類標本 多数 中国四国農政局那賀川農地防災事業所
 平成23年度穴喰川環境調査魚類標本 多数 南部総合県民局
 ケヅメリクガメ 1点 井地岡孝明氏
 平成23年度那賀川・長安口ダム湖河川水辺の国勢調査魚類標本 多数 国土交通省那賀川河川事務所
 ニホンジカ頭骨 1点 大原賢二氏

●動物（無脊椎動物）

平成22年度東環状大橋環境調査底生生物標本 多数 フジタ建設コンサルタント
 トビズムカデ 2点 蔭山氏
 アダンソンハエトリ 1点 佐藤陽一氏
 桑野川環境調査ベントス標本 多数 南部総合県民局
 ヒナノズキンガイ属sp. 1点 応用地質
 平成23年度東環状大橋環境調査底生生物標本 多数 フジタ建設コンサルタント
 フナムシ 2点 和田太一氏
 キタフナムシ 2点 和田太一氏
 マメアカイソガニ 1点 和田太一氏

●動物（昆虫）

アカボシゴマダラ 1点 林 正美氏
 オオシロカミキリ 1点 長野 正氏
 ヒラズゲンセイ 1点 田島ユキ氏
 オオミズアオ 1点 西條啓司氏
 ヒラズゲンセイ 2点 尾崎 瞳氏
 桑野川環境調査昆虫標本 多数 南部総合県民局
 八重山諸島のセミ類 42点 大原賢二氏
 ミヤマクワガタ 1点 辻野泰之氏
 剣山のセミ類 5点 丸山直生氏
 平成23年度東環状大橋環境調査昆虫標本 多数 ニタコンサルタント
 リュウキュウムラサキ 4点 大原賢二氏
 1999年度国交省河川水辺の国勢調査那賀川昆虫標本 多数 四電技術コンサルタント

●植物

県内産植物標本 多数 木下 覚氏
 さく葉標本 3点 榎本 敬氏
 さく葉標本 2点 田淵武樹氏
 さく葉標本 1点 中村俊之氏
 さく葉標本 1点 森本康滋氏
 さく葉標本 3点 大原賢二氏
 さく葉標本 2点 中村 喜代治氏
 さく葉標本 1点 成田愛治氏

さく葉標本 1点 榎本 敬氏
 さく葉標本 343点 東北大学 TUS
 さく葉標本 1点 多田純子氏
 さく葉標本 1点 宇坂正子氏
 さく葉標本 1点 魚島純一氏

●地学

トウキョウホタテ 4点 鎌田誠一氏
 マンガン鉱物 6点 阿部 肇氏
 山口県産の三疊紀植物化石および種子島産二枚貝化石 2点 鎌田誠一氏・高木正信氏
 別子銅山産キースラガー 3点 阿部 肇氏
 アクチノ閃石 1点 阿部 肇氏
 上勝町藤川産の異常巻きアンモナイト 2点 川村政彦氏
 勝浦町横瀬産の前期白亜紀化石 2点 板東一郎氏
 和泉層群産の大型アンモナイト 1点 黒田武志氏
 北海道の上部白亜系蝦夷層群より産出した植物化石ほか 3点 平島 昭氏
 高超山産鉱物 3点 阿部 肇氏
 化石および鉱物 6点 大村一夫氏
 白滝鉱山産マンガン鉱物 2点 阿部 肇氏
 尿路結石 1点 中尾賢一氏
 香川県産流紋岩 1点 佐藤 溪氏・佐藤陽一氏
 新生代貝化石 5点 近畿地学会
 高知県産岩石・鉱物 2点 阿部 肇氏
 高超山産ルチル標本 3点 阿部 肇氏
 高超山産エクロジャイト・ルチル標本 3点 阿部 肇氏
 エクロジャイト 2点 阿部 肇氏
 北海道蝦夷層群産の異常巻きアンモナイト・バキューリテス 175点 辻野泰之氏
 珪線石？を含む岩石 3点 阿部 肇氏
 愛媛県産？の鉱物標本 1点 中尾賢一氏
 四国産鉱物 6点 阿部 肇氏

●考古

古銭(阿南市中林町原) 1570点 秋本沙枝子氏

●歴史

けん銃 1点 小松島警察署(多田友紀氏)
 日露戦争関係資料ほか 291点 渡邊 隆氏
 第拾七回割増金附割引勸業債券金貳拾円ほか 20点 藤本一二三氏
 同和読本ほか 2点 乾 和彦氏
 脇差(軍刀写) 1点 寒川 聰氏
 油ノ株譲り證文之事ほか 3点 森吉通博氏
 軍事郵便葉書ほか 11点 辻 保雄氏

●民俗

千歯こき（麦用）	1点	福岡洋志氏
農業大学校および農業改良課関係資料		
93点 徳島県立農林水産総合技術センター農業大学校		
阿波踊り絵はがきほか	13点	藤本良介氏
女性用木綿縞着物ほか	10点	武市信子氏
糸車ほか	31点	安丸徳広氏
活版印刷機	1点	瀬尾昇氏
五月節供職	1点	林ルイ子氏
ニュードウジメほか	3点	山本ヒロ子氏
マッチ箱コレクション		
一式	徳島県立鳴門第一高等学校	
手動ミシン・行器ほか	4点	平井英二氏
棹ばかりほか	8点	宇坂正子氏
箕、粉袋	2点	桂治氏

●美術工芸

刀・脇指	9点	森吉通博氏
------	----	-------

4. 寄託資料

平成23年度末現在で寄託されている資料は64件ある。平成23年度に新たに寄託された資料は次のとおり。

●歴史

住友家資料	139点	住友房子氏
往来手形ほか	2点	武田和昭氏
吹田家資料	60件	吹田僚氏

●美術工芸

住友竹仙書ほか	102点	三宅利久氏
---------	------	-------

5. 資料の貸し出し

実物、レプリカ、および模型などの貸し出し資料。学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」の中(p.20)に記載した。

●動物

シマドジョウ類標本	33点	福岡県保健環境研究所
ヒナノズキンガイ		
	1点	加藤真氏(京都大学大学院)
とくしま虫の国7号	1点	徳島県立図書館
トサシリボソギセル	2点	多田昭氏

●地学

ベレムナイト化石ほか		
	4点	伊庭靖弘氏(国立科学博物館)
ペグマタイト、アノーソクレスなどの鉱物標本		
	59点	鳥根県立三瓶自然館

レバノン産ウナギ化石

1点 和歌山県立自然博物館

●考古

安都真銅鐸ほか	6点	滋賀県立安土城考古博物館
破碎復元銅鐸破片	5点	山根壽己氏
八貫渡銅鐸ほか	15点	愛媛県歴史文化博物館
星河内美田銅鐸ほか	12点	徳島市立考古資料館
阪神淡路大震災時に発生した噴砂遺構切り取りほか	4点	奈良大学博物館

●歴史

御国産名物見立相撲	1点	徳島市立德島城博物館
徳島空襲被災遺物ほか	4点	徳島県立文書館
徳島空襲被災遺物ほか	3点	徳島県立文書館
阿波国絵図複製ほか		
	2点	鳴門教育大学附属図書館
板戸	1点	徳島市立德島城博物館

●美術工芸

庸八焼梅図水指ほか	8点	徳島市立德島城博物館
-----------	----	------------

6. 写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出しおよびデジタルデータの提供を含む。

●動物

当館収蔵ハゼ科魚類標本データ		
	一式	宮内庁生物学御研究所
哺乳類骨格標本画像	4点	(有)ハユマ
海産哺乳類骨格標本撮影	2点	東京海洋大学
ニホンカワウソ標本撮影	2点	東京農業大学
総合展示風景画像	1点	永嶋和子氏

●地学

徳島県産イグアノドン類(歯)の写真		
	1点	高知県立青少年センター
スッポンの仲間(GFV1164)の写真		
	1点	築地書館株式会社
縞状鉄鉱、エディアカラの化石、クサリサンゴほか		
写真	16点	財団法人千里文化財団
石英、正長石ほか写真	5点	数研出版株式会社
ティラノサウルス骨格標本写真		
	1点	小学館読売KODOMO新聞編集部

●考古

田村谷銅鐸写真	1点	四電ビジネス株式会社
樋殿谷遺跡出土大刀写真		
	1点	株式会社吉川弘文館
辰砂原石写真	1点	静岡市立登呂博物館
阿波国造墓碑(複製)写真		

1点 財団法人千里文化財団

●歴史

四国遍礼道指南ほか写真

3点 株式会社ロム・インターナショナル
万字紋首桶写真 1点 株式会社碧水社
七十一番職人歌合写真(大原女)

1点 学校法人河合塾
大日本国防婦人会襷ほか写真

4点 四国地域史研究連絡協議会
化もの絵巻写真 14点 国際日本文化研究センター
徳島藩関船板戸写真 1点 有限会社三猿舎
七十一番職人歌合写真(大原女・鍛冶・番匠)

3点 学校法人河合塾
「解放令」布達文書写真

1点 徳島県中学校人権教育研究会
徳島藩御城下絵図写真

1点 徳島市立徳島城博物館
七十一番職人歌合写真(大原女)

1点 株式会社河合出版
四国遍礼絵図ほか写真

2点 株式会社ジェー・ピー

●民俗

置葉箱写真 1点 株式会社KBC映像
山村の食膳レプリカ写真 3点 有限会社ムック
荒テグス、磨テグス写真 2点 株式会社NEXTEP
美波町阿部の海女の写真 4点 海の博物館
人形頭ほか写真 4点 財団法人千里文化財団

●美術工芸

須木一胤筆 旧徳島城図写真
1点 徳島城址を愛する会

須木一胤筆 旧徳島城図写真
1点 徳島市立徳島城博物館

庸八焼富士画黒楽茶碗写真
1点 株式会社 淡交社

村瀬魚親筆 みとものつら絵巻写真
1枚 中谷 誠氏

守住貫魚筆 全国名勝絵巻写真
1枚 株式会社 アートファクトリー

渡辺広輝筆 祖谷山絵巻映像
1点 NHK徳島放送局

徳島藩参勤交代渡海図文様小袖写真
1点 有限会社三猿舎

守住貫魚筆 白山真景図写真
1点 白山市教育委員会

7. 資料の提供

平成23年度は該当なし

8. 資料の交換

研究や展示、普及といった様々な活動に活用するために国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本については、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学と定期的な標本交換を行っている(本章の「3. 寄贈資料」および「7. 資料の提供」を参照)。

9. 館蔵資料数

平成24年3月末日現在の分野別収蔵資料数は右表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

10. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るために購入予定資料について審査する目的で設置されている。これまで委員は、徳島県立博物館資料収集委員会設置要綱に基づき、学識経験者の中から常任委員5名および必要に応じて特別委員3名以内が教育長によって委嘱されてきた。しかし、平成21年度には要綱が改正され、常任委員は置かずに対象となる資料に応じてその都度5名以内を教育長が委嘱することとなった(平成22年1月8日施行)。

平成23年度は、購入資料はなく、委員会は開催していない。

11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心と

●分野別収蔵資料数（平成24年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物（脊椎）	23,466	23,392	55	13	6
（無脊椎）	38,419	38,353	0	58	8
（昆虫）	189,625	189,208	0	7	410
植物	191,270	190,919	61	8	282
地学	9,063	8,958	103	2	0
考古	7,171	7,026	73	13	59
歴史	11,256	10,468	26	4	758
民俗	13,682	13,672	5	5	0
美術工芸	9,796	9,787	0	4	5
合計	493,748	491,783	323	114	1,528

した地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●図書冊数（データベース登録数による）

13,082冊（うち平成23年度分 寄贈図書30冊、購入図書130冊）

●購入雑誌

自然史系（14タイトル）：生物科学、科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、Cladistics、Trends in Ecology and Evolution、American Journal of Botany、Systematic Botany、Journal of Paleontology、Lethaia

人文系（29タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、文化人類学、日本の美術、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、史林、史学雑誌、民具研究、人文地理

その他（2タイトル）：博物館研究、ミューゼ

●当館刊行物の定期発送先（平成24年3月末現在）

博物館ニュース	1,221カ所
博物館年報	335カ所
研究報告（国内）	390カ所
（国外）	73カ所
展示解説	96カ所
企画展図録（自然）	120カ所
（人文）	198カ所

12. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは資料を劣化させる原因となる。そこで収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だて、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では資料の形態や量などによって、次の①～③の3種類の燻蒸を行ってきた。

①減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm（約2.3m³）である。

平成17年1月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

23年度は、減圧燻蒸装置による燻蒸を1回行った。

②常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20m²×高さ3m（約60m³）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。

平成17年1月からはこれまでの燻蒸剤に代わって酸化エチレン製剤を使用している。

23年度は、収蔵資料の燻蒸処理のため、2回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

③収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなるとともに、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者

に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

23年度は、生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫（特別収蔵庫1・2、馴化室を含む）において、酸化エチレン製剤の燻蒸剤を使用した全室密閉燻蒸を行った。燻蒸後、使用したガスは大型の活性炭吸着装置で回収した。また、燻蒸剤の使用をできるだけ少なくするために、考古収蔵庫と地学収蔵庫においては、エムペントリン製剤の噴霧による簡易燻蒸を実施した。

次回の実施は26年度の予定である。

(2) 常設展示室における害虫の発生と対策

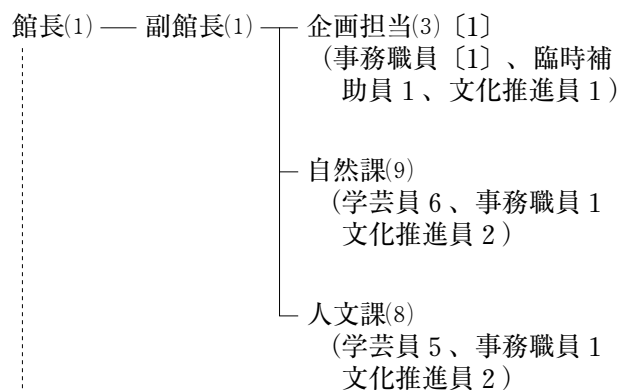
常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間でないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。実際これまでも、害虫の発生が確認されている。

22年度に害虫の発生が確認された部門展示室のケース内の一部で、23年度もタバコシバンムシの発生を確認した。しかし、当該資料を燻蒸した後、ケース内に比較的毒性の低い忌避剤等を設置した結果、大量発生には至らなかった。引き続き経過を観察したい。

VII 管理運営・マネジメント

1. 組織・職員

(1) 組織図（平成24年4月1日現在）



博物館協議会

〔 〕は兼務者数

(2) 職員名簿（平成24年4月1日現在）

館長 高島 芳弘

副館長 板東 敏之

〈企画担当〉

課長補佐 豊田 孝一

(二十一世紀館課長補佐本務)

臨時補助員 立岩 和喜

文化推進員 小原明日香

〈自然課〉

課長 佐藤 陽一 (動物)

課長補佐 三好 康彦

上席学芸員 小川 誠 (植物)

〃 中尾 賢一 (地学)

主任 茨木 靖 (植物)

〃 辻野 泰之 (地学)

〃 山田 量崇 (動物)

文化推進員 片山 康子

〃 和田 望

〈人文課〉

課長 長谷川賢二 (歴史)

上席学芸員 大橋 俊雄 (美術工芸)

学芸係長 庄武 憲子 (民俗)

主任 松岡 功

〃 磯本 宏紀 (民俗)

主任学芸員 松永 友和 (歴史)

文化推進員 植松瑞穂子

〃 松本稚代子

(3) 人事異動

退職：魚島 純一・専門学芸員、平成24年3月31日付退職、奈良大学文学部へ

〈平成24年4月1日付、カッコ内は前職〉

転出：森 稔・普及課長、見能林小学校教頭へ

転入：三好 康彦・課長補佐（三野中学校教諭）

〈教育委員会文化の森統括本部の兼務〉

24年度組織改正により、教育委員会文化の森振興総局が文化の森統括本部に再編され、次の2名が同統括本部を兼務することになった。

部長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）

高島 芳弘

副部長（博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当）

板東 敏之

(4) 平成23年度非常勤・臨時職員

●臨時補助員

篠原 麻子（平成23.5.1～24.3.31）

●文化推進員（非常勤特別職）

竹村 雅子（平成22.4.1～24.3.31）

片山 康子（平成22.4.1～）

梅岡 裕美（平成22.4.1～24.3.31）

●緊急雇用嘱託員

三木田友紀（平成23.4.1～24.3.31）

2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を下記に示す。

●平成23年度博物館費（2月現計予算額）(単位：千円)

平成23年度予算総額	28,209
管理運営	8,773
展覧事業	8,416
調査研究	3,287
収集保存	5,907
普及教育	1,826

3. 防災および危機管理

(1)危機管理体制

文化の森の3館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、鳥居龍蔵記念博物館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し訓練を行い、非常時に備えている。

(2)防災訓練

6月21日、二十一世紀館を中心とした自衛消防隊による防火防災訓練を開館時間帯に行った。来館者の協力を得て実践性を高めた。

(3)救命講習

博物館では、職員が調査等で野外に出かける機会が多いだけでなく、普及行事等においては来館者・参加者の安全を常に心がけなければならない。それには定期的な訓練が欠かせない。

今年度は、東消防署から講師に来ていただき、心肺蘇生法とAEDの使用方法の実習を行った。受講者には普通救命講習修了証が交付された。

なお、今回の講習会開催に当たっては、文化の森他館にも参加を呼びかけた。その結果、博物館から11名、鳥居記念博物館から2名、近代美術館から3名、二十一世紀館から1名、文書館から2名、図書館から4名の参加があった。

日時：平成23年6月21日（火）13：00～16：00

会場：博物館講座室



救命講習のようす

4. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に

応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

23年度は協議会を1回開催した。

●23年度博物館協議会

日時：平成23年9月2日（金）

13：30～16：10

会場：博物館講座室

議事

- (1)平成22年度事業の実施状況について
- (2)平成23年度事業計画について
- (3)その他

●徳島県立博物館協議会委員名簿

(平成24年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	下川 純代	県小学校教育研究会理科部会理事 (落合小学校長)
	三木 宏亮	県中学校社会科教育研究会会長 (井川中学校長)
	山下 知之	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 (新野高等学校教頭)
社会教育	松下 師一	松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館館長補佐兼主任学芸員
	町田 哲 (副会長)	鳴門教育大学大学院准教授
学識経験	玉有 繁 (会長)	徳島文理大学教授
	野水 祥子	県国際交流協会国際協力コーディネーター
	佐藤 陽香	徳島新聞社編集局文化部記者
家庭教育	松島真由美	八万中学校PTA本部役員
	嶋田由紀子	徳島県立博物館イベントボランティア

5. 各種研修会への参加

次のような研修会に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めた。

- ・10月12～14日 平成23年度「博物館学芸員専門講座」
(文部科学省・国立教育政策研究所主催)
専門学芸員 小川 誠
- ・1月26～27日 平成23年度研究協議会 「リニューアルの動向」(日本博物館協会主催)

学芸員 松永友和

- ・ 3月8～9日 平成23年度研究協議会 「東日本大震災に学ぶ資料管理」(日本博物館協会主催)

主任 松岡 功

6. 視察等博物館関係来訪者

- 6月9日 ミャンマー文化庁 ヌ・ムラ・ザン氏ほか
3名
- 6月18日 長野県埋蔵文化財センター
大竹憲昭氏
- 7月1日 東京消防庁消防防災資料センター
(消防博物館) 高橋公也氏ほか2名
- 7月18日 愛媛県総合科学博物館 宮内達郎氏
- 8月18日 宮崎県総合博物館 卷庄次郎氏
- 9月22日 (財)広島県教育事業団埋蔵文化財調査室
伊藤実氏
- 10月11日 大韓民国慶尚大学校 金仲燮氏
- 10月22日 奈良大学文学部 西山要一氏
- 2月22日 国学院大学文学部 青木豊氏ほか(博物館
見学実習一行)
- 2月24日 板橋区立郷土資料館 守屋幸一氏

VIII 中期活動目標と自己点検

1. 中期活動目標（平成21年9月18日策定）

近年、生涯学習社会の進展など、博物館をとりまく状況は急速に変化してきている。これまでの資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、および公的施設の運営の見直しなども進められるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16～20年度の5年間に推進すべき活動の目標を、第1期中期活動目標（以下、第1期目標）として定め、点検・評価をおこないながら事業の改善と活性化をはかってきた。平成20年度をもって第1期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら第2期目標（平成21～25年度）を策定した。

(1) 第1期中期活動目標の総括

第1期目標にもとづいて活動を進めたことにより、事業の目標が明確に可視化され、達成度が客観的に示され、経年的な傾向から将来を予測できるようになった。さらに、それらのデータを考察することで課題や問題点が明らかにされるようになり、このような情報の共有が館員の意識改革を促すきっかけとなった。そして、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

このように、第1期目標には博物館活動の改善・活性化に一定の成果があったと考えられ、その成果は年報第14～18号において公表した。

(2) 第2期中期活動目標の策定の経緯と目的

第1期目標にもとづく活動が終わる平成20年度、博物館法の一部が改正され（平成20年6月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。これを踏まえ、よりよいものとするよう次の第2期目標の策定に向けて検討を進めた。その中で、第1期目標では、博物館の事業が県民にとってどのような意義があるのか、わかりやすく示されていなかったのではないかと考え、「県民とともに」を基調として、博物館の使命（存在意義や役割）をわかりやすい形で示したうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。これにより博物館の事業全体を見渡せるようになり、個々の事業の意義や目標、評価指標の理解も容易になるのではないかと考えた。

(3) 徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱 ー県民とともに成長する博物館ー

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく学びの場として、県民のみなさんとともに成長していきます。

「知」知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての情報を発信し、県民のみなさんとともに楽しく学ぶ場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、地域の魅力を見つけます。

「伝」未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

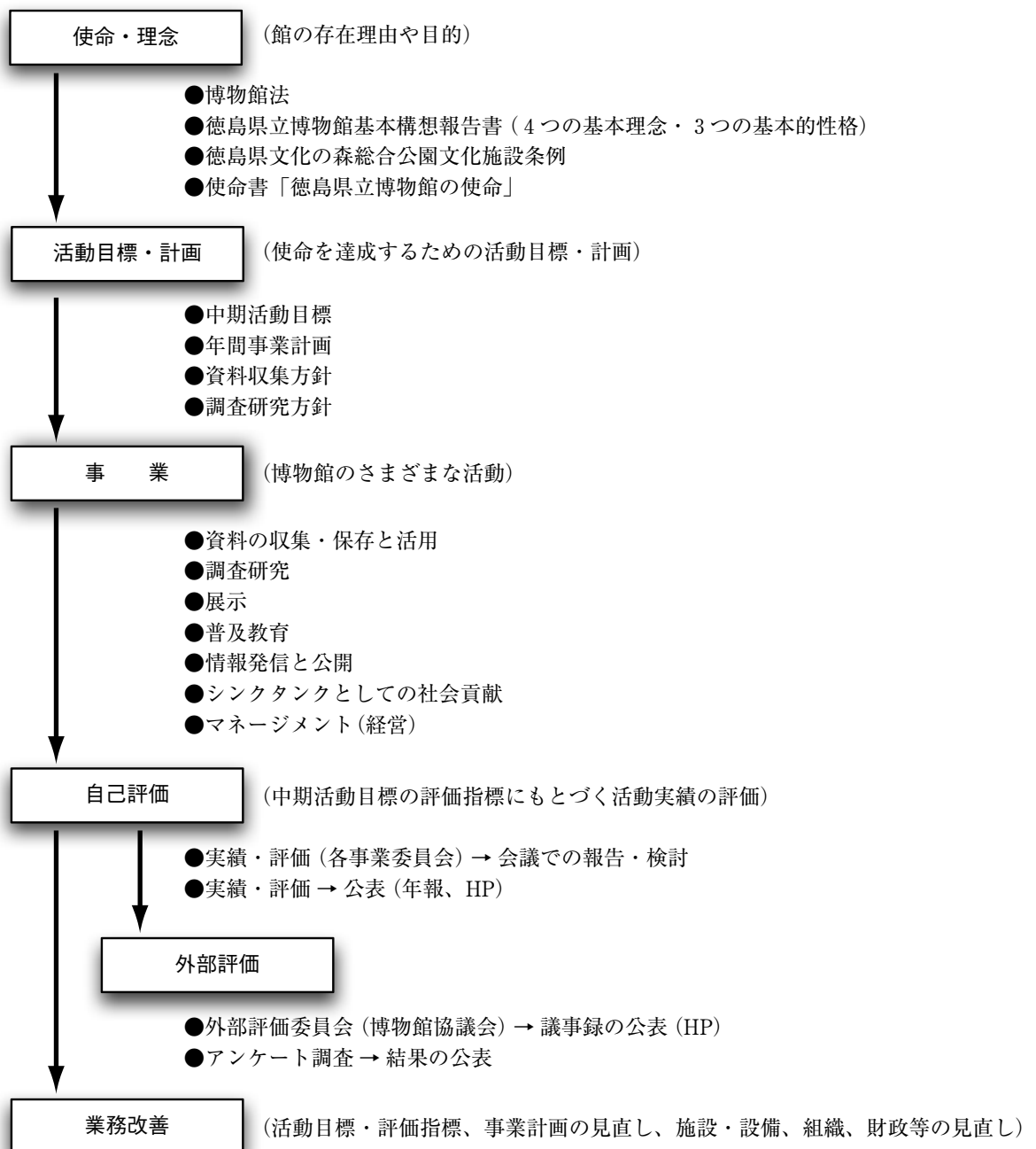
博物館では、効率的な運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

(4) 第2期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成21～25年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

- 中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
- それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
- 年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- 活動実績および評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
- 活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。

中期活動目標の推進手順



(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するためにおこなう事業は、次のとおり。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育、情報の発信と公開、およびシンクタンクとしての社会貢献
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・効率的な運営：マネジメント（経営）

以下では、事業ごとに中期活動目標の項目、評価指標、および目標値を示す。

1. 展示

県民のみなさんが楽しく学べ、新しい発見や家族のふれあいのきっかけとなる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	40,000人/年	
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合	40%	
		観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	70%	
		他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	70%	
		展示改善の実施状況	定期的に展示替えるコーナーを除く		
1-2 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1回あたりの観覧者数	自然7,000人 人文3,500人	
		観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	
		他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	
		社会的評価	マスコミによる取材・報道数	5社/回	徳・朝・毎・読・N・四
		企画展の検討状況			
1-3 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列、部門展示等の多様な展示の開催を進めます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	5回 (特1・部4)	常設展ロビーにおける資料紹介などの実績があれば算入する
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	200人	開催日数の長短の差が大きいため
		観覧者の満足度 新たな知識	アンケートにおいて新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		他人への推薦	アンケートにおいて他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		社会的評価	マスコミによる取材・報道数	5社/回	徳・朝・毎・読・N・四
1-4 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	
		移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者または協力者等を含む展示の開催回数	2回/年	「パッケージ展示の貸出数」を「移動展等館外での展示の開催回数」に含めて表記することとした（平成23年10月修正）。
1-5 展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況	年間の刊行件数		
		展示解説等の実施状況	展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
1-6 県民などとの協働による展示の推進	県民などの力を借りて、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			
1-7 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	将来の常設展の全面リニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。また、全面リニューアルの実現までの間、展示替えに努めます。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

2. 普及教育

徳島の自然や歴史、文化について体験したり、楽しく学ぶことができる多様な学習機会を提供することにより、学校教育や県民の生涯学習を支援します。(使命：「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を提供します。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数	事後アンケートにおける満足回答者の割合 他館との共催による普及行事（展示を除く）	70回/年	
		普及行事参加者数		3,000人/年	
		参加者の満足度		満足した者の割合80%	
		アウトリーチ活動数		5回/年	移動展の展示解説1件も1回とする
2-2 学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員(小・中・高)	
		出前授業件数		出前授業15件/年	
		資料貸出件数		資料貸出10件/年	
		館での授業件数			
		教員研修件数			
		職場体験件数			
		遠足件数			
2-3 普及的記事の執筆推進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況		1冊/年	
		普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	
		博物館ニュース発行回数		4回/年	
2-4 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会(個人・家族)の会員総数	400人/年	
		個人会員			
		家族会員			
		会員の継続率	当該年度会員に占める前年度会員の割合	前年度会員の70%	
		個人会員			
		家族会員			
		友の会行事実施回数		6回/年	括弧内に参加者数を並記
		展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%	
		個人会員			
		家族会員			
2-5 県民参画型活動の推進	県民参画による行事や県民による普及行事支援等の活動を推進します。	公募ボランティア登録者数			
		公募ボランティア活動回数	会合等を含む活動の延べ日数		
		企画運営型行事等件数	県民による企画展運営型行事の数		
		普及行事支援回数	県民による普及行事支援の数		

3. 情報の発信と公開

博物館の催し物案内等だけではなく、博物館活動に関するさまざまな情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、インターネットや様々なメディアを通じて積極的に情報を発信します。(使命：「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供できるよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数(月間催し物案内を含む)	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新たに新聞が取材し、報道した数		
		マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年	
3-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況	新たに開拓した広報手段		
		広報関係出版物発行状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発行回数および発送件数		
		Eメールサービス登録件数	年度末時点のEメールサービスの登録件数	250人/年	
3-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HPアクセス数	トップページへのアクセス総数	32,000件/年	
		新規コンテンツ数	新たに作られたページの数	30ページ/年	
		内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回以上	

4. シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、博物館活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
4-1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、「何でも相談にのってもらえる博物館」との評価の定着を図ります。	レファレンス件数	レファレンス記録DBにおける記録件数	300件/年	
4-2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数 講演会等の受講者数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2 出前授業件数」を参照
4-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数 機関・団体等への協力状況	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
4-4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受託、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受託数 博物館実習生受入人数 学生・院生指導人数		20人/年	
4-5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数 学会等役員受託数 学会等事務局受託数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数 学会・研究会における役員・委員等の受託数 当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
4-6 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数 博物館関連団体加入数 連携事業等の実施数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数 当館が加入している博物館関連団体の数 移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

5. 調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を、県民のみなさんおよび関連機関と連携しながらすすめ、新たな事実や価値の発見に努めます。また、成果を博物館のいろいろな活動へ還元するとともに、地域の魅力を引き出すよう努めます。（使命：「探」地域の魅力を探る博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-1 調査研究活動の推進	徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を積極的にすすめます。	課題調査実施状況 個別調査研究の実施状況	課題調査とは予算化された研究テーマ 課題調査以外の研究テーマの実施状況		
5-2 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会、研究者との共同研究を積極的にすすめます。	共同研究件数 共同研究プロジェクト件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数 上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	10件/年 3件/年	人的・予算的規模の大小は問わない 科研費プロジェクトの研究分担を含む
5-3 県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみなさんが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数		2件/年	
5-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的および民間の研究助成金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数 民間の研究助成金の申請・採択件数	科学研究費補助金など公的機関による競争的研究資金	申請6件・採択1件	
5-5 調査研究成果の公表	博物館の調査研究の成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じて公表します。	学術的著述数 学会・研究会での発表件数 マスコミへの資料提供件数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数 学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数 3-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	24本/年(査読付き4本/年) 24件/年 2件/年	学芸員数×年2本 学芸員数×年2回

6. 資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、様々な手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者、マスコミなどへ積極的に貸し出しや提供をはかり、様々な形で活用します。（使命：「伝」未来にまもり伝える博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
収集					
6-1 継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数		H25年度末で512,000点	H20年度末現在で481,981点、H23に50万点超の予定 H14～20年度の平均増加点数5,537点から H16～20年度の平均16.6件から H17年度以降0件 H14～20年度の平均82.1件、ここ5年間は89.4件 H20年度末現在で62件 H14～20年度の平均は7.9件、ただし、ここ5年間の平均は3.0件
		新規資料増加点数		6,000点/年	
		採集資料件数		20件/年	
		購入資料件数		3件/年	
		寄贈資料件数		80件/年	
6-2 寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託の受け入れを促進します。	寄託資料件数		3件/年	H20年度末現在で62件 H14～20年度の平均は7.9件、ただし、ここ5年間の平均は3.0件
		新規寄託件数			
6-3 文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数（雑誌類を除く）		H16～20年度の購入の平均137.0冊
		新規受入図書冊数	購入・寄贈図書数（雑誌類を除く）		
		購入雑誌タイトル数			
保存					
6-4 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備をはかります。	収蔵資料DB登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数)×100	50%	
6-5 資料の安全な保存	収蔵庫や展示室の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保存を図ります。	収蔵庫点検回数	収蔵庫あるいは収蔵庫内区画あたりの点検回数	6回/年	収蔵庫あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
6-6 常設展示室の資料保存環境の改善	常設展示室での安全な資料の保存環境を確保するため、空調に除湿機能を付加するよう関係方面に働きかけます。	資料保存環境の状況			
6-7 収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況			
活用					
6-8 展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進をはかります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
		常設展 常設展以外の展示			
6-9 貸し出し等の促進	貸し出しや提供などによる収蔵資料の活用をはかります。	資料特別利用等件数	学校貸出し（2・2学校への資料貸出件数を参照）を除く	60件/年	H16～20年度の平均64.2件

7. マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。（使命：効率的な運営）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者や障害者にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。	点検・改善の状況			
7-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合			
7-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事案件数 ボランティア活動参加者数 運営支援組織の検討状況	参加者の延べ人数		
7-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況 外部資金獲得数	件数		
7-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施状況 危機管理体制の整備状況			
7-6 職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。	取り組み状況			
7-7 博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立し、博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況 自己点検評価の状況 外部評価の状況			

2. 23年度実績と自己点検・評価

(1) 展示

●中期活動目標及び23年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
1-1 常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	42,429人	35,054人	39,531人
	観覧者のリピーター率	40%	47% (10～12月)	36% (7～8月)	29.9% (7～8月)
	観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	80%/回 80%/回	86% (10～12月) 90% (10～12月)	88% (7～8月) 84% (7～8月)	87% (7～8月) 85% (7～8月)
	展示改善の実施状況		3件 (チャレンジコーナー、ロビー、リフレッシュ)	2件 (小規模な展示更新、チャレンジコーナー)	2件 (小規模な展示更新、チャレンジコーナー)
1-2 多様なテーマの企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然 7,000人 人文 3,500人	15,476人 (シーラカンス)、3,681人 (貫魚)	5,909人 (ヒマラヤ)、3,539人 (藍染め)、3,019人(聖地★巡礼)	4,448人 (人形・ひとがた)、3,311人 (描かれた地震)
	観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	80%/回 80%/回	92% (シーラカンス)、88% (貫魚) 83% (シーラカンス)、75% (貫魚)	90% (ヒマラヤ)、94% (藍染め)、聖地★巡礼 (92%) 83% (ヒマラヤ)、83% (藍染め)、聖地★巡礼 (90%)	96% (ひとがた)、90% (地震) 90% (ひとがた)、89% (地震)
	社会的評価	5社/回	シーラカンス6・貫魚1	ヒマラヤ2、藍染め4、聖地★巡礼3	ひとがた3、地震6
	企画展の検討状況		23年度以降の計画の協議	24年度以降の計画の協議	25年度以降の計画の協議
1-3 多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	5回 (特1・部4)	13回 (特3・部7・ト1・他2)	13回 (特2・部8・ト2・他1)	15回 (特1・部5・ト3・他6)
	特別陳列観覧者数	200人/日	258.1人 (蝶357.3・八万134.7・マンダラ298.1)	235.5人 (人形と戦争)	333.4人 (博物館の宝もの)
	観覧者の満足度 新たな知識 他人への推薦	80%/回 80%/回		97% (人形と戦争) 91% (人形と戦争)	88% (宝もの) 77% (宝もの)
	社会的評価	5社/回	蝶3・八万1・マンダラ3	(人形と戦争) 5	宝もの2
	特別陳列等の検討状況		23年度以降の計画の協議	24年度以降の計画の協議	25年度以降の計画の協議
1-4 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数		2回 (阿波人形浄瑠璃月間ジョールリ100公演、スタジオジブリ・レイアウト展)	1回 [軌跡—継続と蓄積—]	2回 (鳥居龍蔵の見た北東アジア、鳥居龍蔵の見た台湾)

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
1-4 他機関との共同展示等の促進	移動展等の実施状況	3回/年	5回（移動展＝藍の館・東かがわ・海陽・阿波公方・美郷ほたる）	5回（阿南市科学センター・美波町・つるぎ町・海陽町・松茂町）、パッケージ貸出1回（海陽町立博物館）	1回（美波町日和佐図書・資料館）
1-5 展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録1	企画展図録2+パンフ1、徳島の自然と歴史ガイド1	企画展図録2、塗り絵帳1、立版古1
	展示解説等の実施状況		企画展解説 5回 企画展スペシャルイベント 4回 部門展示解説 7回 びっくり箱等による解説 1回 移動展解説 2回 クイズラリー（第2・4土） 24回 常設展示室活用イベント 3回 セルフガイドの設置	企画展解説 5回 企画展記念講演会 1回 企画展関連行事（映画会） 10回 特別陳列解説 12回 うち紙芝居&展示解説 10回 関連シンポジウム 1回 記念演奏&講演会 1回 ワークショップ2回 常設展示室活用イベント 3回 部門展示解説 8回 クイズラリー（第2・4土） 24回 セルフガイドの設置	企画展解説 5回 企画展記念講演会 1回 企画展関連行事（公演） 1回 企画展関連行事（ワークショップ等） 2回 企画展関連行事（実習） 4回 企画展関連行事（野外観察会） 1回 企画展関連行事（体験コーナー設置） 1回 クイズラリー（第2・4土） 24回 文化庁文化芸術振興費補助金による実演と公開展示 1回 常設展示室活用イベント 3回 部門展示解説 3回 セルフガイドの設置 ササカイトの演奏会
1-6 県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況		「八万町の昔を探ろう」 「浜辺の植物」 「貫魚」学校教育と連携	「海を渡った人形と戦争の時代」神領小学校との連携 「西日本のタンポポ」 「トグロコウイカ」	「博物館の宝もの」 「四国のコウモリ」 「中生代の化石」 職場体験の中学生による展示の作成
1-7 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		先進館調査3館（九州国立博物館・長崎歴史文化博物館・大阪市立自然史博物館） リフレッシュ事業の一部推進	先進館調査1館（雲仙岳災害記念館） 小規模な展示更新の推進	リニューアルした博物館の視察（橿原市市昆虫館、国立歴史民俗資料館、高知県立歴史民俗資料館） 小規模な展示更新の推進

●自己点検・評価

(1-1)

・常設展観覧者数は39,531人で、前年度より増えたものの、目標に達しなかった（前年度比4,477人増）。22年度と比較すると、遠足の利用が伸び悩んだことがこのような結果になった理由のひとつと考えられる。一方、7月21日～8月31日は一般家庭の節電を推進するため、博物館を含む県の12施設は無料となった。このため、8月は前年度と比較して利用者が約3,000人多かった。アンケート（7月20日～8月15日）によれば来館者のうち県内在

住者の割合は76%で、前年度よりやや低い値となった。

- ・夏休み期間中のリピーター率は57%（前年度60%：この項目に関しては無回答は集計から外した）であった。1年以内の利用経験のある「狭義のリピーター」は30%（前年度36%）となっている。前年度と比較すると、日常的に博物館を利用しない層が多かったことを示している。その理由として、観覧料が無料であったため、いつもより入りやすかったことがあると考えられる。また、徳島市、板野郡、阿南市では、「初めて」に最大ピークが、「3～5回」に第2ピークがあり、前年度同様、利用者層が二極化していることがよみとれる。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答が87%で、前年度（88%）と同様だった。目標値を上回った。
- ・常設展をほかの人に見るようすすめたいと「思う」観覧者は85%で、前年度（84%）とほぼ同様であり、目標値を上回った。
- ・「チャレンジコーナー」の感想を聞いてみたところ、「とてもよい」が22%、「よい」が49%、「あまりよくない」が6%、「悪い」が0%となった。前年度はこの質問は行っていないため比較できないが、22年度とはよく似ている（しかし回答の区分が異なるため、簡単な比較はできない）。
- ・「その他」としては、「よくわからない」「見ていない」「時間切れ」などがあつた。自由記入の項目には、もっと充実させてほしいとの意見が目立った。

(1-2)

- ・観覧者は「人形・ひとがた」で4,448人であり、目標値（3,500人）を達成した。「描かれた地震」で3,311人であり、目標値（7,000人）に達しなかった。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は、2回の企画展とも90%以上を示し、目標値を上回った。とくに「人形・ひとがた」では、96%ものきわめて高い値を示した。
- ・この展示をほかの人に見るようすすめたいと「思う」との回答は、「人形・ひとがた」で90%、「描かれた地震」で89%であり、ともに目標値を大きく上回った。
- ・22年度より、県内主要マスコミ6社のうち、展示を報道した社数として「社会的評価」とした。「人形・ひとがた」で3件、「描かれた地震」で6件であった。「描かれた地震」は、テーマ性や社会性がマスコミ関係者の注意を引いた可能性が高い。
- ・2回の企画展とも、観覧者の約90%は県内在住者であった。前年度も同様の数値であり、企画展の観覧を目的に来館する県外在住者は少ないことを示している。
- ・「人形・ひとがた」では展示室内の体験コーナー（姉様人形のしおり作り）に関する好意的な感想が目立った。
- ・「描かれた地震」では鯨絵およびアナグリフ写真（3D）に関する好意的な言及が多かった。
- ・テーマとタイミングがうまくマッチすれば、企画展観覧者の大量獲得が可能になるが、容易ではない。したがって、娯楽性、新規性、学術性等の諸要素を取り合わせた計画的運営に努めるしかないが、専門性の高いテーマの場合、広く関心を引くことができるよう広報や展示内容の工夫が今後も必要である

(1-3)

- ・特別陳列等の開催回数は15回（そのうち1回は近代美術館ギャラリーを会場とする文化の森人権啓発展）で、目標を大きく上回った。
- ・平成20年度から、多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示（人文）の展示替えに自然史のテーマを組み込んでいる。実績としては、前年度からの継続を含めて3回行った（植物1回、動物1回、地学1回）ほか、人文・自然の複数分野にまたがる展示も行った。
- ・トピックコーナーでは、前年度からの継続を含めて、4件の展示を行った。
- ・阿波の近世絵画の展示替えを4回行った。
- ・特別陳列「博物館の宝もの」の観覧者数は目標値を上回った。
- ・「社会的評価」は「博物館の宝もの」で目標値に達しなかった。

(1-4)

- ・移動展等は1回で、目標値に達しなかった。移動展は美波町日和佐図書・資料館で「空から見た徳島」を行った。パッケージ資料の貸出はなかった。

(1-5)

- ・毎年恒例となっている、年間計画外の常設展活用イベント（Vキング）もボランティアとの協働により行われた。
- ・常設展活用イベントを3回（こどもの日フェスティバル、文化の日フェスティバル、Vキング）を行った。

- ・企画展の展示解説を5回、特別陳列の展示解説を2回、部門展示の展示解説を3回行った。企画展「人形・ひとがた」では、記念講演会を1回、「三番叟まわし」公演を1回、「描かれた地震」では兵庫県立人と自然の博物館との共催で、講談+立版古ぬりえワークショップを2回、「動く断層ペーパークラフト」をつくる実習を4回、ぬり絵を1回、野外観察会を1回実施した。
- ・日本第四紀学会との共催事業「新たな視点で東四国の自然の価値を発見しよう」の一環として、常設展示室入口でサヌカイト楽器による演奏会を行った。

(1-6)

- ・特別陳列「博物館の宝もの」では、これまで県民から寄贈していただいた資料を多数展示した。また、職場体験に来ていた中学生には、展示の一部をつくってもらった。
- ・部門展示「四国のコウモリ」ではNPO法人四国自然史科学研究センター、NPO法人みんなで作る自然史博物館・香川との共催で行った。
- ・「中生代の化石」では県民（個人コレクター）の収集品も館蔵資料とともに展示した。
- ・トピックコーナーでの展示「約40年ぶりに牟岐町で発見されたアンモナイト化石」では、県民と協働して得られた成果を展示した。

(1-7)

- ・資料の入れ替えや地名の変更への対応など、予算的措置を必要としない小規模な展示更新を行った。今後も継続して行う必要がある。

(2) 教育普及

●中期活動目標及び23年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	88回	93回	72回
	普及行事参加者数	3,000人/年	8,535人	8,818人	6,003人
	参加者の満足度	満足した者の割合80%	89.6% (11行事)	95% (14行事)	94.6% (15行事)
	アウトリーチ活動数	5回/年	4回	4回	4回
2-2 学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全学校(小・中・高)
	出前授業件数	出前授業15件/年	39件	26件	30件
	資料貸出件数	資料貸出10件/年	12件	9件	10件
	館での授業件数		10件	9件	9件
	教員研修件数		3件	3件	4件
	職場体験件数		3件	2件	3件
	遠足件数		132件	109件	115件
	教員・生徒の満足度	80%	98%	100%	100%
2-3 普及的記事の執筆推進	ガイドブック出版状況	1冊/年	0冊	1冊	0冊
	普及的記事の執筆数	40件/年	68件	76件	74件
	博物館ニュース発行回数	4回/年	4回	5回	4回
2-4 友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	400人/年	294人	248人	254人
	個人会員		94人	78人	89人
	家族会員		200人 (57組)	170人 (48組)	165人 (46組)
	会員の継続率	前年度会員70%	64%	92%	87%
	個人会員		62%	92%	89%
	家族会員		66%	92%	85%

中期活動 目標の項目	評価指標	目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
2-4 友の会活動 の充実と活 性化	友の会行事実施回数	6回/年	8回(190人)	8回(166人)	8回(186人)
	展示利用率	50%	65%	62%	53%
	個人会員		60%	59%	54%
	家族会員		70%	67%	52%
	延べ利用者数	会員数	385人	341人	343人
	個人会員		181人	149人	190人
	家族会員		204人	192人	153人
	会報の発行回数	3回/年	3回	3回	3回
2-5 県民参画型 活動の推進	公募ボランティア登録 者数		22人	11人	25人
	公募ボランティア活動 回数(全体・班会合、 イベント)		合計13回 会合8回 イベント5回	合計32回 会合29回 イベント3回	合計39回 会合36回 イベント3回
	企画運営型行事等回数		3回	1回	3回(8/6-7、2/11)
	普及行事支援回数		12回	2回	2回(友の会からの 協力5/5、11/3)

●自己点検・評価

(2-1)

- ・普及行事の実施回数は、22年度の93回から72回に減った。参加者数は2,814人減少した。回数が減ったのは、22年度の特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」のような関連行事(17回)が特に多い展示がなかったためである。また、参加者数が減少したのは、22年度に開園20周年記念事業として集客力の高い文化の森サマーフェスティバルを追加的に開催したためである(4,529人)。
- ・普及行事参加者数6,003人のうち、参加数が多いのは、こどもの日フェスティバル(1,473人)、文化の森大秋祭り(1,422人)、博物館Vキング(1,402人)である。博物館Vキングはボランティアスタッフと一緒に作る内容で好評を博している。普及行事への参加者の満足度は、15行事で行ったアンケート結果からは94.6%と好評であった。

(2-2)

- ・出前授業数は前年より4件増加し、30件であった。その内訳は、徳島市内の小学校が16件で過半数を占めている。その他の学校については、20年度から遠方の小学校が増えてきており、県内への広がりを感じられる。また、学習指導要領等により博物館との積極的な連携・協力が明記されたことにより、校長会や教科部会等様々な場において利用の必要性や連携の必要性が紹介されている。そのため出前授業の件数はここ近年目標の15件を大きく上回っている。出前授業の内容で特に多かったのは、「火おこし体験」や「昔のくらしと道具」に関するもので、この2つで全体の約半数を占めている。次いで多いのが水生生物や大地のつくりや化石に関する内容で、これらが10件であった。
- ・出前授業については、教員への事後アンケートを実施している。(アンケート項目：①事前の打ち合わせ②用具や教材の準備③学芸員の解説や演示④児童生徒の興味関心の高まり⑤ねらいの達成度⑥総合評価)それによると、どの項目も好評ではあるが、特に「総合評価」において高い評価を得ている(1～5の5段階評価で4または5の割合が100%)。
- ・資料貸し出し件数については、毎年10件前後で横ばいである。その他の学校教育支援事業を含め、博物館が多彩なプログラムを実施していることを知らない教職員の多いことが原因の一つと推察される。そこで、23年度は学校向けのリーフレット「博物館を活用しよう」を改訂し、配布することにした。併せて博物館ホームページで内容紹介や利用案内の掲載を行っている。
- ・「館での授業」と「職場体験」の実績は、前年度とあまり変わらない。「遠足」については22年度より6件増加し、100件を超えた。ただ、利用は5～6月と10月に集中している。

(2-3)

- ・普及的記事の執筆数については、目標値を大きく上回っており、今後も機会あるごとに執筆を心がけていきたい。

また、20年度から「こども新聞（徳島新聞夕刊）」の連載に協力しており、23年度は33件の記事を掲載した。

(2-4)

- ・友の会会員数は、22年度は21年度に比べ46名減少したが、23年度は微増で22年度に比べ6名増加した。近年の減少は、家族会員が子どもの成長と共に、個人会員へ変更していることや新規の会員数が減少していること等が理由と考えられる。
- ・会員の継続率は、22年度92%、23年度87%と高い。友の会の活動内容に満足していただけていると考えられる。
- ・展示利用率は53%と目標を達成しているが、半数の会員が観覧料無料という友の会会員の特典を活かせていない。また、前年度の62%より下がっていることから、会員への周知を工夫する必要がある。
- ・会員が自主的に行事を立案・企画し、例年並みに8回の行事を実施した。実施後の会員の感想によると好評であった。

(2-5)

公募ボランティアは、継続ボランティアが中心となって博物館職員と共に1年間の活動を行った。またイベント当日のボランティアとして、大学生を中心に7名の協力を得た。博物館Vキングを中心に3回のイベントで活躍した。独立行政法人科学技術振興機構（JST）の支援を受けて「サイエンスフェスタ in TOKUSHIMA」としてイベントを開催し、多くの新しい企画を行った。徳島大学の科学体験フェスティバルにも引き続き参加し、アンケートなどでも好評を得た。

(3) 情報の発信と公開

●中期活動目標及び23年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
3-1 マスコミへの資料提供等の推進	資料提供件数	30件/年	31	28	30
	マスコミ取材報道件数		95	64	114
	マスコミ出演等件数	15件/年	6	15	13
3-2 広報活動の強化	広報手段の新規開拓状況			チラシやポスターの有効的な配布	チラシやポスターの有効的な配布
	広報関係出版物発行状況 年間催し物案内発行回数（発送件数）			1回（772件）	1回（681件）
	月間催し物案内発行回数（発送件数）			12回（各95件）	12回（各93件）
	博物館ニュース発行回数（発送件数）			4回（各1442件）	4回（各1221件）
	Eメールサービス登録件数	250人/年	293	297	317
3-3 インターネットによる情報発信の推進	HPアクセス数	32,000件/年	44,000件	40,000件	58,500件
	新規コンテンツ数	30ページ/年	201ページ/年	164ページ/年	74ページ/年
	内容の更新頻度	月3回以上	2.9回/月	4回/月	4回/月

●自己点検・評価

(3-1)

- ・資料提供件数は30件と前年度より2件増加し、目標値の30件/年に達した。博物館からの情報発信として、マス

コミに対する資料提供は効果的であるため、今後も積極的に続けていく必要がある。

- ・マスコミ取材報道件数については、新聞の記事として扱われた件数のみであるが、23年度は114件で、前年度から50件の大幅な増加となった。企画展「描かれた地震」や被災標本の修復作業など震災関連の取材が増えたことも一因と考えられる。
- ・マスコミ出演等件数は13件と前年度より2件減少し、目標値の15件/年にわずかに達しなかった。

(3-2)

- ・広報手段の新規開拓状況としては、こどもの日フェスティバルや文化の日フェスティバル等でチラシを効果的な時期に発送するなど、来館者数の増加が期待できるイベントにおいて広報を充実させた。
- ・広報関係出版物の発行状況として、年間催し物案内は、学校を中心に配布し、とくに小学校では県内の全児童に配布した。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、とくに小学校では理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学・高校では理科、社会科の教員に対して配布した。年間催し物案内およびニュースの発送件数がそれぞれ大幅に減少しているが、これは学校数や児童数が減少したことに加え、効果的な配布を目指して発送先リストを整理したためである。
- ・電子メールサービス登録件数は前年度より20件増え、目標値を上回った。

(3-3)

- ・インターネットによる情報発信においては、23年度1年間でトップページに約58,500件のアクセスがあった。22年度の40,000件、21年度の44,000件と比べて1万件以上増加した。
- ・新規コンテンツ数は74ページ/年と目標値を大幅に上回ったものの、前年度の半分以下となった。前年度の「徳島平和ミュージアムプロジェクト」のような新たな事業がなかったことや、端末機器を交換したことにより、更新が滞りコンテンツ数が増加しなかったものと思われる。
- ・内容の更新頻度は4回/月(49回/年)と目標値を上回り、前年度と変わりがなかった。主な更新内容として、展示案内、月間催し物案内、イベントボランティアによる活動報告が挙げられ、それぞれの更新頻度は11回、12回、10回と全体の約7割を占めている。上述の内容のみならず、博物館が発信する新しい情報を積極的に更新していく必要がある。

(4) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び23年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
4-1 レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	300件/年	384	479	480
4-2 講師派遣等の推進	講師派遣等件数		22	25	28
	講演会等の受講者数			(641)	(766)
4-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		30	31	30
	機関・団体等への協力状況				
4-4 大学教育への寄与	非常勤講師受諾数	20人/年	3	2	2
	博物館実習生受入人数		14 (10大学)	17 (10大学)	10 (6大学)
	学生・院生指導人数		0	0	2
4-5 学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		16	15	15
	学会等役員受託数		2	3	3
	学会等事務局受託数		3	3	5
4-6 博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受諾数		6	5	7
	博物館関連団体加入数		6	6	6

中期活動 目標の項目	評価指標	目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
4-6 博物館施設の 連携強化 への貢献	連携事業等の実施数		10 移動展6回、徳島県 博物館協議会講演 会・研修会、海陽町 立博物館・福井県立 恐竜博物館との連携	10 移動展5回、徳島県 博物館協議会講演 会・研修会・先進地 博物館施設調査、海 陽町立博物館・福井 県立恐竜博物館との 連携	7 移動展1回、徳島県 博物館協議会講演 会・研修会、標本レ スキュー、海陽町立 博物館・兵庫県立人 と自然の博物館・福 井県立恐竜博物館と の連携

●自己点検・評価

(4-1)

・レファレンス件数は22年度とほぼ同数で、目標値300件を大きく上回った。ただし、電話での問い合わせなど記録として残されていないものもあるため、実数はこれより多い。分野別の件数では、23年度は動物（昆虫）がもっとも多い139件で、22年度のおよそ2倍となった。次いで、歴史91件、地学85件、動物（脊椎）40件、植物37件であった。動物、歴史、地学、植物の4分野で全体の88%を占めていた（p.28参照）。

(4-2)

・23年度の講師派遣は、28件で、昨年度に比べて3件増加した。ただし、22年度と同様に、特定分野に集中する傾向が顕著で、歴史分野が11件、全体の39%を占めた。
・派遣先受講者数は、12件で受講者の概数が記録されており、766名であった。

(4-3)

・各種の委員会などの委員等の受諾数は22年度とほぼ同様の30件であった。これらのうち17件（57%）は動物・植物分野における自然環境の評価にかかわるもので占められており、県や国の公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。
・委員等に委嘱されずに各種機関・団体への協力を求められることもあるが、公共性の高いものについては、レファレンス業務や講師派遣等により可能な範囲で対応している。

(4-4)

・23年度の大学における非常勤講師の受諾数は前年度同様2件であった。
・23年度の博物館実習生の受入人数は10人で、前年度に比べて7人減少した。目標値の20人の半数であった。これとは趣旨が異なるが、同じ期間に徳島県インターンシップ実習学生4人を受け入れた。
・学生や院生の指導のための受入人数については、今のところとくに目標値は定めていない。大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。今年度は、2名受け入れた。
・県内で学芸員養成を行っている3大学の「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の文化の森での共同開講に向けた協議に参画するとともに、内容等の調整を進めた。24年度から、博物館実習以外での大学教育への協力の機会が増加することになる。

(4-5)

・23年度の学会や研究会の当館における開催数は前年度と同じである。これらには毎月例会が開催されるみどりクラブが含まれている。また、これらのうち1件は、日本第四紀学会との共催による一般向け行事である。目標値は定めていない。
・学会等役員受託数は22年度と同じである。目標値は定めていない。
・学会等の事務局受託数は2件増加した。目標値は定めていない。

(4-6)

・博物館関連団体の委員等受託数は22年度より2件増加した。目標値は定めていない。
・博物館関連団体加入数は6件で、これらのうち1件は当館が事務局を引き受けている。目標値は定めていない。
・他館等との連携事業数は、22年度より3件減少した。移動展が少なく1回だけだった。そのほか、当館が事務局を担当している徳島県博物館協議会において講演会および研修会を実施した。県内外の博物館との連携事業も行った。目標値は定めていない。

- ・博物館施設の連携の一環として、東日本大震災による被災資料（植物標本）のレスキューに協力し、陸前高田市立博物館所蔵標本の修復を行った。

(5) 調査研究

●中期活動目標及び23年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
5-1 調査研究活動の推進	課題調査実施状況		3件 (外部との共同2)	3件 (外部との共同3)	3件 (外部との共同3)
	個別調査研究の実施状況				
5-2 外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10件/年	17件	13件	13件
	共同研究プロジェクト数	3件/年	2件/年	4件/年	3件/年
5-3 県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の実績	2件/年	3件/年	3件/年	2件/年
5-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	科研費申請・採択数	申請6・採択1件/年	申請3・採択0 (継続1)	申請3・採択1 (継続1)	申請3・採択0 (継続1)
	民間研究助成金獲得状況		0件	0件	0件
5-5 調査研究成果の公表	学術論文数	22本/年 (査読付き4)	23本 (査読付き5)	26本 (査読付き9)	22本 (査読付き3)
	学会・研究会での発表件数	22回/年	15回	22回	24回
	マスコミへの資料提供件数	2件/年	1件/年	2件/年	3件/年

●自己点検・評価

(5-1)

- ・課題別、分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果を得た。
- ・学芸員相互の情報交換や研究資質向上をはかるため、学芸員や外部研究者によるセミナーを2回開催した。今後も継続していきたい。

(5-2)

- ・23年度は他機関等の研究者との共同研究数について、目標値を達成した。
- ・共同研究プロジェクトとは、予算的措置を伴う共同研究のことをさす。科学研究費補助金「アワ船」、「山の寺」、「最古の現生種化石記録から探る現生貝類群集の成立」と民間研究助成の「有明海及び中海の里海としての利用慣行と物質文化の相互研究」の4件がこれにあたり、目標を達成した。

(5-3)

- ・23年度の県民参加型調査については、継続しているアサギマダラと漂着物の調査の2件があり、目標値を達成した。

(5-4)

- ・23年度は、文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）は3件応募があったが新規採択はなかった。なお、1件が継続中である。民間の研究助成金は1件申請したものの採択されなかった。
- ・当館のような小規模な組織の場合、科研費等の競争的資金の新規獲得は容易ではないと思われるが、これらの競争的資金や研究助成金等を獲得することによって、費用のかかる研究の開始・継続が可能となる。しかしこれまでのところ、申請のあった種目のほとんどが「若手研究（B）」（39歳以下の研究者が対象）であり、一般的な「基盤研究」の申請が無い状態が続いている。「基盤研究」の申請を増やす対策が必要である。また、科研費以外の補助金についても、情報を収集し積極的に申請し、獲得を目指す必要がある。

・研究課題については、博物館の特性を生かした課題（たとえば分野の枠を越えた共同研究的なものや、博物館学に関連したものなど）を設定するなどの工夫が必要であるが、23年度は保存処理と植物の共同研究を行った。

(5-5)

- ・学術論文数は22本であり、目標値を達成した。
- ・学会・研究会での発表は24件で、前年度の実績を上回り、目標値を達成した。
- ・マスコミへの資料提供は「約40年ぶりに牟岐で発見されたアンモナイト化石」、「外国からやってきたカメムシ」と「阿波木偶箱廻し」の3件であり、目標値を達成した。これらは調査成果を展示したものであり、今後ともこのような調査成果を県民に積極的に還元する工夫が必要である。

(6) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び23年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
収集						
6-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	H25年度末で 512,000点	489,141	490,408	493,748
		新規資料増加点数	6,000点/年	7,160	1,267	3,340
		採集資料件数	20件/年	19	21	13
		購入資料件数	3件/年	0	0	0
6-2	寄託資料の受入の促進	寄贈資料件数	80件/年	90	110	106
		寄託資料件数		62	64	64
		新規寄託件数	3件/年	1	2	4
6-3	文献資料の充実	図書冊数（雑誌類除く）		12,713	12,922	13,082
		新規受入図書冊数		307	208	160
		寄贈		195	143	30
		購入		112	65	130
		購入雑誌タイトル数		48	47	45
保存						
6-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録率	50%	49.7	45.6	46.2
6-5	資料の安全な保存	収蔵庫点件回数	6回/年			
6-6	常設展示室の資料保存環境の改善	資料保存環境の状況				
6-7	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況				

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
活用						
6-8	展覧における利用促進	展示利用点数			6,175	4,519
		常設展 常設展以外の展示			5,127 1,048	438 4,081
6-9	貸し出し等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	51	53	53

●自己点検・評価

(6-1)

- ・収蔵資料点数は、前年度より3,340点増加したが、目標値の年6,000点には達しなかった。しかしながら、前年度の1,267点に比べれば、23年度は、新規資料が増えた。
- ・採集資料件数は前年度より8件少なく、目標値も7件下回った。
- ・購入資料件数は、平成17年度以降0件である。資料購入費としては100万円が計上されているが、執行の見込みは立っていない。
- ・寄贈資料件数は、前年度より4件少ないが、目標値を26件上回った。

(6-2)

新規寄託は4件で目標値を1件上回った。

(6-3)

- ・図書・雑誌については、予算などの状況にもよるので、特に目標値は定めていないが、博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるので、評価指標として取り上げている。
- ・新規受入図書冊数は、前年度に比べ、寄贈図書で減少したが、購入図書で増加した。
- ・購入雑誌タイトルは、予算削減に伴い、自然史系洋雑誌2タイトルを削減した。

(6-4)

収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた平成16年度には40.0%であった。18年度から増加しはじめ19年度以降、目標値の50%にわずかに届かないレベルで推移している。前年度に比べ、登録率はわずかに増加したが、目標値には届いていない。

(6-5)

収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管状況を点検するためのチェックリストの作成を検討中である。これまで、収蔵庫内で作業を行ったときには適宜目視によるチェックは行っているほか、各所に害虫のトラップを仕掛け、常時監視している。

(6-6)

常設展示室内の空調は温度設定のみ可能で、湿度のコントロールができない。また、近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少しており、カビの発生が懸念される。さいわい、現時点ではカビの発生は確認されていない。

(6-7)

資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケース／容器などの工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。今後、より慎重な受け入れを心がけたい。

(6-8)

第2期より収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、新たに展示における利用の点数（常設展における利用と常設展以外の展示における利用）を盛り込んだ。今年度は常設展（部門展示やトピックコーナーなど）において438点、常設展以外の展示（企画展や特別陳列、移動展）において4,081点の資料を利用した。前年度より、常設展で利用された館蔵資料が大幅に減少しているが、これは昨年度の部門展示で昆虫資料が4,000点以上展示されていたためである。常設展以外の展示は、昨年と比べ、3,033点増加した。これは、特別陳列「博物館の宝もの」で利用された館蔵資料が多かったためである。

(6-9)

収蔵資料活用の指標の一つとして、従来より資料特別利用等件数を設けている。これは他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては〔Ⅱ〕普及教育を参照のこと）。今年度は前年度の53件と同数であり、目標値より7件少なかった。

(7) マネージメント（経営）

●中期活動目標及び23年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	21年度実績	22年度実績	23年度実績
7-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況			常設展示の改善	展示室の点検および改善
7-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
	県外利用者の割合		「シーラカンス展」18% 「守住貫魚展」7.3%	「ヒマラヤ」8% 「藍染めの表象」13% 「聖地巡礼」8%	「人形・ひとがた」10% 「博物館の宝もの」9% 「描かれた地震」9%
7-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数（全体・班会合、イベント）		合計13回会合 8回イベント5回（8/8・9、11/3、11/22、2/11）	合計32回会合29回イベント3回（8/7、11/23、2/11）	合計39回会合36回イベント3回（8/6・7、2/11）
	ボランティア活動参加者数（登録者・参加述べ人数）		登録者22名参加述べ人数106名	登録者11名参加述べ人数61名	登録者25名参加述べ人数163名
	運営支援組織の検討状況		文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業「阿波の先人を通じたふるさと学習プログラム」の実施	文化庁美術館・歴史博物館基盤整備支援事業「徳島平和ミュージアムプロジェクト」の実施	県民参画型の博物館行事等の実施と仕組みづくりの検討
7-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 35,264千円	2月補正後 44,124千円	2月補正後 28,209千円
	外部資金獲得数				
7-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊総合訓練 6月、12月	自衛消防隊総合訓練 6月、12月；文化財防火デー 1月28日	自衛消防隊総合訓練 6月
	危機管理体制の整備状況				文化の森三館棟4館で連携した危機管理体制の整備
7-6 職員の意識改革と資質の向上	取り組み状況			民博でのマネジメント系の研修	文科省・国立教育政策研究所、日博協の研修
7-7 博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況		第2期の中期活動目標を策定する	今後のあり方を検討するワーキンググループを設置	ワーキンググループでの検討を継続
	自己点検評価の状況		20年度事業と第1期5年間の事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	21年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	22年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
	外部評価の状況		博物館協議会 9月18日	博物館協議会 9月30日	博物館協議会 9月2日

●自己点検・評価

(7-1)

- ・展示室の点検を日常的に行い、展示内容の改善やケースの補修にいかした。

(7-2)

- ・常設展、企画展、特別陳列をあわせた観覧者は前年に比べて増えている。23年度も企画展、特別陳列での観覧者へのアンケートを行った。県民の利用は90%程度であった。
- ・徳島県「家族でおでかけ・節電キャンペーン」の一環として、夏休み期間中の常設展入館料を無料とし、利用者の拡大を図った。

(7-3)

- ・公募ボランティアによるイベントの実施のため、職員との連携にもとづく安定的な仕組みづくりについて検討した。
- ・こどもの日フェスティバル、文化の日フェスティバルなどの参加型の博物館行事に、ボランティアや友の会会員による協力を得た。

(7-4)

- ・厳しい財政状況の中、23年度も、前年度比10%削減というシーリングは継続された。館運営予算は22年度より約16,000千円減少した。
- ・資料購入費は100万円が計上されたが、執行留保のため資料購入はできず、2月補正予算で全額減額された。

(7-5)

- ・6月の防災訓練は、4館合同で実施された。訓練は、開館時間帯に来館者に協力してもらって行い、避難誘導等の問題点の確認を行った。
- ・停電、盗難、けが人や病人の発生等に備えた防災マニュアルも整備していく必要がある。
- ・徳島市消防局による救命救急の講習を受講した。

(7-6)

文部科学省・国立教育政策研究所の研修会、日本博物館協会の研修会等に職員を派遣し、職員の資質向上に努めた。

(7-7)

- ・21年9月に策定した第2期中期活動目標に基づき、22年度事業の自己点検・評価を行い、その内容を年報やホームページに掲載した。また、9月の博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。
- ・第3期の中期活動目標の設定に向けて、ワーキンググループでの検討を継続した。

IX 観覧者統計

平成14年度から小・中・高校生の土曜、日曜、祝日及び長期休業中は、常設展、企画展とも無料になったため、無料観覧者数が大きく増えている。そのために、13年度までの無料入館者とまったく同質の表示はできなくなった。累計表においてはすべての区分での入館者数を表示するのは困難であるため、13年度までの方式で表示したものである。

●平成23年度 博物館常設展観覧者数

(単位：人)

月	開館日数	有料観覧者										有料観覧者計	無料観覧者														観覧者総数		
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					学 校 教 育					個 人				無料観覧者計							
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	大 人			高校・大学生		小・中学生	幼稚園	小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生		その他						
								高齢者	障害者	計																			
4月	26	441	7	4	257	0	0	87	16	103	0	0	812	2	259	0	0	5	491	2	323	9	1,073	373	42	21	521	2,030	2,842
5月	26	421	35	2	53	1	0	65	109	174	1	0	687	3	108	21	1,373	1	145	0	0	25	1,626	980	51	47	1,859	4,563	5,250
6月	26	478	15	19	121	0	0	90	25	115	0	0	748	1	118	3	205	0	0	0	4	323	355	11	13	314	1,016	1,764	
7月	27	322	10	2	30	22	0	47	9	56	0	0	442	2	121	2	77	0	0	0	4	198	862	78	32	1,947	3,117	3,559	
8月	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	27	0	0	0	0	0	1	27	2,095	207	160	7,186	9,675	9,675	
9月	26	519	23	4	42	45	0	48	12	60	1	0	694	2	25	2	97	0	0	0	4	122	456	37	23	784	1,422	2,116	
10月	26	420	15	7	96	0	0	85	50	135	3	1	677	2	75	10	731	0	0	0	12	806	413	28	21	552	1,820	2,497	
11月	26	294	10	12	49	0	0	80	12	92	0	2	459	5	275	8	616	1	67	0	14	958	750	45	20	1,809	3,582	4,041	
12月	24	313	13	4	25	0	1	34	9	43	0	1	400	4	87	5	123	0	0	0	9	210	279	35	14	269	807	1,207	
1月	23	515	38	6	41	3	0	67	49	116	0	1	720	3	187	1	21	0	1	9	5	217	419	36	21	474	1,167	1,887	
2月	25	380	21	7	33	0	0	75	11	86	1	2	530	1	83	8	299	2	13	2	171	13	566	639	33	23	1,231	2,492	3,022
3月	27	449	31	12	37	0	3	88	14	102	0	0	634	4	106	2	6	1	35	0	7	147	365	34	25	466	1,037	1,671	
計	309	4,552	218	79	784	71	4	766	316	1,082	6	7	6,803	30	1,471	62	3,548	10	751	5	503	107	6,273	7,986	637	420	17,412	32,728	39,531

●常設展観覧者数累計（平成2年度～平成23年度）

(単位：人)

年 度	開館日数	有料観覧者										有料観覧者計	無料観覧者														観覧者総数
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					学 校 教 育					無料入館者	その他	無料観覧者計							
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	大 人			高校・大学生		小・中学生	幼稚園	小学校	中学校	高校				計	小学生	中学生	高校生	その他		
								高齢者	障害者	計																	
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722			55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489	1,066	8,555	97,277	
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282			202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568	2,267	37,835	137,117	
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861			114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	10,264	28,484	39,797
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	11,705	31,705	44,669
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	9,157	25,372	35,637
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	11,481	29,900	41,475
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	13,497	30,320	40,632
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352	12,580	28,134	37,171
21	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	11,042	13,422	32,035	42,429
22	306	6,631	307	53	634	40	4	1,308	265	1,573	2	0	9,244	31	1,420	54	3,596	10	512	6	280	101	5,808	8,795	11,207	25,810	35,054
23	309	4,552	218	79	784	71	4	766	316	1,082	6	7	6,803	30	1,471	62	3,548	10	751	5	503	107	6,273	9,043	17,412	32,728	39,531
計	6,521	342,289	25,161	99,490	30,995	2,243	4,979	53,431	5,707	59,138	175	220	564,690	540	25,364	1,655	138,187	319	39,173	152	17,437	2,666	220,161	123,953	225,257	569,371	1,134,061

74 観覧者統計

●平成23年度 博物館企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者											無料観覧者											観覧者総数					
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計	学校					教 育						無料観覧者計				
			一般	高校生	小・中生	一般	高校生	小・中生	一般	高齢者	障害者	計	高校生		小・中生	幼稚園	保育園	小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生			その他			
第1回企画展「人形★ひとがた」	H23. 4. 23 H23. 6. 5	38	488	43	0	28	0	0	249	140	389	1	1	950	2	85	23	1,522	2	215	1	289	28	2,111	630	27	38	692	3,498	4,448
第2回企画展「描かれた地震」	H23. 10. 21 H23. 11. 27	33	500	45	5	31	0	0	274	24	298	0	0	879	4	206	15	1,170	1	67	1	44	21	1,487	417	33	12	483	2,432	3,311
合 計		71	988	88	5	59	0	0	523	164	687	1	1	1,829	6	291	38	2,692	3	282	2	333	49	3,598	1,047	60	50	1,175	5,930	7,759

●企画展観覧者数累計（平成3年度～平成23年度）

(単位：人)

開催日数	個人	団体(割引20%)	有料観覧者											無料観覧者					観覧者総数									
			一般	高校生	小・中生	一般	高校生	小・中生	減免(割引50%)			有料観覧者計	一般	高校生	小・中生	その他	無料観覧者計											
									高齢者	障害者	計																	
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949										1,288	1,288	24,237			
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949											1,143	1,143	23,092		
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443											1,732	1,732	19,175		
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	4,811	462	2,098	1,221	8,592	19,758									
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	10,103	499	4,016	2,595	17,213	32,545									
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	0	0	0	2,960	2,960	16,101									
平成9年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	0	0	0	1,981	1,981	12,200									
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	0	0	0	3,476	3,476	16,041									
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	0	0	0	2,773	2,773	12,738									
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	9,888	741	5,155	8,797	24,581	33,415									
平成13年度	90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	0	0	0	2,070	2,070	12,159									
平成14年度	93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	0	601	5,214	1,941	7,756	13,235									
平成15年度	102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	0	1,066	7,779	9,819	18,664	24,877									
平成16年度	99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94	1,305	0	3	14,310	0	365	12,106	6,029	18,500	32,810									
平成17年度	98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	0	443	7,194	2,707	10,344	18,444									
平成18年度	125	7,765	248	34	140	0	0	1,245	136	1,381	0	0	9,568	0	489	9,911	3,317	13,717	23,285									
平成19年度	115	13,178	286	60	452	4	2	1,633	321	1,954	0	0	15,936	0	606	13,437	8,284	22,327	38,263									
平成20年度	97	6,376	209	6	185	2	0	1,026	175	1,201	3	0	7,982	0	356	7,627	5,242	13,225	21,207									
平成21年度	77	5,967	218	49	234	1	1	1,263	182	1,445	1	2	7,918	0	551	7,689	2,999	11,239	19,157									
平成22年度	98	3,596	142	16	138	0	0	1,771	134	1,905	0	0	5,797	0	267	3,973	2,428	6,668	12,465									
平成23年度	71	988	88	5	59	0	0	523	164	687	1	1	1,829	0	383	4,081	1,466	5,930	7,759									
総合計	2,125	154,534	9,320	32,904	3,170	344	6,925	25,772	1,865	27,637	65	56	234,955	24,802	6,829	90,280	74,268	196,179	432,963									

●特別陳列観覧者数累計（平成4～23年度）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	平5. 2. 16～3. 21	29	6,712
掘ったてよ阿波	平6. 2. 1～2. 27	23	4,090
掘ったてよ阿波	平7. 1. 13～2. 5	21	3,165
第2回収蔵品展	平8. 2. 16～3. 17	27	5,358
第3回館蔵品展「自然コレクション」	平11. 7. 17～8. 29	38	22,372
写生大会作品展	平12. 12. 5～12. 24	18	1,850
勝瑞時代 一細川・三好氏と阿波一	平13. 10. 25～11. 25	32	5,766
丹波マンガン 鑛山の記録 一在日コリアンの労働史一	平14. 6. 25～7. 7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15. 1. 21～3. 2	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の天地を求めて 一知里幸恵「アイヌ神謡曲集」への道一	平15. 7. 19～7. 27	8	1,317
日本刀の美 一赤羽刀とその他の館蔵品一	平16. 1. 27～3. 7	35	8,698
収蔵品展	平16. 6. 18～7. 19	28	5,703
ひまわり作品展	平16. 12. 17～12. 19	3	3,221
トクミン・木工芸の道具と技	平18. 1. 8～1. 29	19	3,475
吉野川の渡し	平18. 2. 18～3. 19	26	3,848
旅と祈りの道一阿波の巡礼一	平19. 1. 19～3. 18	51	7,200
徳島城下町の世界	平20. 1. 17～3. 2	40	5,168
空から見た徳島	平21. 1. 27～3. 15	42	7,517
蝶に魅せられて 一愛好家たちのコレクション一	平21. 7. 18～8. 30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平21. 9. 19～10. 4	14	1,886
マンガラ 一チベット・ネパールの仏たち一	平21. 12. 12～平22. 2. 7	44	13,118
海を渡った人形と戦争の時代	平22. 7. 17～9. 5	44	10,364
博物館の宝物も	平23. 7. 15～9. 4	46	15,336
合 計		674	151,791

●移動展観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
昆虫の世界(海南町立博物館)	平14. 10. 26～11. 24	26	1,328
日本画書展一江戸から昭和まで一(藍住町歴史館藍の館)	平16. 12. 2～12. 27	26	898
戦争体験(藍住町立図書館)	平17. 8. 3～8. 18	14	2,342
昆虫展(藍住町立図書館)	平17. 8. 19～9. 11	21	3,210
北アメリカの植物(松茂町立歴史民俗資料館)	平18. 2. 4～3. 5	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物(海陽町立博物館)	平18. 7. 22～8. 27	32	481
牟岐大島の考古資料(牟岐町海の総合文化センター)	平19. 4. 26～5. 15	20	353
阿波の板碑(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平19. 6. 5～7. 22	42	197
中世阿波の板碑(藍の館)	平19. 8. 2～8. 27	24	4,540
くらしの中の藍染め(東かがわ市歴史民俗資料館)	平19. 10. 20～11. 18	26	291
丹波恐竜フェスティバル(兵庫県立人と自然の博物館)	平20. 5. 3～5. 5	3	4,339
和泉層群の化石(東かがわ市歴史民俗資料館)	平20. 7. 19～8. 31	38	523
海部郡の古代・中世(日和佐図書・資料館)	平20. 7. 19～9. 7	44	431
那賀川平野の貝化石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平20. 9. 25～11. 9	41	956
達磨絵百態 横山天然の世界(藍の館)	平21. 4. 4～4. 29	22	250
知らせる道具・広告(東かがわ市歴史民俗資料館)	平21. 7. 18～8. 31	39	425
浜辺の植物(海陽町立博物館)	平21. 7. 25～8. 30	32	401
国会議事堂の石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平21. 9. 25～11. 5	36	318
世界の昆虫(吉野川市美郷はたる館)	平21. 11. 21～平22. 1. 25	52	220
「シノガ」阿南 那賀川流域と県南部地域の化石展 一化石が教えてくれるもの一(阿南市科学センター)	平22. 7. 17～8. 15	26	1,431
「旅をするチョウ・アサギマダラと県南のトンボ展」 (日和佐図書・資料館)	平22. 7. 21～9. 5	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」①(貞光ゆうゆう館)	平22. 9. 18～9. 20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」②(海陽町立博物館)	平22. 9. 23～10. 3	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」③ (松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館)	平22. 10. 9～10. 17	8	1,242
空から見た徳島(日和佐図書・資料館)	平23. 7. 22～9. 11	44	1,663
合 計		696	30,353

●博物館利用者総数年度別一覧

	常 設 展		常設展観覧者合計	企画展観覧者	特別陳列観覧者	移 動 展	普及行事参加者	そ の 他	利用者総数
	有料観覧者	無料観覧者							
2 年 度	88,722	8,555	97,277	0	0		646		97,923
3 年 度	99,282	37,835	137,117	24,237	0		1,387		162,741
4 年 度	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712		1,718		110,655
5 年 度	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090		1,686		94,431
6 年 度	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165		2,843		77,913
7 年 度	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358		4,132		98,408
8 年 度	22,434	34,687	57,121	16,101	0		2,419		75,641
9 年 度	18,573	26,147	44,720	12,200	0		2,232		59,152
10 年 度	16,590	22,301	38,891	16,041	0		1,890		56,822
11 年 度	14,870	23,018	37,888	12,738	22,372		2,461		75,459
12 年 度	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850		4,513	1,561	79,471
13 年 度	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766		3,634	2,137	55,734
14 年 度	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15 年 度	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015		4,501	2,628	81,818
16 年 度	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17 年 度	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18 年 度	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19 年 度	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20 年 度	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
21 年 度	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	131,776
22 年 度	9,244	25,810	35,054	12,465	10,364	5,376	10,329	30,071	103,659
23 年 度	6,803	32,728	39,531	7,759	15,336	1,663	6,594	9,979	80,862
累 計	564,690	569,371	1,094,530	432,963	136,455	28,746	83,300	177,430	1,945,665

※特別陳列は自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発と共催事業を合わせた観覧者数。

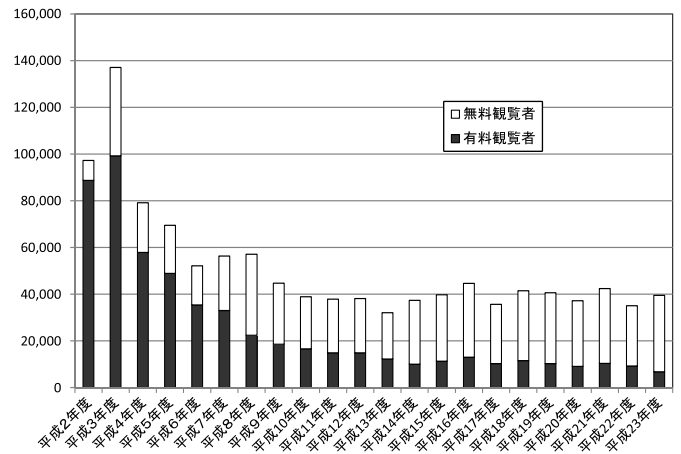
●人権啓発等観覧者

展 示 会 名	開 催 期 間	開催日数	観覧者数
2000年度同和問題啓発展	平12.8.26～9.8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13.8.4～8.12	8	1,290
〃 第2回	平13.12.4～12.9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14.7.27～8.4	8	1,066
〃 第2回	平14.12.3～12.8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15.8.2～8.10	8	1,414
〃 第2回	平15.12.2～12.7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16.8.7～8.15	8	1,568
〃 第2回	平16.12.7～12.12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17.8.6～8.14	8	1,594
〃 第2回	平17.12.6～12.11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平18.8.5～8.13	8	1,532
〃 第2回	平18.12.5～12.10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平19.12.4～12.9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平20.12.2～12.7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平21.12.1～12.6	6	430
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30～12.5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23.12.6～12.11	6	383
合 計		126	17,121

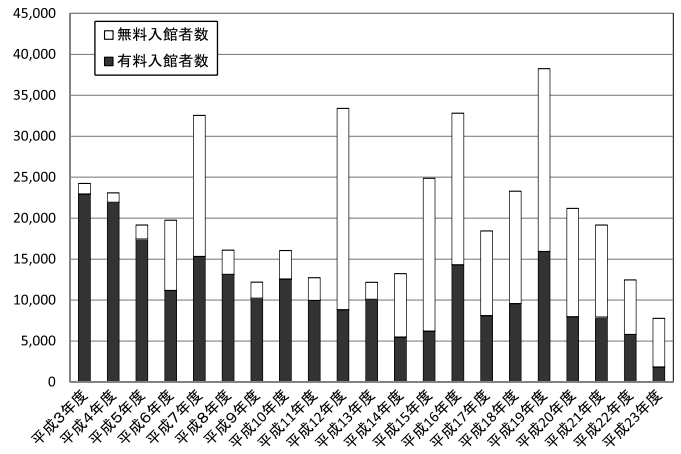
●その他(啓発を除く共催事業)観覧者数(平成15年度～)

展 示 会 名	開 催 期 間	開催日数	観覧者数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平15.7.19～8.31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平16.7.30～8.3	5	2,508
人形ウィーク	平17.8.20～8.28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平18.3.25～3.26	2	555
子どもの絵	平18.4.29～5.7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平18.5.5	1	950
日本古生物学会	平19.2.2～2.3	2	325
バラタクソノミスト養成講座	平19.2.17～2.18	2	26
第22回国国民文化祭・とくしま2007	平19.10.27～11.4	9	71,244
「天正の落日と曙光―守護町勝瑞から城下町徳島へ―(徳島城博物館)	平19.12.4～平20.1.27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平20.8.3	1	42
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平20.8.9～8.10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平20.10.18	1	80
かんさい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平20.11.15～11.16	2	10,050
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平21.8.8～8.9	2	1,212
スタジオジブリ・レイアウト展(21年度)	平22.2.20～3.31	34	33,618
スタジオジブリ・レイアウト展(22年度)	平22.4.1～4.18	16	25,113
軌跡―継続と蓄積―	平22.10.23～11.23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平23.2.5	1	53
鳥居ミュージアムトーク	平23.3.21	1	70
阿波踊りフェスタ「阿波踊りの絵はがき」	平23.7.20～8.28	36	4,038
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平23.8.6～8.7	2	1,612
鳥居龍蔵の歩いたアジアの自然	平23.10.29～12.4	32	1,347
企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」	平24.1.28～3.11	38	2,599
合 計		257	191,455

●常設展観覧者数(平成2～23年度)



●企画展観覧者数(平成3～23年度)



X 施設の概要

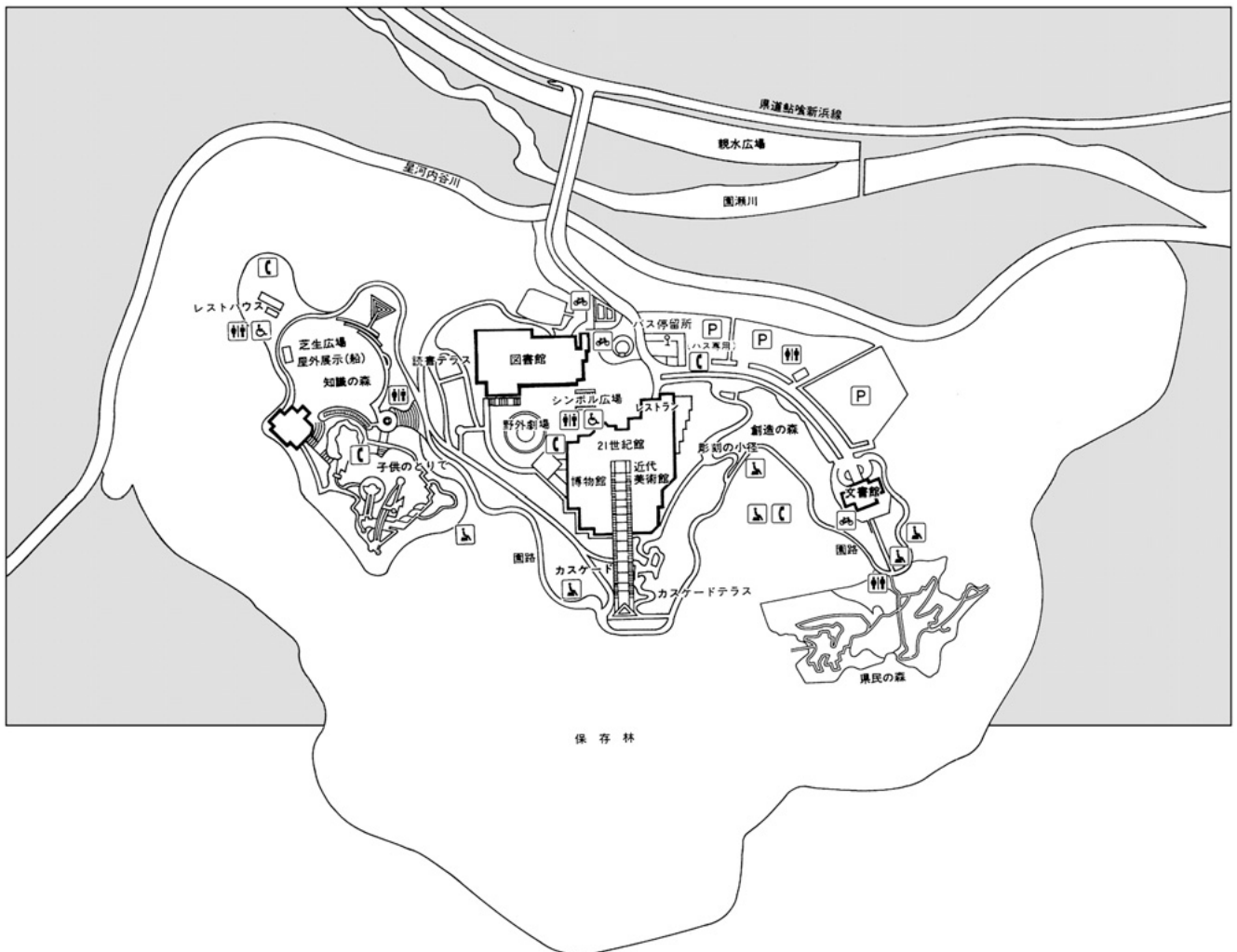
1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国プラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年7月	博物館展示工事着手
平成元年4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・二十一世紀館棟本体工事竣工
平成2年3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成3年2月	博物館資料収集委員会設置
平成4年3月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成8年4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施
平成15年7月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される

2. 施設の概要

●所在地	徳島市八万町向寺山
●敷地面積	40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積	8,363㎡（3館棟）
●延床面積	22,382㎡（4館合計－積層部分を含めると23,814㎡） 8,063㎡（博物館占用スペース）
●構造規模	鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階

- 設 計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施 行
- 建 築 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
- 電 気 四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
- 空 調 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
- 管 朝日工業社・大成設備 共同企業体
- エレベータ (株)東芝
- 家 具 富士ファニチア(株)
- 移動展示ケース (株)三井
- 展 示 (株)丹青社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
その他共用部分※	771
小計	1,973

3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室1	64
分析室2	48
X線撮影室	48
保存処理室2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

2 階	
室名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

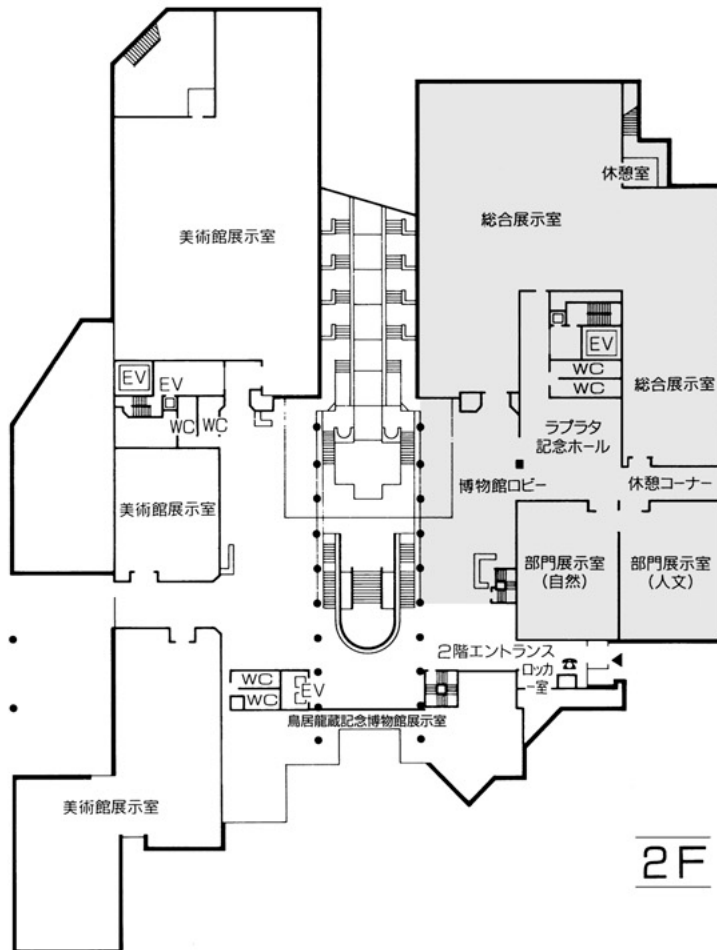
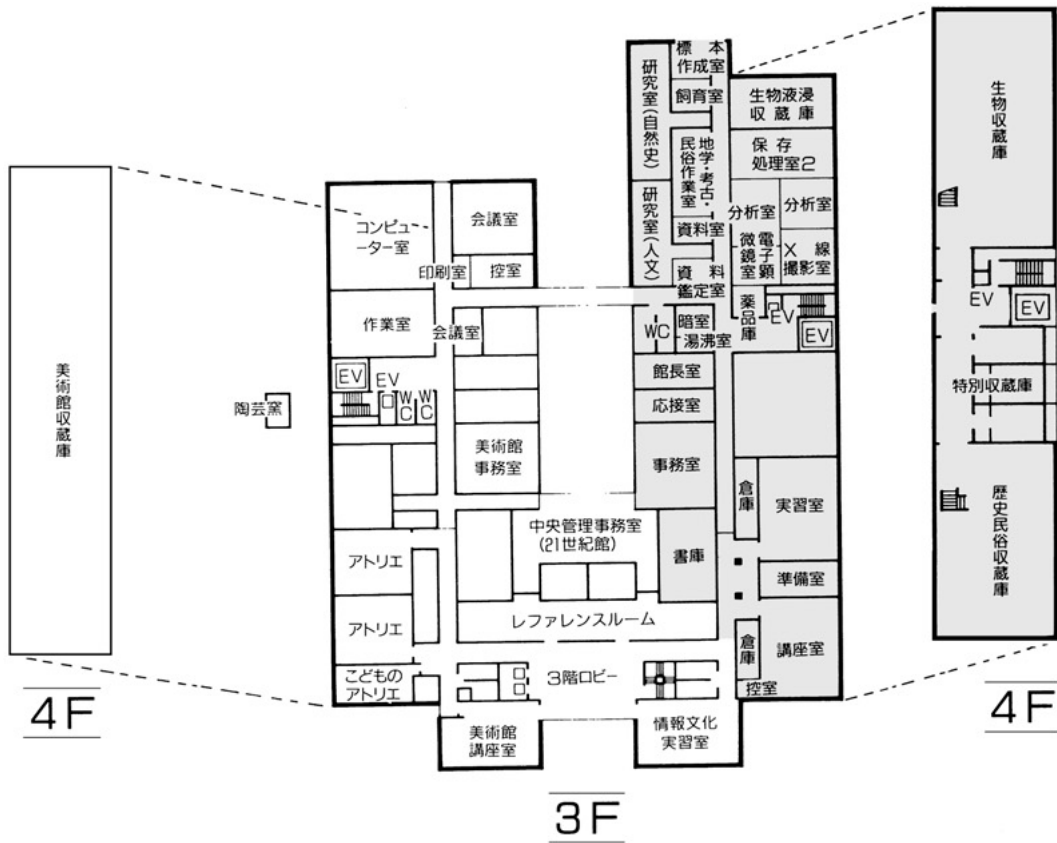
4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫1	37
特別収蔵庫2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

屋1階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合計	
8,063㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。





XI 例規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 平成24年3月26日 徳島県条例第31号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立二十一世紀館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 (省略)

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協 議 会 の 名 称	所 掌 事 務
徳 島 県 立 博 物 館 協 議 会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(他館の各協議会の所掌事務は省略)

- 2 協議会は、委員10人以内で組織する。
- 3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。
- 4 (省略)
- 5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 委員は、再任されることができる。
- 7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区 分	単 位	金 額			
		常 設 展		企 画 展	
		個 人	団体 (20人以上をいう。以下同じ。)	個 人	団 体
小学校の児童及び中学校の生徒	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者 (学齢に達しない者を除く。)	1人1回	200円	160円		

●徳島県立博物館管理規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

改正 平成8年3月29日 徳島県教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館 (以下「博物館」という。) の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律 (昭和23年法律第178号) に規定する休日 (以下「休日」という。) に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長 (以下「館長」という。) は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

●徳島県立博物館協議会規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号
最近改正 平成24年3月30日 徳島県教育委員会規則第9号

第1章 総則（省略）

第2章 事務局（省略）

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に自然課及び人文課を置く。

2 前項の課の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(所長等の職務)

第32条 総合教育センター及び埋蔵文化財総合センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(副所長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館

(総合教育センターその他の次長は省略)

2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、教育委員会が指定する職員が、その職務を代行する。ただし、やむを得ない事由により教育委員会が教育機関の長の職務を代行する職員を指定することができないときは、当該機関に属する副所長、次長又は副館長（二人以上置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長）が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
課 長 補 佐	上司の命を受け、特に高度の知識又は経験を必要とする事務、技術又は専門的事務に従事する。
上 席 学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する専門的事務に従事する。
学 芸 係 長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に関し命ぜられた事項を処理する。
主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は技術若しくは専門的事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

第4章 附属機関

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	庶務を担当する課等又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の協議会等は省略)

徳島県立博物館年報 第21号 (平成23年度)

平成24(2012)年7月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

(文化の森総合公園内)

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

Eメール museum@mt.tokushima-ec.ed.jp

ホームページ <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>

印 刷：原田印刷出版株式会社
